

2009年認定看護師新規認定者 活動状況調査結果

目 次

調査概要

I. 全体結果

1	認定看護師教育機関在学中について	1
1)	勤務形態	
2)	給与の支給状況	
3)	賞与の支給状況	
4)	特別手当(赴任旅費等)の支給状況	
5)	教育課程受験料の支給状況	
6)	入学金や研修費など学費の援助の有無	
7)	認定看護師教育課程在学中の奨学金利用状況	
2	現在の所属施設について	10
3	現在の待遇について	13
4	現在の活動について	16
5	今後の活動について	19
6	考察	22

II. 分野別結果

以下4項目の分野別結果(17分野)

- | |
|---|
| 1) 認定看護師教育課程入学前、終了後、資格取得後の職位について |
| 2) 認定看護師教育課程入学前、終了後、資格取得後の認定看護分野における実践時間数について |
| 3) 認定看護師教育課程入学前、終了後、資格取得後の活動範囲について |
| 4) 今後の活動について |

1	救急看護	23	10	新生児集中ケア	59
2	皮膚・排泄ケア	27	11	透析看護	63
3	集中ケア	31	12	手術看護	67
4	緩和ケア	35	13	訪問看護	71
5	がん化学療法看護	39	14	乳がん看護	75
6	がん性疼痛看護	43	15	摂食・嚥下障害看護	79
7	感染管理	47	16	小児救急看護	83
8	糖尿病看護	51	17	認知症看護	87
9	不妊症看護	55			

調査概要

1. 目的

2009年認定看護師新規認定者の活動及び処遇の実態を把握し、資格認定制度推進のための基礎資料とする。

2. 対象

2009年に新たに認定された認定看護師 1,356名(表1)

分野	新規認定者数(名)
救急看護	63
皮膚・排泄ケア	317
集中ケア	54
緩和ケア	182
がん化学療法看護	148
がん性疼痛看護	73
感染管理	195
糖尿病看護	27
不妊症看護	15
新生児集中ケア	27
透析看護	21
手術看護	34
訪問看護	66
乳がん看護	28
摂食・嚥下障害看護	47
小児救急看護	26
認知症看護	33
全 17 分野 合計	1,356

<表1 2009年認定看護師新規認定者の内訳>

3. 時期

2009年6月8日～6月30日

4. 調査事項

教育課程入学前～資格取得後の勤務形態・待遇・活動時間と範囲等の変化、今後5年間で力を入れて取り組んでいきたい活動について、調査時の所属施設について 等

5. 調査の方法

調査票の配布および回収は郵送により行った。

6. 調査票の回収状況

配布数 1,356部 回収数 1,356部(内訳は表1参照)

回収率 100%

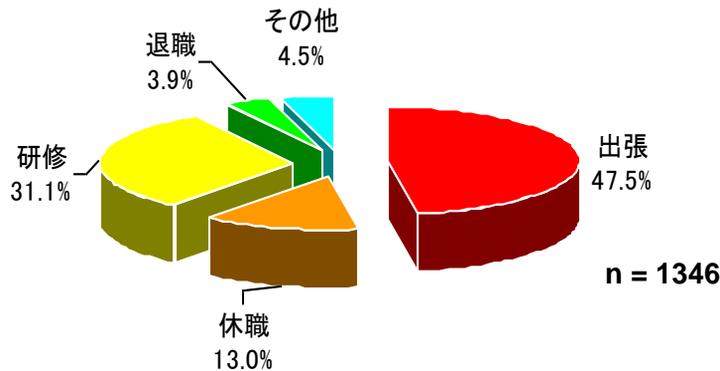
I. 全体結果

*すべての集計は無回答者を除いて行った

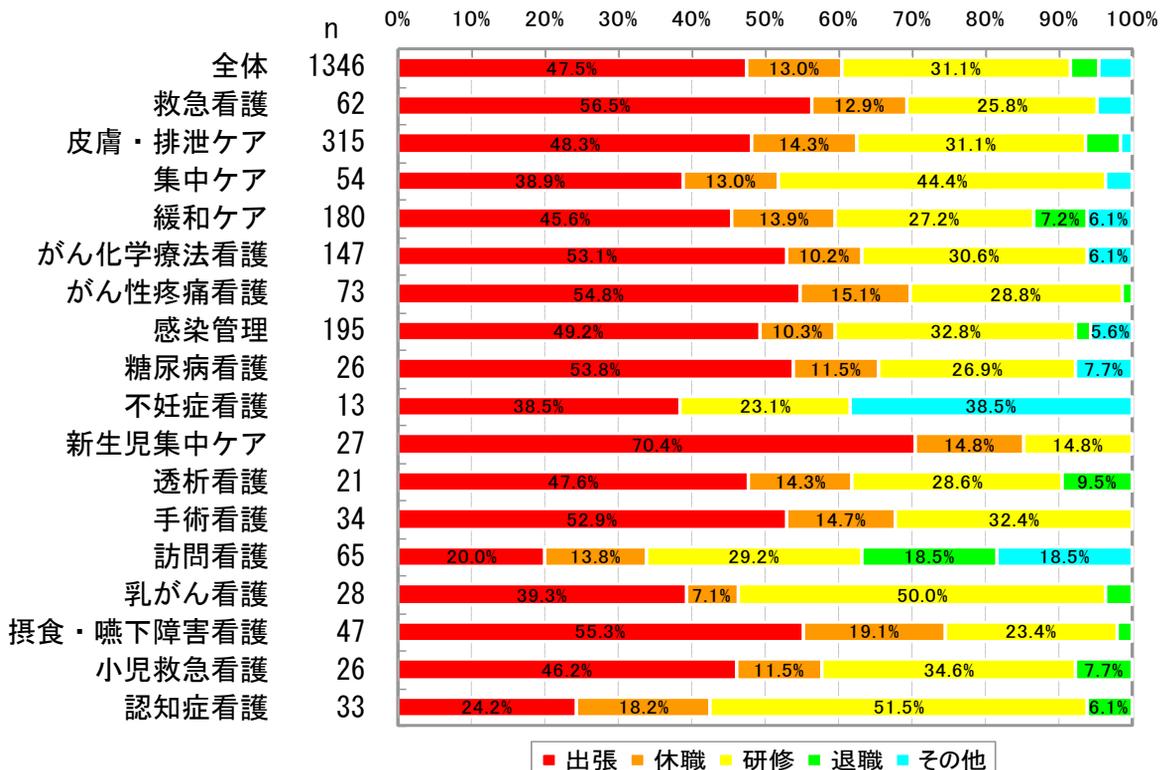
1. 認定看護師教育機関在学中について

1) 勤務形態

(1) 認定者全体



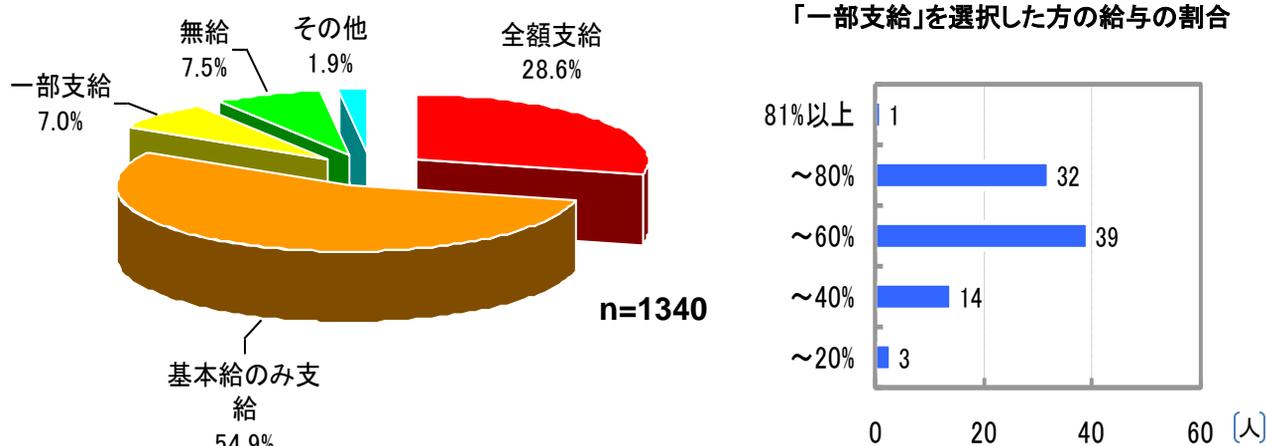
<図1. 認定者全体の在学中の勤務形態(全体)>



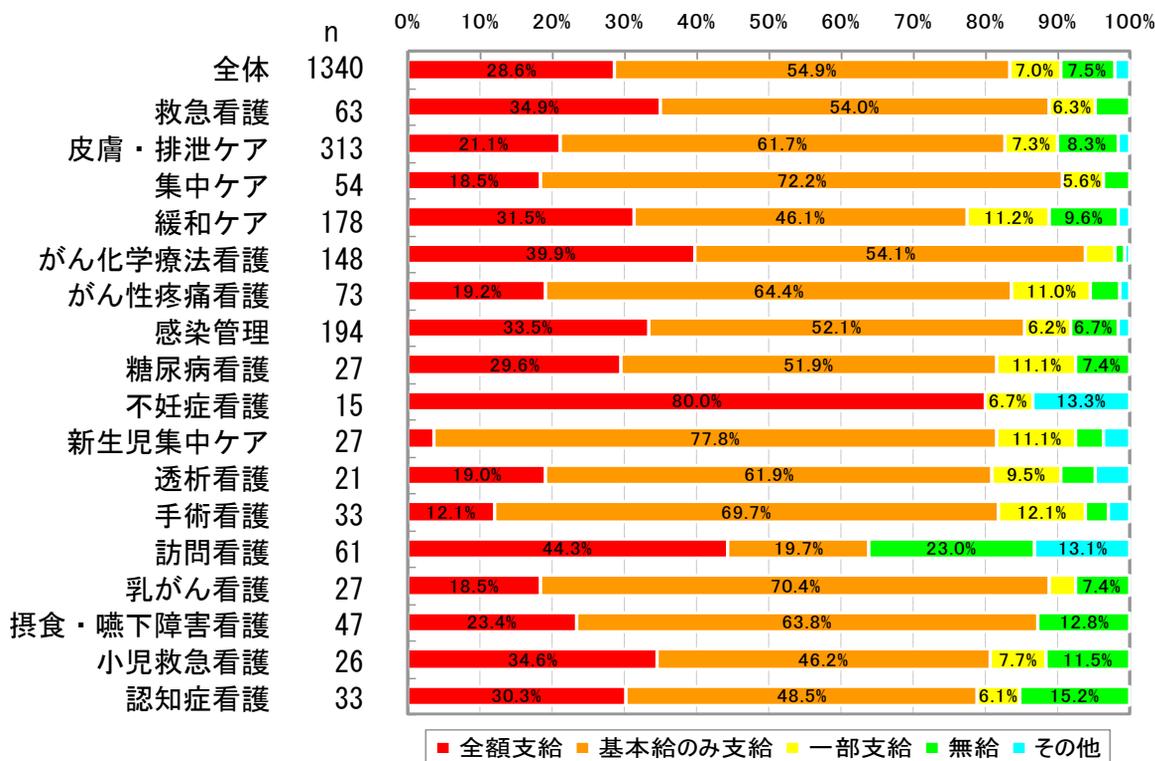
<図2. 認定者全体の在学中の勤務形態(分野別)>

認定看護師教育課程在学中の勤務形態は、全体では、「出張」扱いが47.5%、次いで「研修」扱いが31.1%であった。一方、「休職」扱いは13.0%、退職して入学した者は3.9%であった(図1)。分野別にみると「出張」扱いが最も多かったのは「新生児集中ケア」で70.4%、「研修」扱いが最も多かったのは、「認知症看護」で51.5%、「休職」扱いが最も多かったのは、「摂食・嚥下障害看護」で19.1%、退職して入学した者が最も多かったのは「訪問看護」で18.5%であった(図2)。

2) 給与の支給状況



<図5. 在学中の給与の支給状況(全体)>

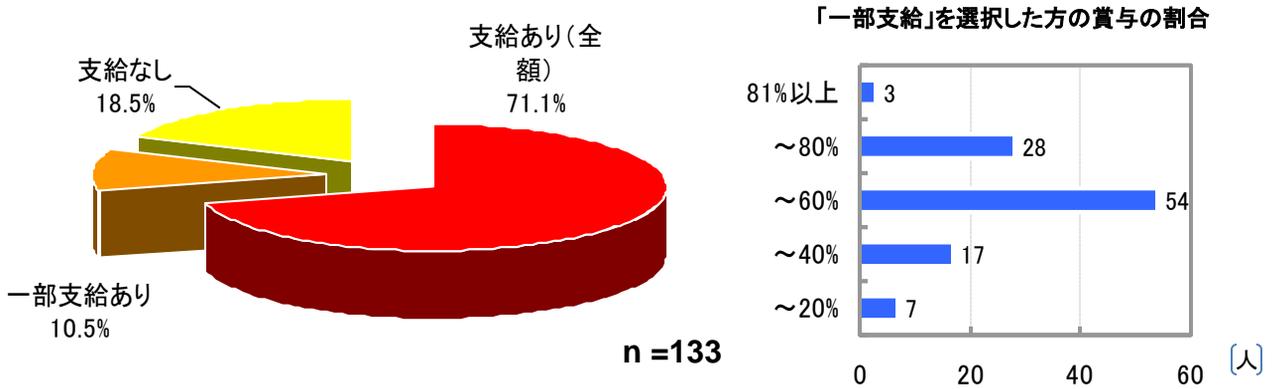


<図6. 在学中の給与の支給状況(分野別)>

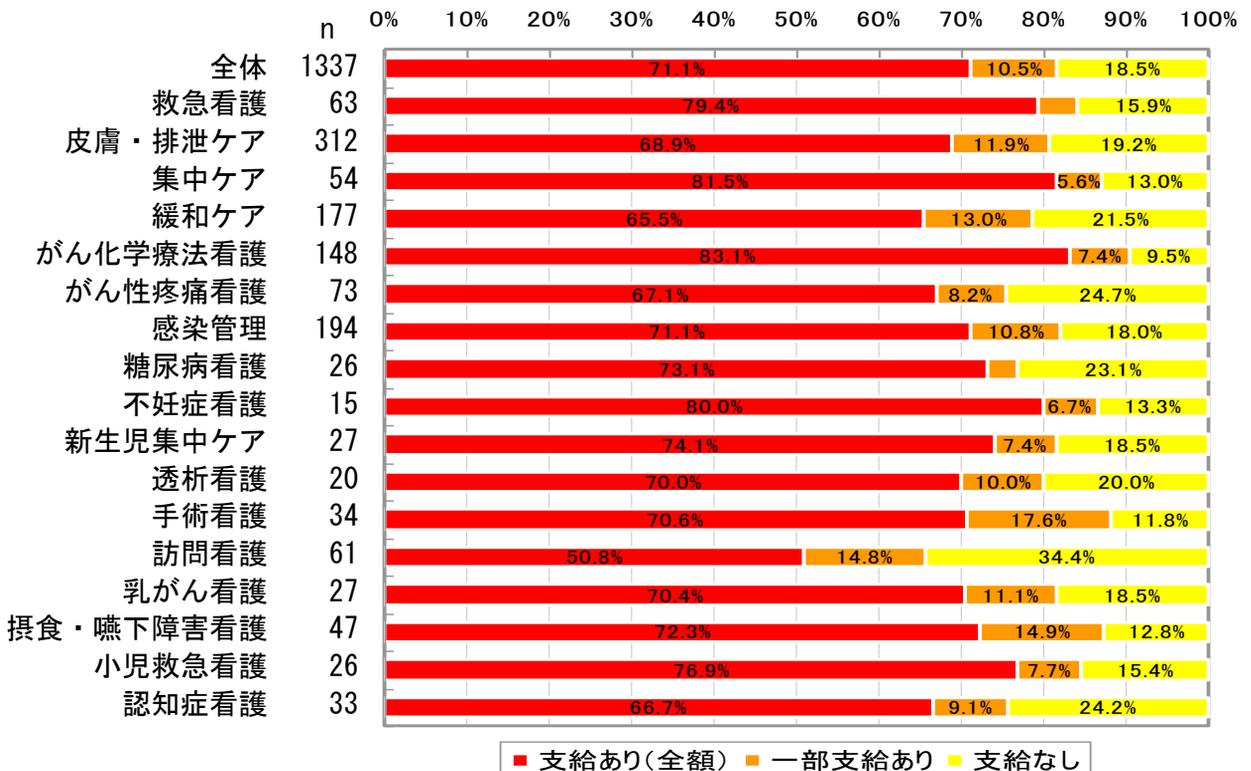
認定看護師教育課程在学中の給与の支給状況は、全体では、「基本給のみ支給」が54.9%、次いで「全額支給」が28.6%、「一部支給」が7.0%であった(図5)。

分野別にみると、「全額支給」は「不妊症看護」が80%で最も多かった。「訪問看護」では「全額支給」は「不妊症看護」に次いで44.3%であったが、「無給」も23.0%で最も多かった。「訪問看護」に次いで「無給」が多かったのは「認知症看護」で15.2%であった(図6)。

3) 賞与の支給状況



<図7. 在学中の賞与の支給状況(全体)>

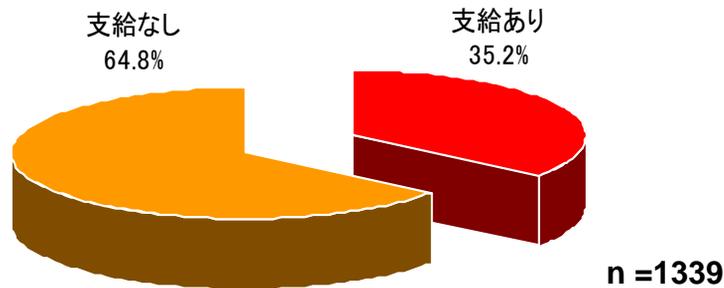


<図8. 在学中の賞与の支給状況(分野別)>

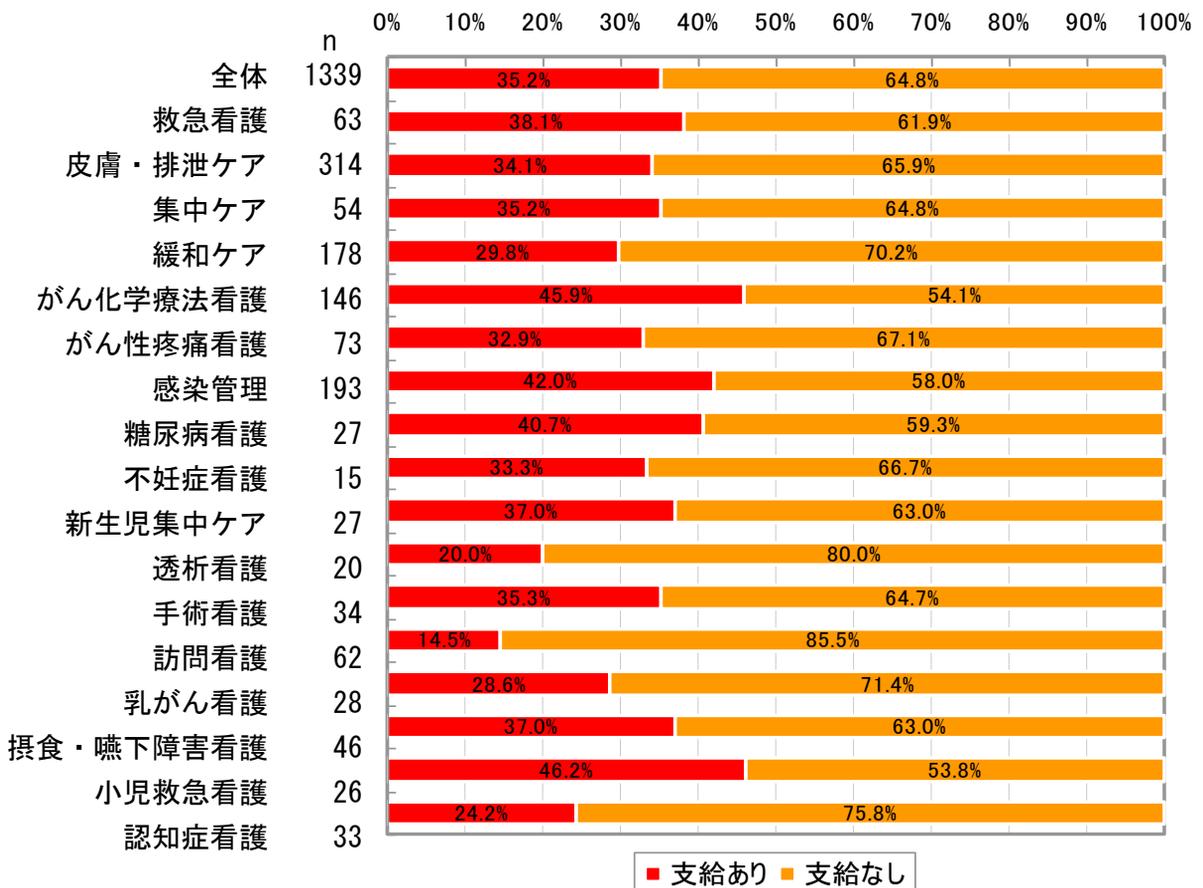
認定看護師教育課程在学中の賞与の支給状況は、全体では、「支給あり(全額)」が71.1%、「一部支給あり」が10.5%、「支給なし」が18.5%であった(図7)。

分野別にみると「支給あり(全額)」は「がん化学療法看護」が83.1%で最も多く、「支給なし」は「訪問看護」が34.4%で最も多く、次いで「がん性疼痛看護」が24.7%、「認知症看護」が24.2%であった。(図8)。

4) 特別手当(赴任旅費等)の支給状況



<図9. 在学中の特別手当(赴任旅費等)の支給状況(全体)>

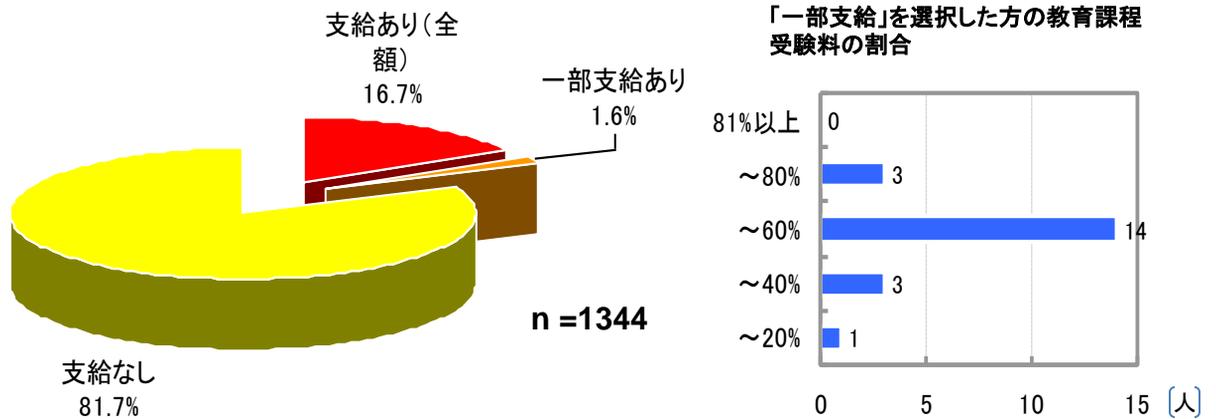


<図10. 在学中の特別手当(赴任旅費等)の支給状況(分野別)>

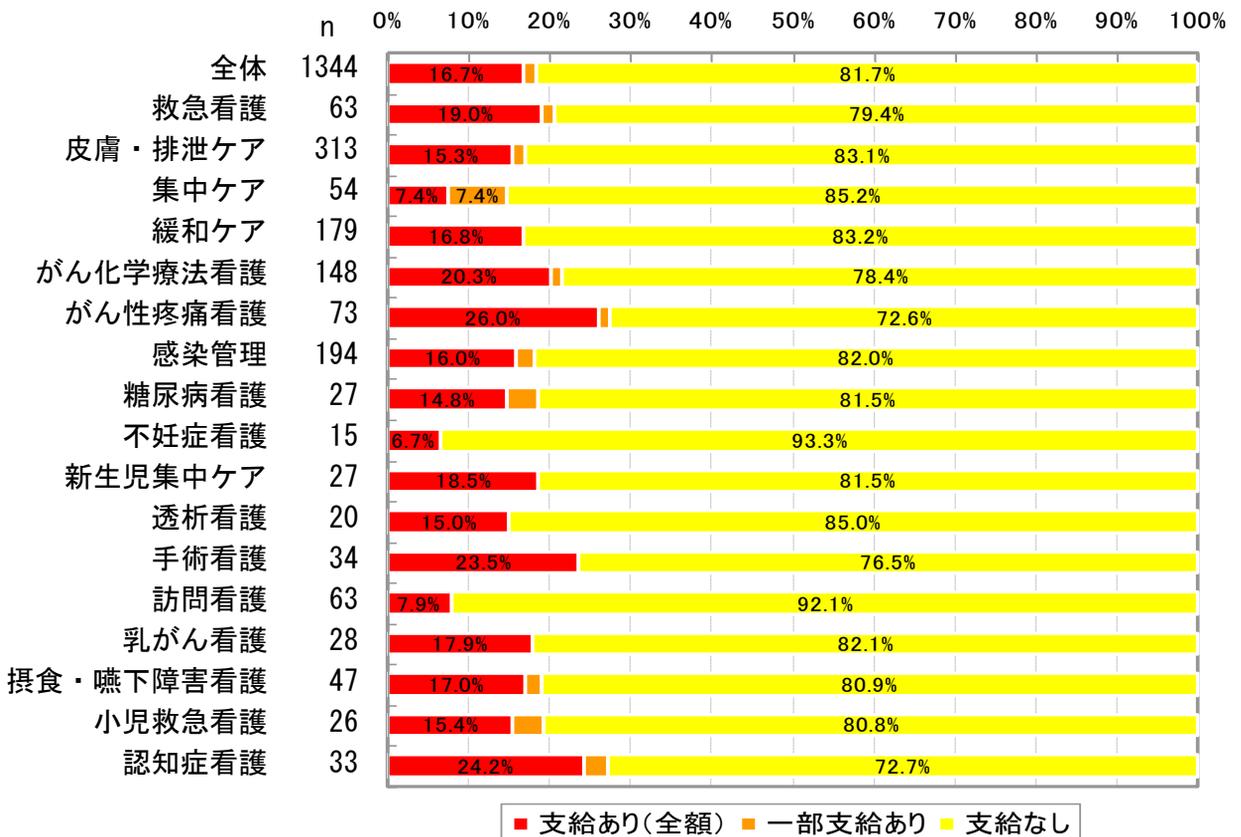
認定看護師教育課程在学中の特別手当(赴任旅費等)の支給状況は、全体では、「支給あり」が35.2%、「支給なし」が64.8%であった(図9)。

分野別にみると「支給あり」は「がん化学療法看護」が45.9%で最も多く、「支給なし」は「訪問看護」が34%で最も多く、次いで「認知症看護」が24.2%であった(図10)。

5) 所属施設による教育課程受験料の支給状況



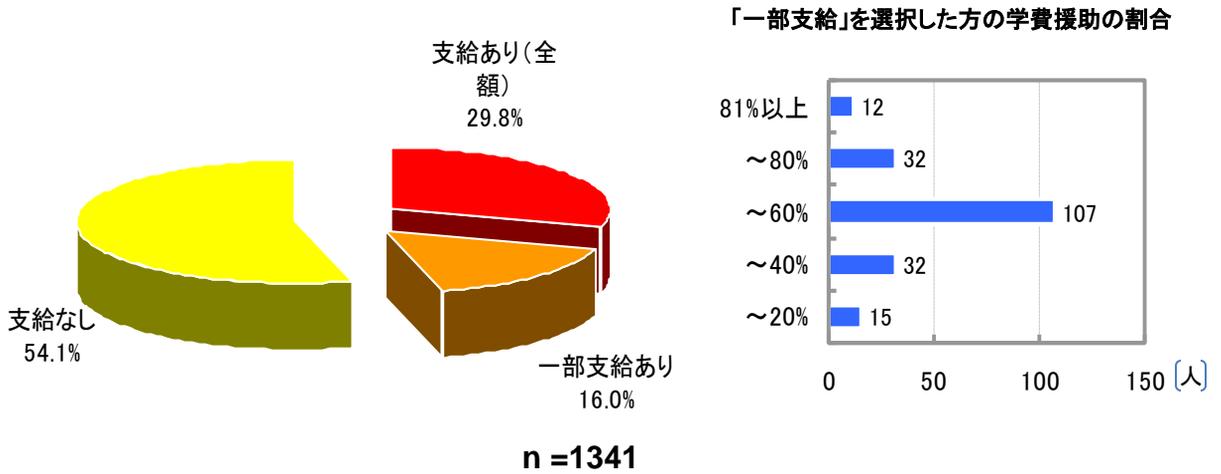
<図11. 在学中の教育課程受験料の支給状況(全体)>



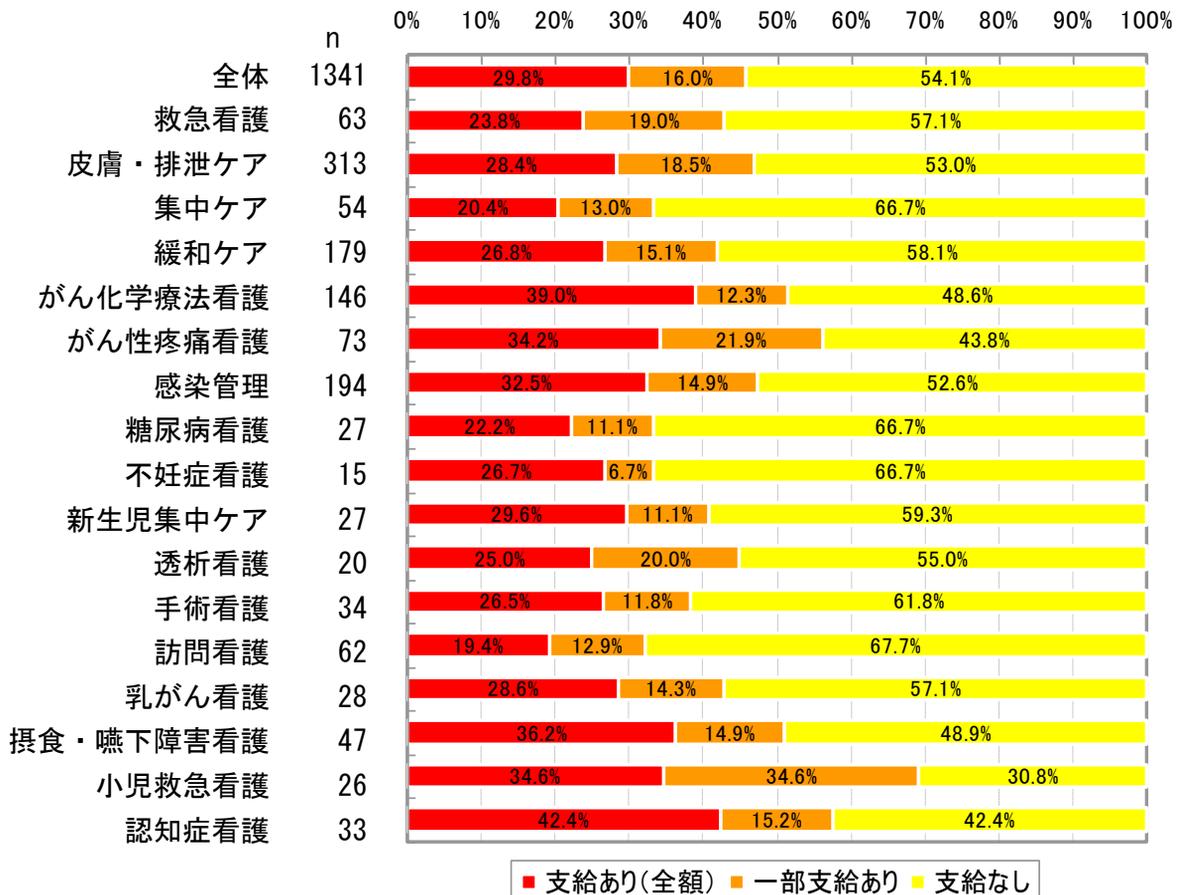
<図12. 在学中の教育課程受験料の支給状況(分界別)>

認定看護師教育課程在学中の、所属施設による教育課程受験料の支給状況は、全体では81.7%が「支給なし」、「全額支給」は16.7%、「一部支給」は1.6%であった(図11)。分野別にみると、「支給あり(全額)」は、「がん性疼痛看護」が26.0%で最も多く、次いで「認知症看護」が24.2%、「手術看護」が23.5%であった(図12)。

6) 所属施設による入学金や研修費など学費援助の有無



<図13. 在学中の学費援助の有無(全体)>

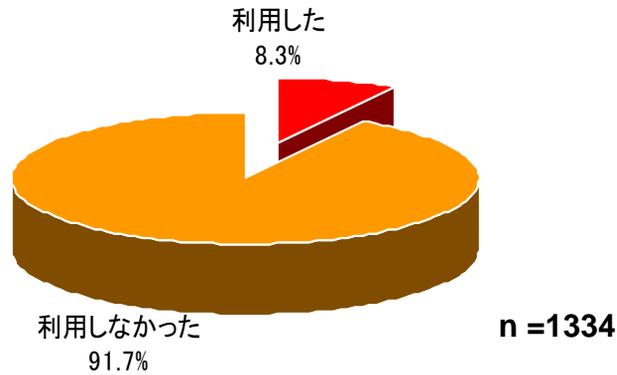


<図14. 在学中の学費援助の有無(分野別)>

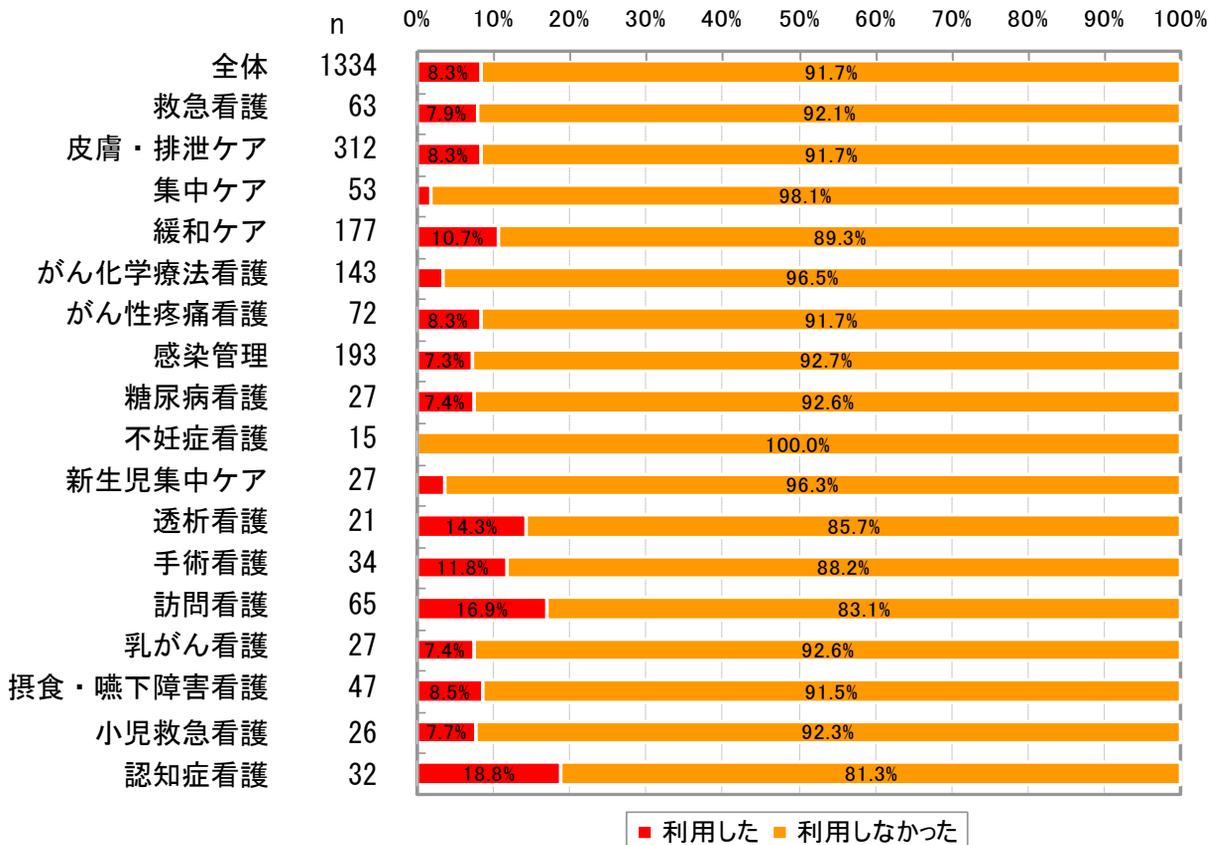
認定看護師教育課程在学中の、所属施設による入学金や研修費など学費援助の有無は、全体では、「支給なし」が54.1%、「支給あり(全額)」が29.8%、「一部支給あり」が16.0%であった(図13)。

分野別にみると、「支給あり(全額)」は「認知症看護」が42.4%で最も多く次いで「がん化学療法看護」が39.0%であった。「支給あり(全額)」 「一部支給あり」を合わせた割合は「小児救急看護」で最も多く、69.2%であった(図14)。

2. 認定看護師教育課程在学中の奨学金利用状況



<図15. 在学中の奨学金の利用(全体)>



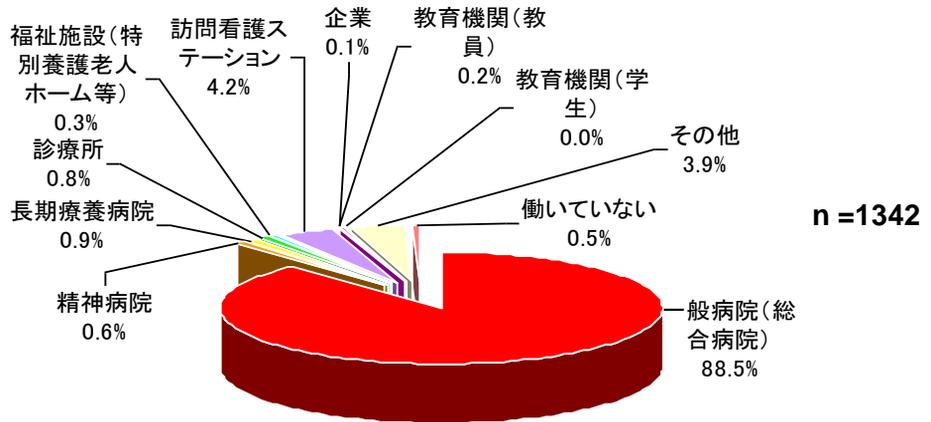
<図16. 在学中の奨学金の利用(分野別)>

認定看護師教育課程在学中の奨学金の利用状況は、全体では「利用しなかった」が91.7%であった(図15)。

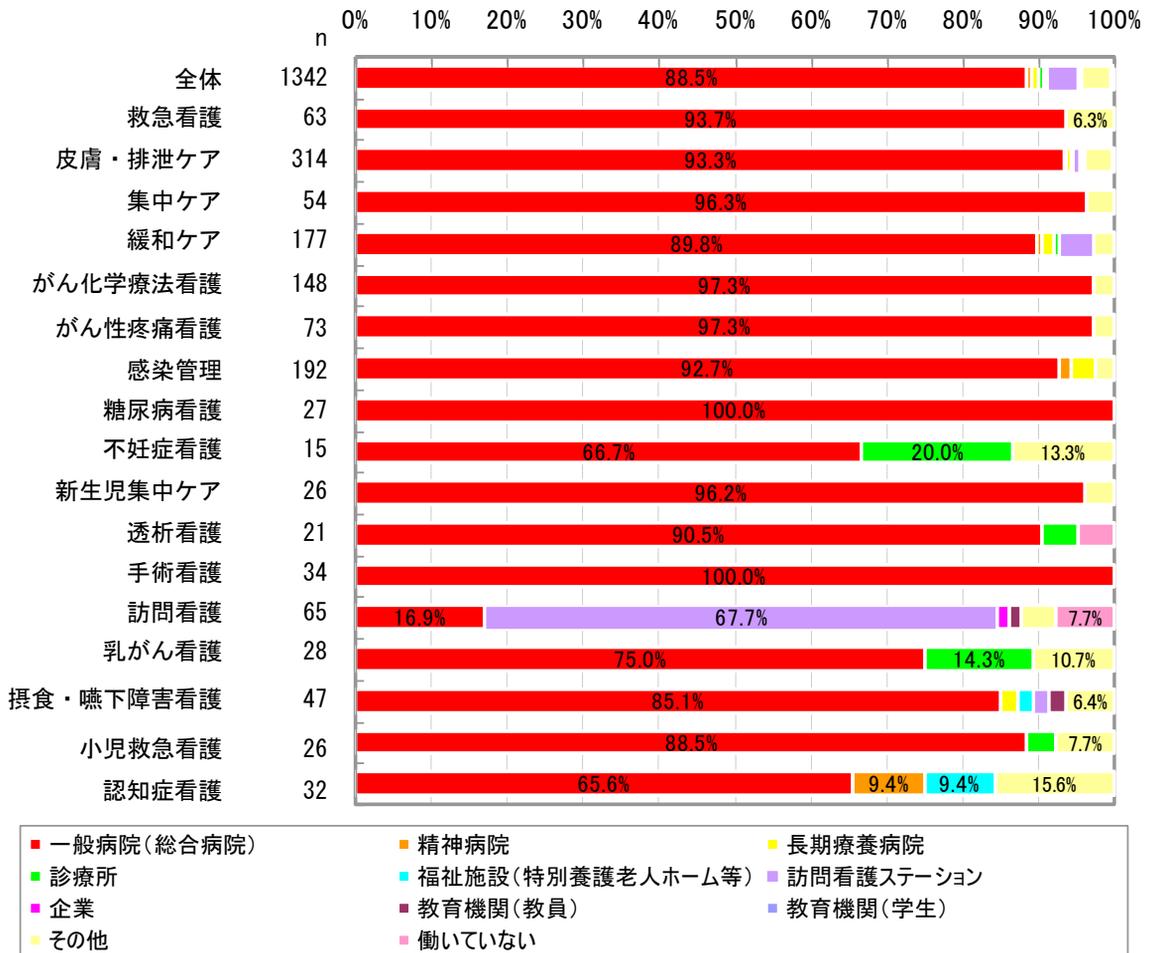
分野別にみると「利用した」割合が高いのは「認知症看護」が18.8%で最も多く、次いで「訪問看護」が16.9%、「透析看護」が14.3%、「手術看護」が11.8%、「緩和ケア」が10.7%であった(図16)。

3. 現在の所属施設について

1) 所属施設の種類



<図17. 所属施設の種類(全体)>

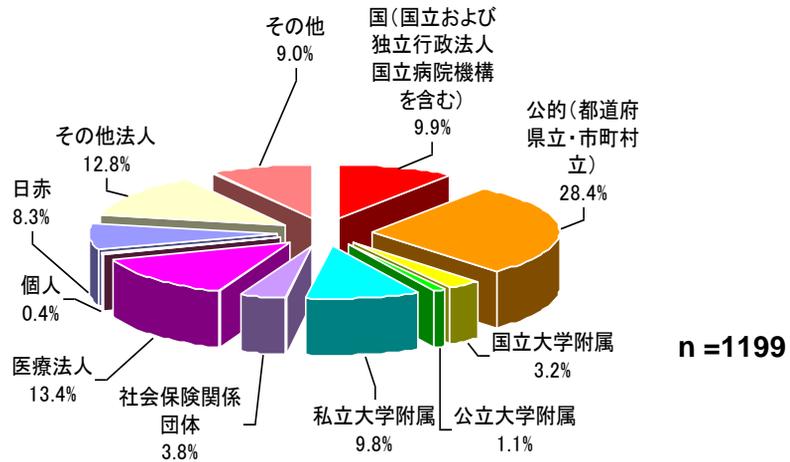


<図18. 所属施設の種類(分野別)>

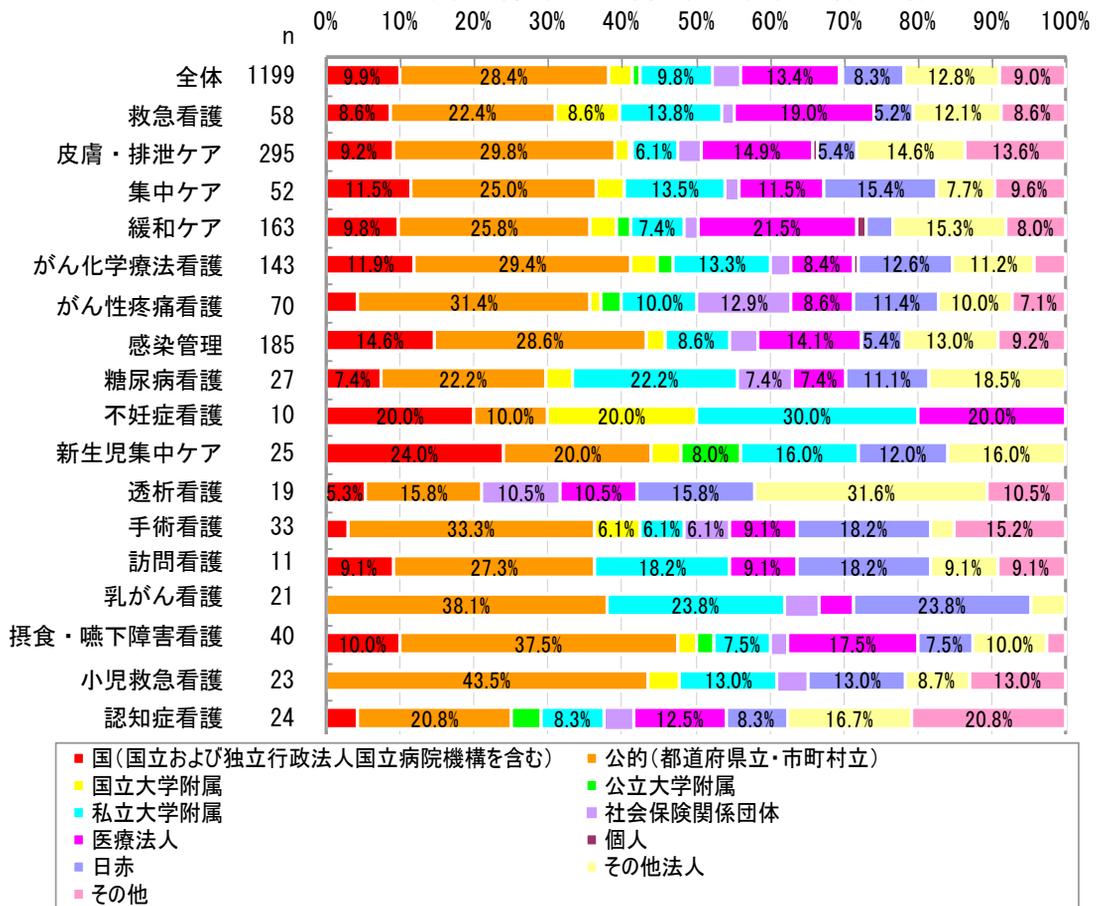
認定者全体の現在の所属施設は、「一般病院(総合病院)」が88.5%で最も多かった。次いで「訪問看護ステーション」が4%(65名)であり、そのうち7割弱の44名が「訪問看護」分野であった(図17、18)。

分野別にみると、「不妊症看護」の20.0%、「乳がん看護」の14.3%は「診療所」の勤務であった(図18)。

2) 病院(「一般病院(総合病院)」「精神病院」「長期療養病院」)勤務者の所属施設の設置主体



<図19. 病院勤務者の所属施設の設置主体(全体)>

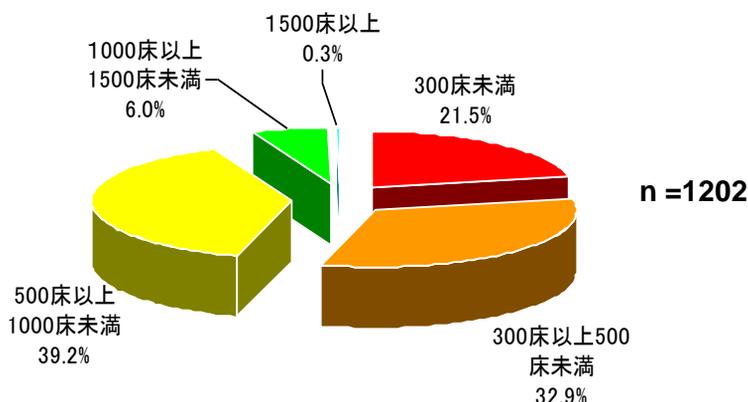


<図20. 病院勤務者の所属施設の設置主体(分野別)>

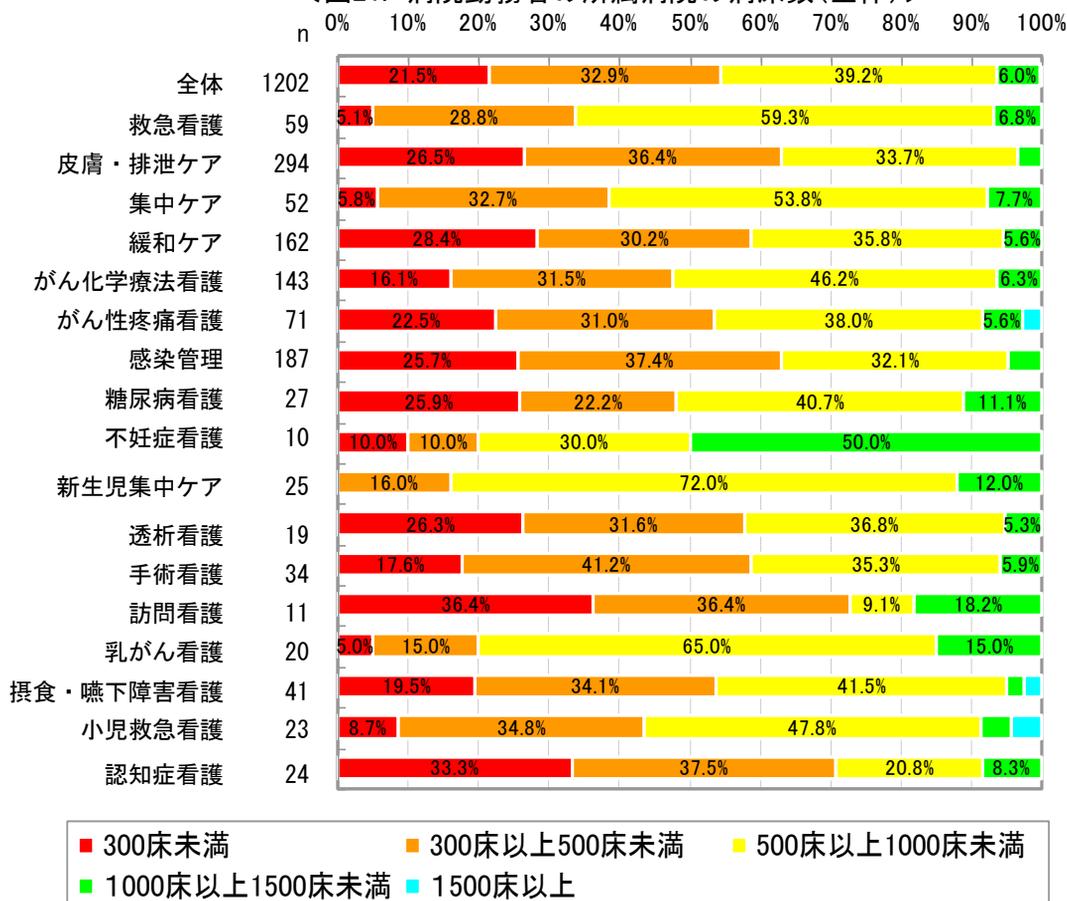
病院勤務者の所属施設の設置主体は、「公的(都道府県立・市町村立)」が28.4%で最も多く、次いで、「医療法人」が13.4%、「その他法人」が12.8%、「国(国立および独立行政法人国立病院機構を含む)」が9.9%、「私立大学附属」が9.8%、「日赤」が8.3%であった(図19)。

分野別にみると、「不妊症看護」は、所属施設の設置主体の割合が「国公立」と「私立および医療法人」で50%ずつであった。「認知症看護」は所属施設の設置主体のうち、国公立の割合が他分野と比較して少なかった(図20)。

3) 病院(「一般病院(総合病院)」「精神病院」「長期療養病院」)勤務者の所属施設の病床数



<図21. 病院勤務者の所属病院の病床数(全体)>



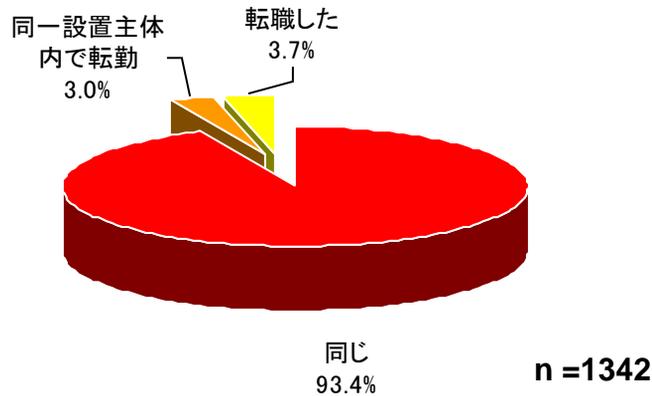
<図22. 病院勤務者の所属病院の病床数(分野別)>

病院勤務者の所属施設の病床数は、「500床以上1000床未満」が39.2%で最も多く、次いで「300床以上500床未満」の32.9%、「300床未満」の21.5%であった(図21)。

分野別にみると、「不妊症看護」は「1000床以上1500床未満」が50%で最も多かった。「300床未満」の施設に勤務している者は、「訪問看護」が36.4%で最も多く、次いで「認知症看護」が33.3%、「緩和ケア」が28.4%であった。「新生児集中ケア」は全員が300床以上の施設に勤務していた(図22)。

4. 資格取得後の変化について

1) 所属施設の変化



<図23. 資格取得後の所属施設の変化(全体)>

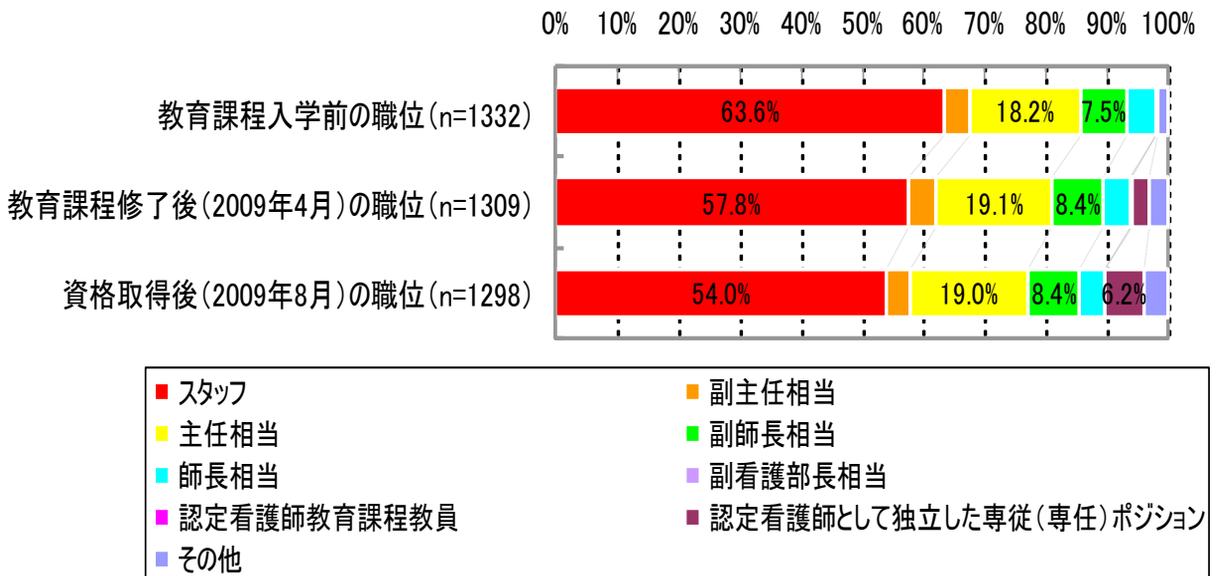


<図24. 資格取得後の所属施設の変化(分野別)>

認定看護師資格取得後の所属施設は、全体では「同じ」が93.4%で最も多かった。「転職」と「転勤」は合わせて約7% (89名) であった(図23)。

分野別にみると「糖尿病看護」「不妊症看護」「手術看護」は100%が「同じ」であった。「転職」が最も多かったのは「訪問看護」で18.0%であり、次いで「小児救急看護」7.7%、「緩和ケア」6.1%であった。「同一設置主体内で転勤」が最も多かったのは「認知症看護」で9.4%であった(図24)。

2)職位の変化



<図25. 資格取得前後の職位の変化(全体)>

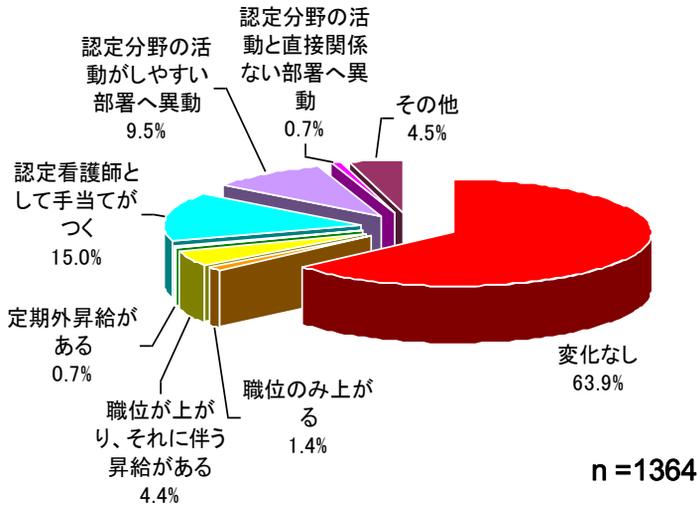
認定看護師教育課程入学前の職位は、「スタッフ」が63.6%、「主任相当」が18.2%、「副師長相当」が7.5%、「独立した専従(専任)ポジション」が0.2%であった。

認定看護師教育課程修了後の職位は「スタッフ」が57.8%、「主任相当」が19.1%、「副師長相当」が8.4%、「認定看護師として独立した専従(専任)ポジション」が3%であった。

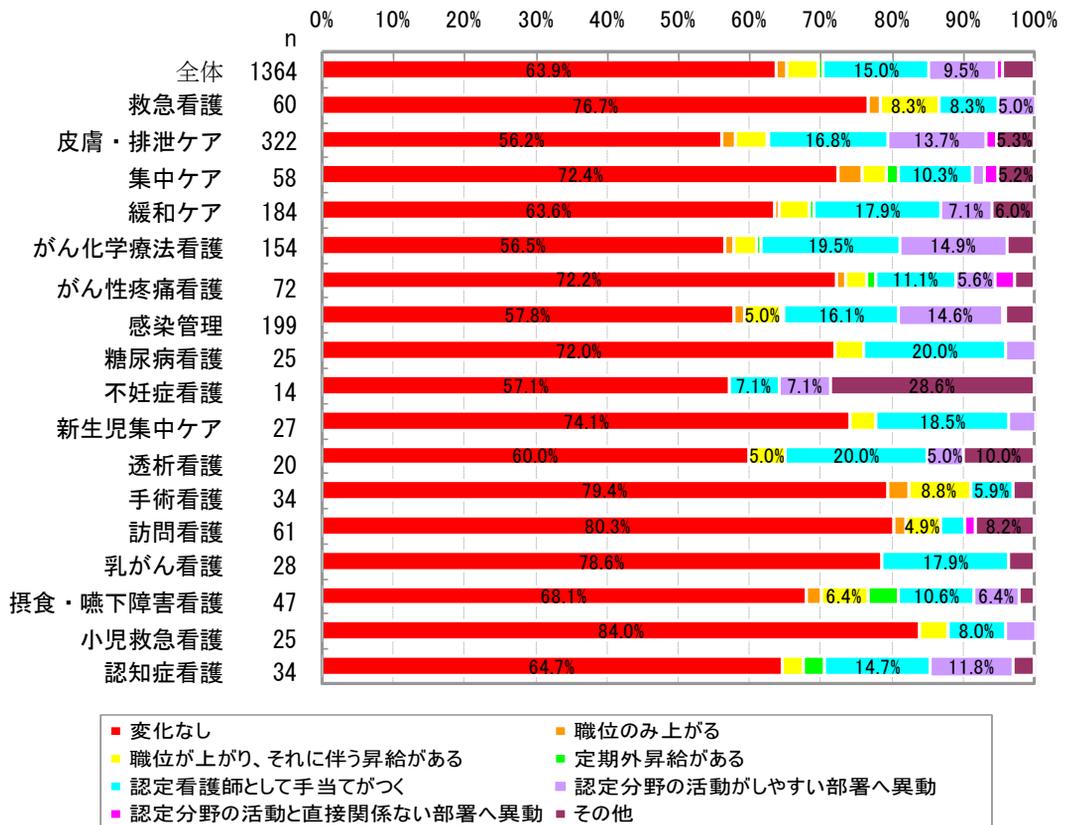
認定看護師資格取得後の職位は「スタッフ」が54.0%、「主任相当」が19.0%、「副師長相当」が8.4%、「認定看護師として独立した専従(専任)ポジション」が6.2%であった。

全体的な変化を見ると、認定看護師資格取得前後で、「スタッフ」の割合が減少し、「主任相当」「副師長相当」の管理職、および「認定看護師として独立した専従(専任)ポジション」が増加していた(図25)。

3)勤務条件・給与待遇の変化



<図26. 資格取得後の勤務条件・給与待遇の変化(全体)>

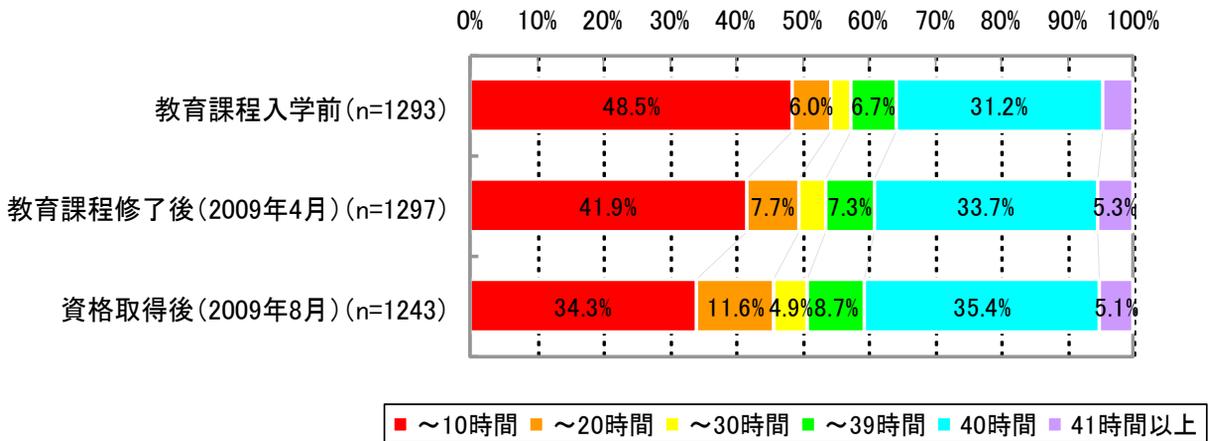


<図27. 資格取得後の勤務条件・給与待遇の変化(分野別)>

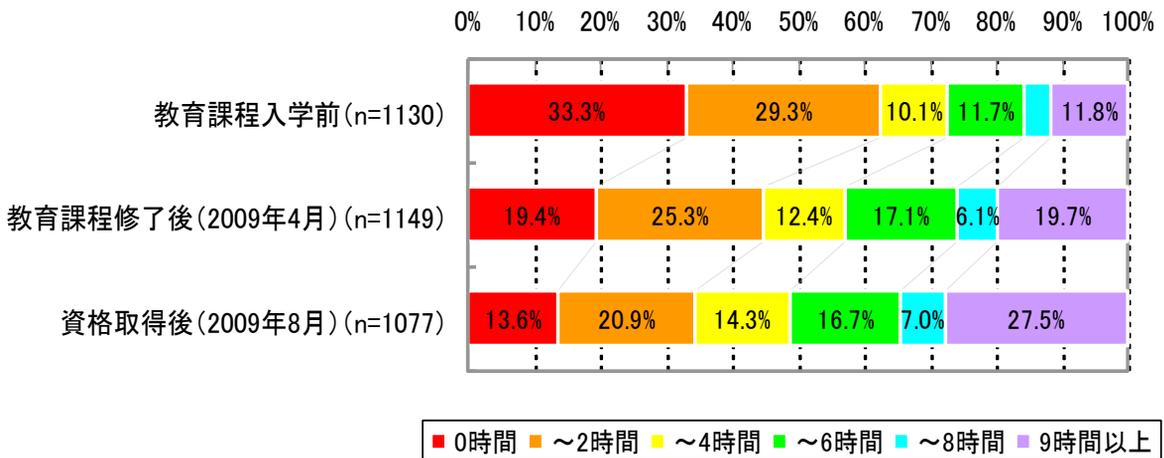
認定看護師資格取得後の勤務条件・給与待遇は、全体では「変化なし」が63.9%で最も多かった。次いで、「認定看護師として手当がつく」が15.0%、「認定分野の活動がしやすい部署へ異動」が9.5%、「職位が上がりに伴う昇給がある」が4.4%であった(図26)。

分野別にみると、「認定看護師として手当がつく」が最も多かったのは「透析看護」で20.0%、次いで「がん化学療法看護」で19.5%であった。「認定分野の活動がしやすい部署へ異動」が最も多かったのは「がん化学療法看護」で14.9%、次いで「感染管理」で14.6%であった。「変化なし」が最も多かったのは「小児救急看護」で84.0%、「訪問看護」で80.3%であった(図27)。

4) 認定看護分野での実践時間数の変化



<図30. 資格取得前後の勤務時間内における認定看護分野での実践時間数の変化(全体)>

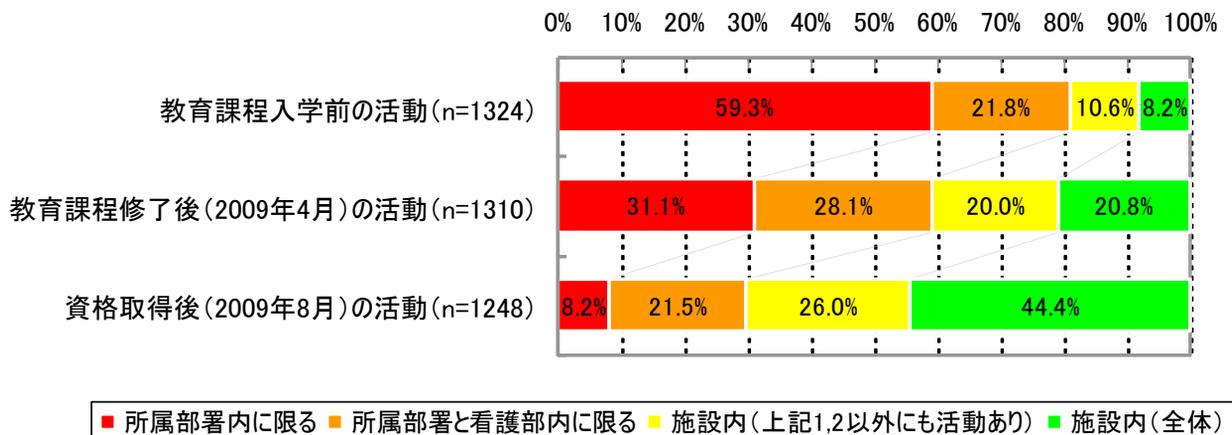


<図31. 資格取得前後の勤務時間外における認定看護分野での実践時間数の変化(全体)>

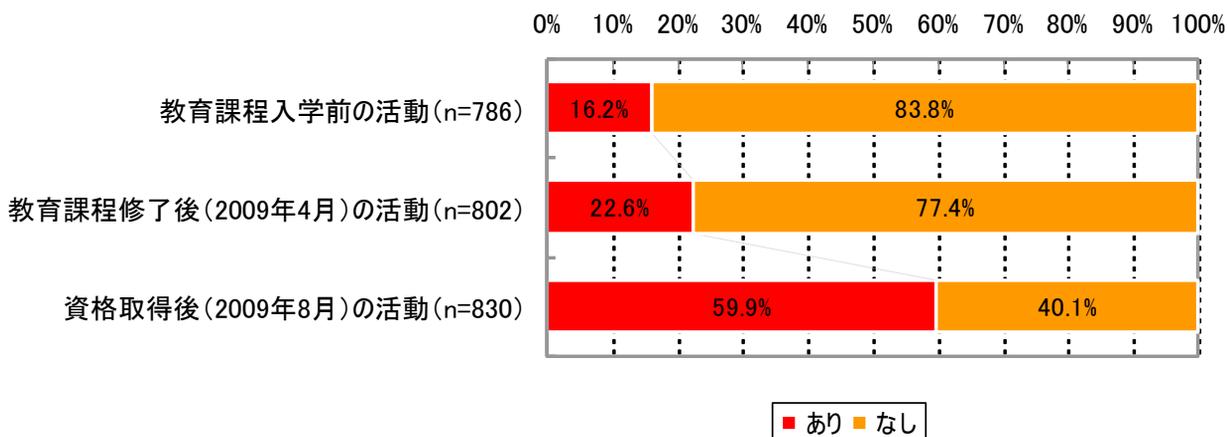
勤務時間内における認定看護分野での実践時間数(週単位)は、教育課程入学前は「10時間以下」が48.5%であり次いで「40時間」が31.2%であったが、資格取得後にかけて、「10時間以下」が減少し、10時間を越える実践時間数が増えている。特に、「10時間を越え20時間まで」は入学前から資格取得後で約2倍となっている(図30)。

勤務時間外における認定看護分野での実践時間数(週単位)は、教育課程入学前は「0時間」が33.3%であり、次いで「~2時間」が29.3%であったが、資格取得後にかけて、「0時間」および「~2時間」が減少し、「~4時間」を超える実践時間数が増えている。特に、「9時間以上」は入学前から資格取得後で2倍以上になっている(図31)。

5)活動範囲の変化



<図32. 資格取得前後の施設内の活動範囲の変化(全体)>

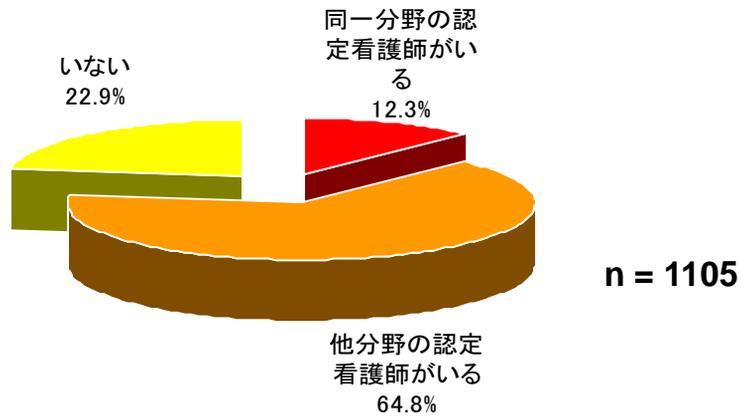


<図33. 資格取得前後の施設外地域活動の変化(全体)>

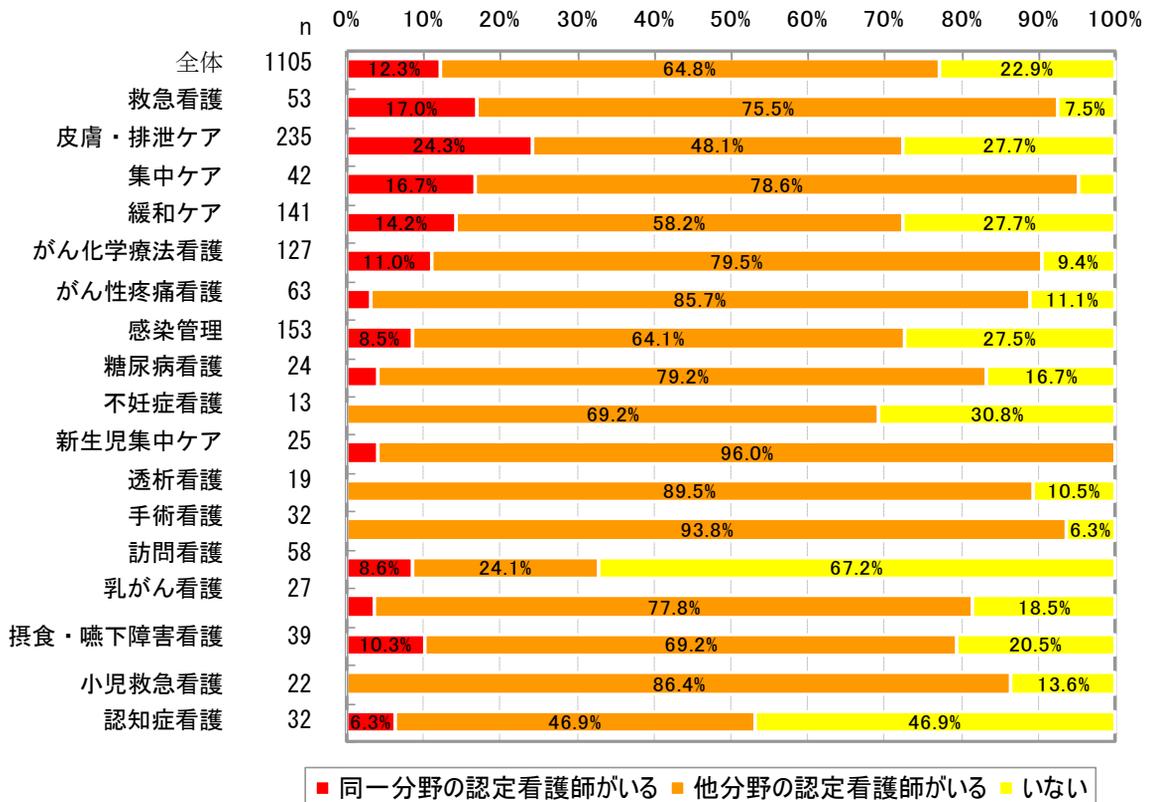
所属施設内における活動範囲は、認定看護師教育課程入学前は「所属部署内に限る」が59.3%、「施設内(全体)」が8.2%であるのに対し、認定看護師教育課程修了後では「所属部署内に限る」が31.1%、「施設内(全体)」が20.8%、資格取得後には「所属部署内に限る」が8.2%、「施設内(全体)」が44.4%となり、資格取得前後では活動範囲が拡大している(図32)。

所属施設外における活動範囲は、認定看護師教育課程入学前では「あり」が16.2%であるのに対し、認定看護師教育課程修了後では22.6%、資格取得後には59.9%と増加しており、施設外においても活動範囲が拡大している(図33)。

4) 所属施設の認定看護師数について



<図28. 所属施設内の認定看護師の有無(全体)>

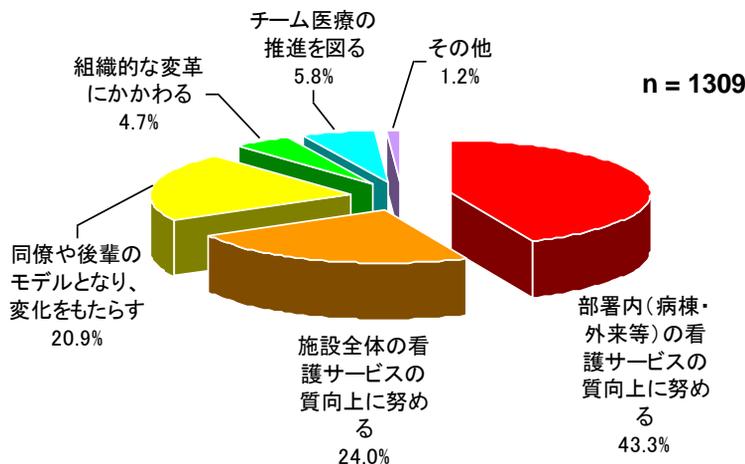


<図29. 所属施設内の認定看護師の有無(分野別)>

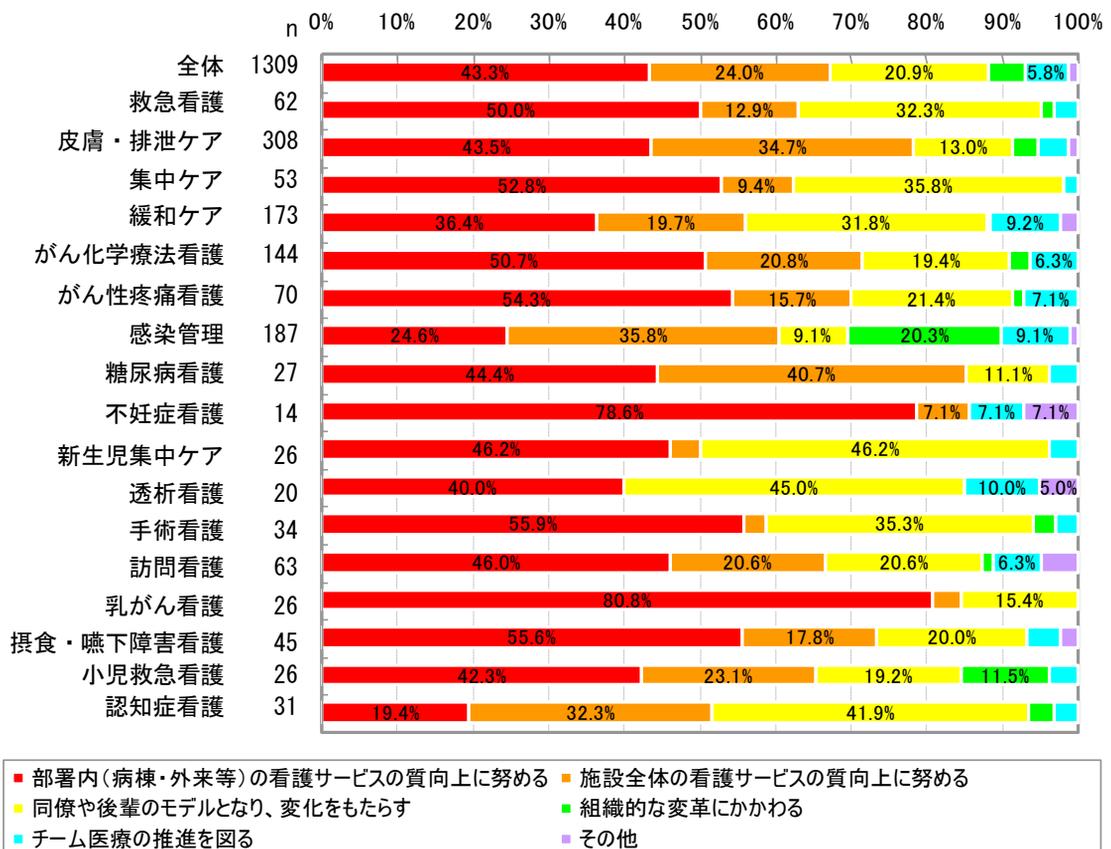
所属施設の認定看護師数について、全体では所属施設内に「他分野の認定看護師がいる」が64.8%で最も多く、「同一分野の認定看護師がいる」は12.3%であった。
 分野別にみると、所属施設内に「同一分野の認定看護師がいる」のは「皮膚・排泄ケア」が24.3%で最も多く、次いで「救急看護」が17.0%、「集中ケア」が16.7%であった。

5. 今後の活動について

1) 今後5年間で、最も力を入れて取り組みたい活動



＜図34. 今後5年間で、最も力を入れて取り組みたい活動(全体)＞

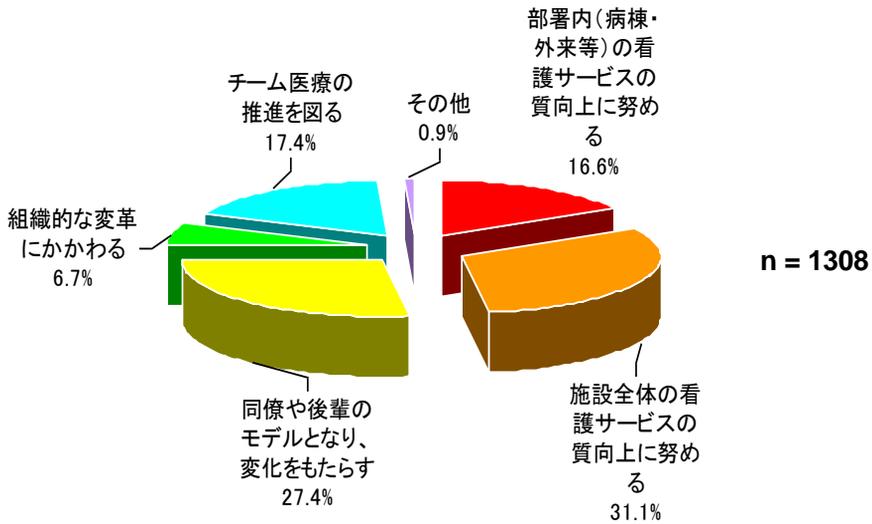


＜図35. 今後5年間で、最も力を入れて取り組みたい活動(分業別)＞

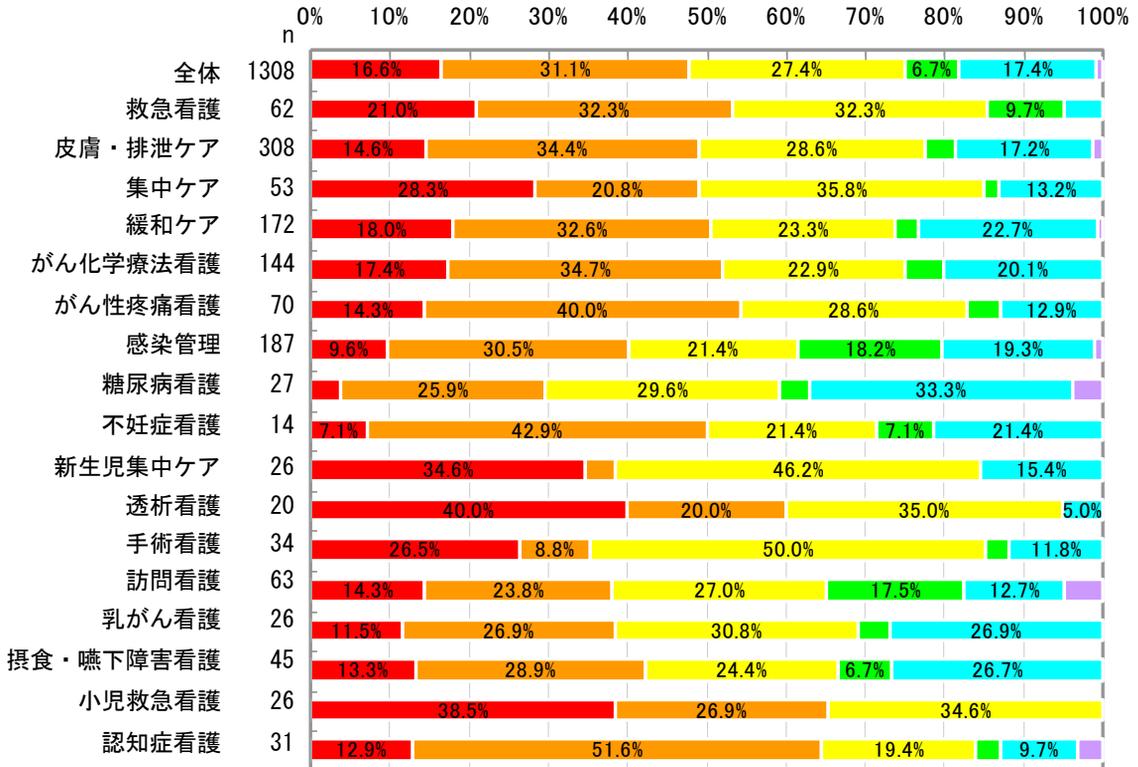
今後5年間でも最も力を入れて取り組みたい活動について、5項目のうち優先順位の最も高いものについて回答を求めたところ、「部署内(病棟・外来等)の看護サービスの質向上に努める」が43.3%でもっとも多かった(図34)。分野別にみると、同項目を多く選択していたのは、「乳がん看護」で81%、「不妊症看護」で79%であった(図35)。

次いで「施設全体の看護サービスの質向上に努める」が24.0%で多く(図34)、分野別にみると、同項目を多く選択していたのは「糖尿病看護」で40.7%、「感染管理」で35.8%であった(図35)。

2)今後5年間で、2番目に力を入れて取り組みたい活動



<図36. 今後5年間で、2番目に力を入れて取り組みたい活動(全体)>

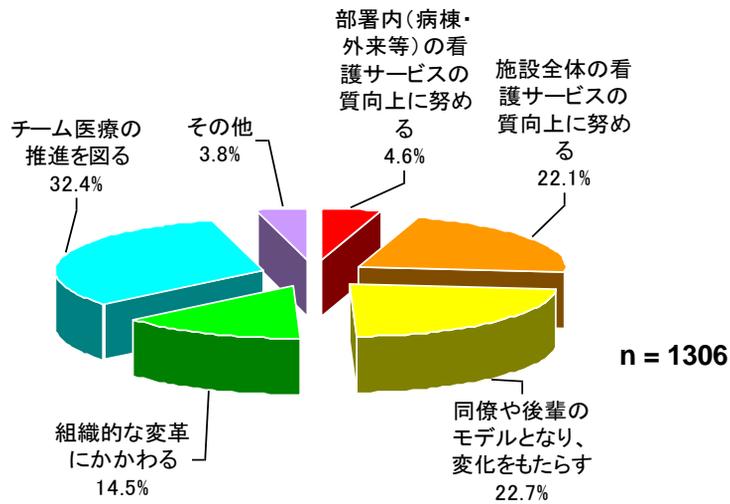


- 部署内(病棟・外来等)の看護サービスの質向上に努める
- 施設全体の看護サービスの質向上に努める
- 同僚や後輩のモデルとなり、変化をもたらす
- 組織的な変革にかかわる
- チーム医療の推進を図る
- その他

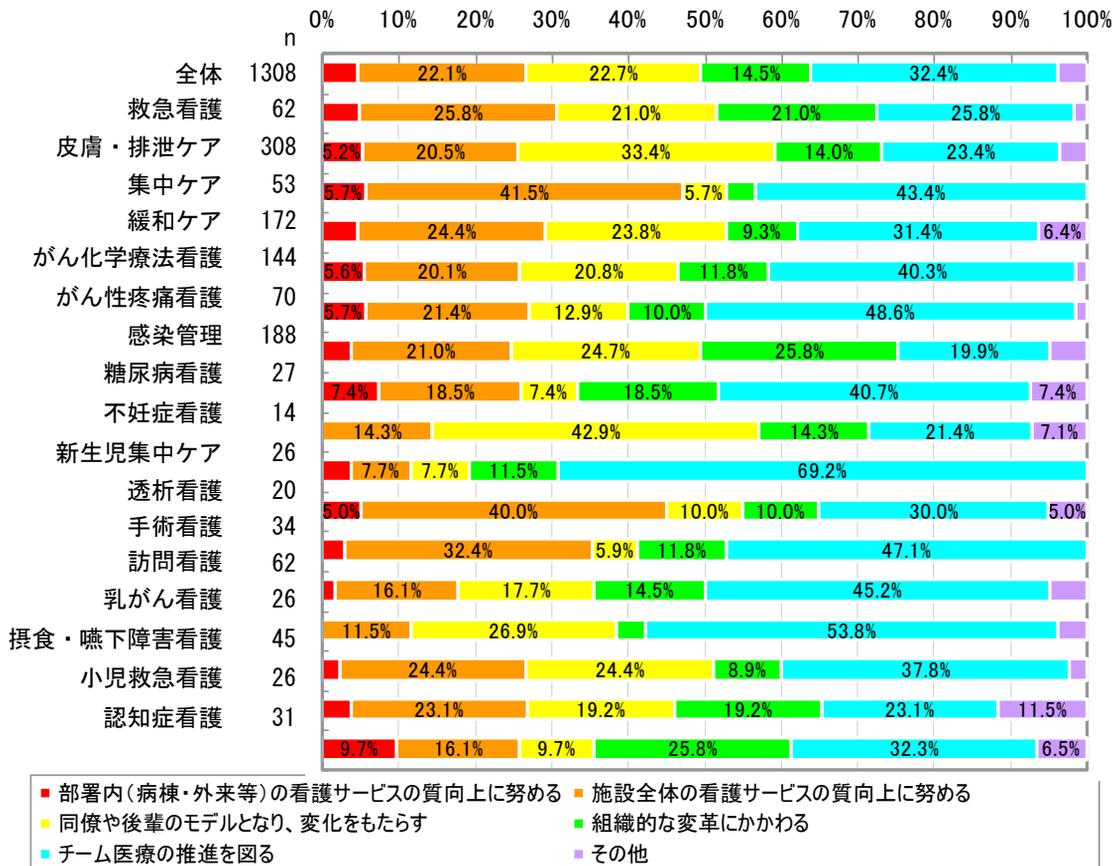
<図37. 今後5年間で、2番目に力を入れて取り組みたい活動(分野別)>

今後5年間でも2番目に力を入れて取り組みたい活動について、5項目のうち優先順位が2番目に高いものについて回答を求めたところ、「施設全体の看護サービスの質向上に努める」が31.1%で、最も多かった(図36)。
分野別にみると、同項目を多く選択していたのは、「認知症看護」で51.6%、「不妊症看護」で42.9%、「がん性疼痛看護」の40.0%であった(図37)。

3)今後5年間で、3番目に力を入れて取り組みたい活動



<図38. 今後5年間で、3番目に力を入れて取り組みたい活動(全体)>



<図39. 今後5年間で、3番目に力を入れて取り組みたい活動(分野別)>

今後5年間で3番目に力を入れて取り組みたい活動について、5項目のうち、優先順位が3番目に高いものについて回答を求めたところ、「チーム医療の推進を図る」が32.4%と最も多かった(図38)。
 分野別にみると、同項目を多く選択していたのは、「新生児集中ケア」で69.2%、「乳がん看護」で53.8%、「がん性疼痛看護」で48.6%であった(図39)。

6. 考察

1) 医療機関等の認定看護師への理解

認定看護師教育課程在学中の処遇としては、「出張」「研修」の割合が 78.6%であり、給与の支給状況については「基本給のみ支給」を受けていた者がほぼ半数、さらに賞与は「全額支給あり」が 71.1%であった。認定者らは認定看護師教育を受けることについて、ある程度所属施設から支援を得られていることがわかる。

しかし、所属施設から認定看護師教育受講への支援はあるものの、認定看護師資格取得後の勤務条件・給与待遇については「変化なし」の者が 63.9%であった。一方「認定看護師としての手当がつく」者は 15%、「認定看護分野の活動がしやすい部署へ異動」した者は 9.5%、「職位が上がり、それに伴う昇給がある」者が 4.4%、「定期外昇給がある」者が 0.7%であり、勤務条件・給与待遇が向上した者は 3割にすぎない。

処遇面の向上はあまり見られないにも関わらず、認定者らの「勤務時間内における認定看護分野での活動時間」は増加し、さらに、「勤務時間外における認定看護分野での実践時間数(週単位)」も「9時間以上」におよぶ者が教育課程入学前の 11.8%から資格取得後の 27.5%に急増している。活動範囲も「所属部署内に限る」が資格取得前はほぼ半数であるが、資格取得後は「施設内(全体)」で活動する者がほぼ半数に取って変わっている。

以上から、認定看護師認定者らは、資格取得までにある程度の支援は得られている。しかし認定後は活動時間と活動範囲を拡大しているにも関わらず、処遇面での向上があまり見られない状況である。資格取得までの支援が得られるようになってきていることは、認定看護師らの活動が評価され、診療報酬に反映されていること等による成果が一因と考えられる。今後は、認定者らの認定後の処遇向上に向けた方策を検討する必要があるだろう。

2)「訪問看護」分野の状況

「訪問看護」分野は退職して入学した者が約 2割に及んでおり、在学中に無給である者が 23.0%、賞与の支給が無い者が 34.4%であり、所属施設から支援を得ている者が最も少なかった。さらに、退職者が 2割であるため、資格取得後の転職者はほぼ 2割であり、勤務条件や給与待遇の変化がないものが 8割で資格取得後の処遇の向上も少なかった。当該分野については、認定看護師教育に関する訪問看護ステーション等の施設の理解を求めたいところであるが、訪問看護ステーションは小規模施設が多く、経営的にも人的にも資源が限られているため、研修受講者への資格取得以前の支援が困難であることが推測される。

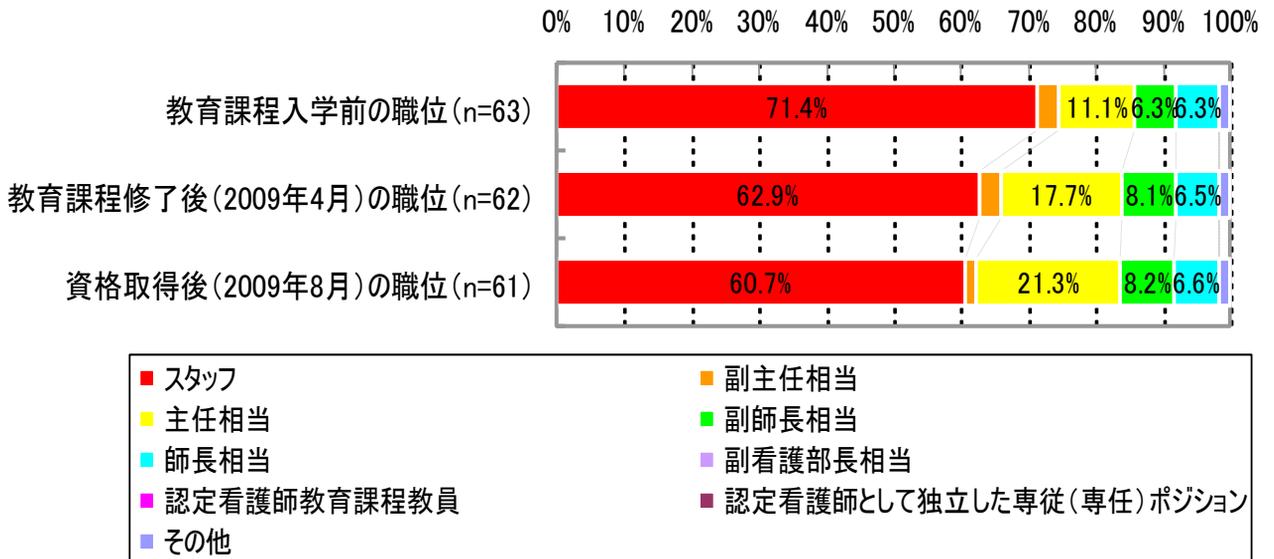
そこで、当該分野の認定看護師教育を受講しやすくするための方策として、「分散型の教育形態をとる認定看護師教育課程」の普及が挙げられよう。受講者本人の負担が大きいと予測されるものの、認定看護師教育課程受講中の受講者の金銭面の問題、訪問看護ステーションの資源上の問題等をクリアできるため、勤務を継続しながら認定看護師教育を受講できる体制があることは有意義であると考ええる。なお、現在、「訪問看護」分野において、分散型の教育形態をとっているのは「聖路加看護大学実践開発センター」のみであるが、64.7%もの受講者が「常勤(開講日以外は通常勤務)」となっていた。

当該分野については、今後、認定看護師希望者の教育受講に対する支援策を検討する必要があるだろう。

Ⅱ. 分野別結果

1 救急看護

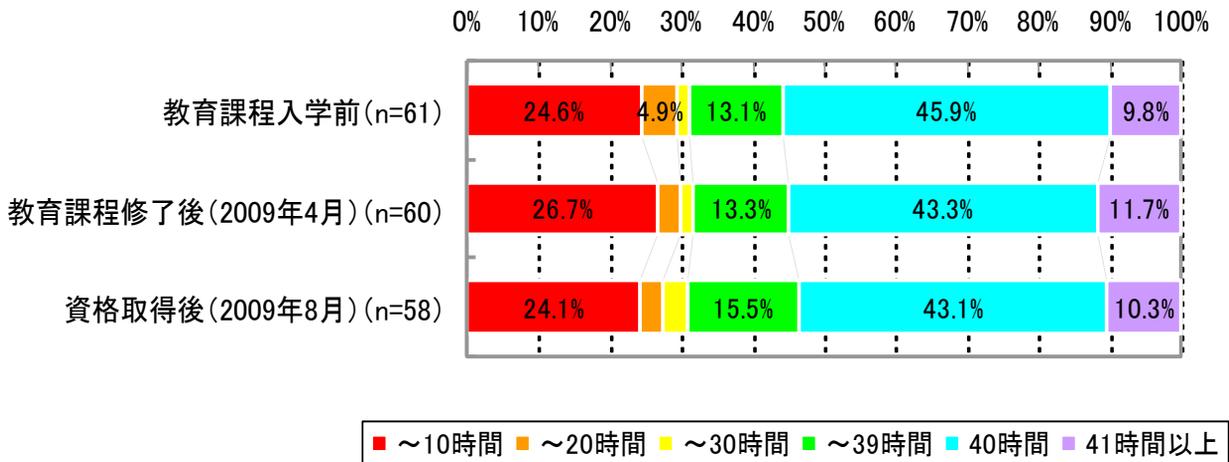
1) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の職位について



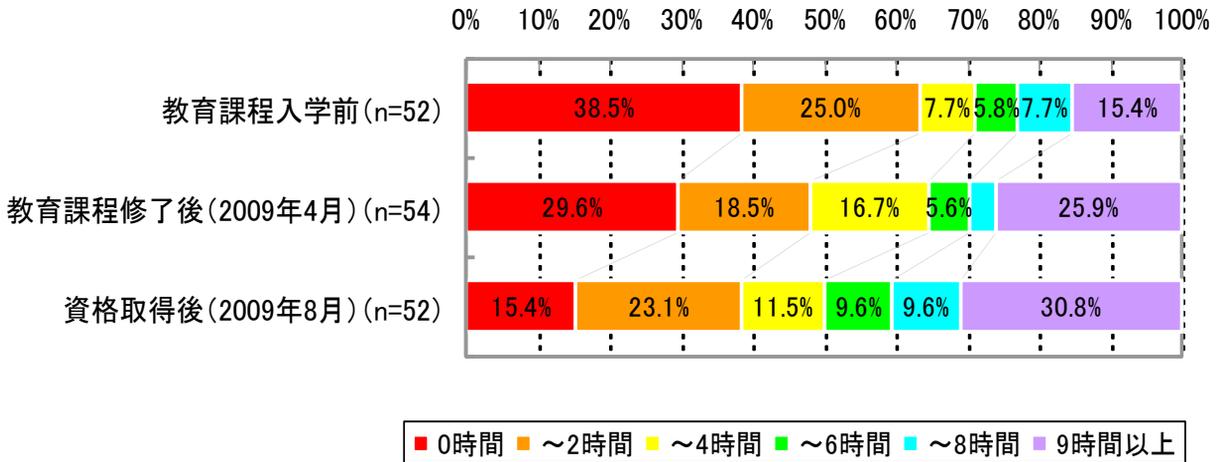
<図40. 救急看護・資格取得前後の職位の変化>

認定看護師資格取得前後で、救急看護分野の認定者の職位は、「スタッフ」の割合が71.4%から60.7%に減少し、「主任相当」の割合が11.1%から21.3%に増加していた(図40)

2) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の認定看護分野での
時間内／時間外勤務における実践時間数について



<図41. 救急看護・資格取得前後の勤務時間内における実践時間数の変化>

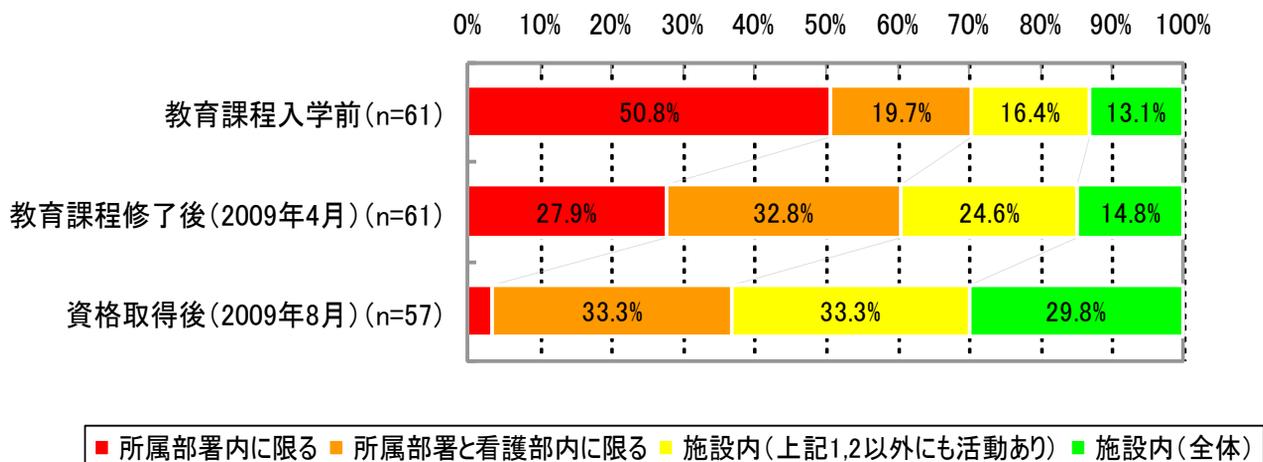


<図42. 救急看護・資格取得前後の勤務時間外における実践時間数の変化>

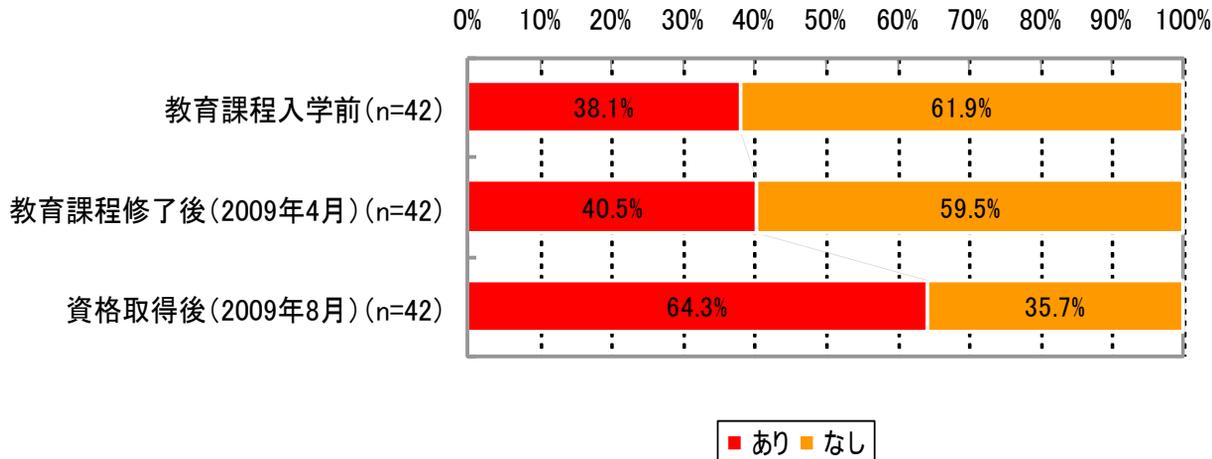
認定看護師教育課程入学前の勤務時間内実践時間数(週単位)は、「40時間」が46%であり、次いで「10時間以下」が25%であった。教育課程入学前から資格取得後を見ると、実践時間数ではどの時間帯も大きな変化は見られなかった(図41)。

勤務時間外における実践時間数は、「0~2時間まで」が減少し、2時間を越えるものが増加、中でも、「9時間以上」は入学前に比べると資格取得後でほぼ倍増していた(図42)。

3) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の活動範囲について



<図43. 救急看護・資格取得前後の活動範囲の変化>

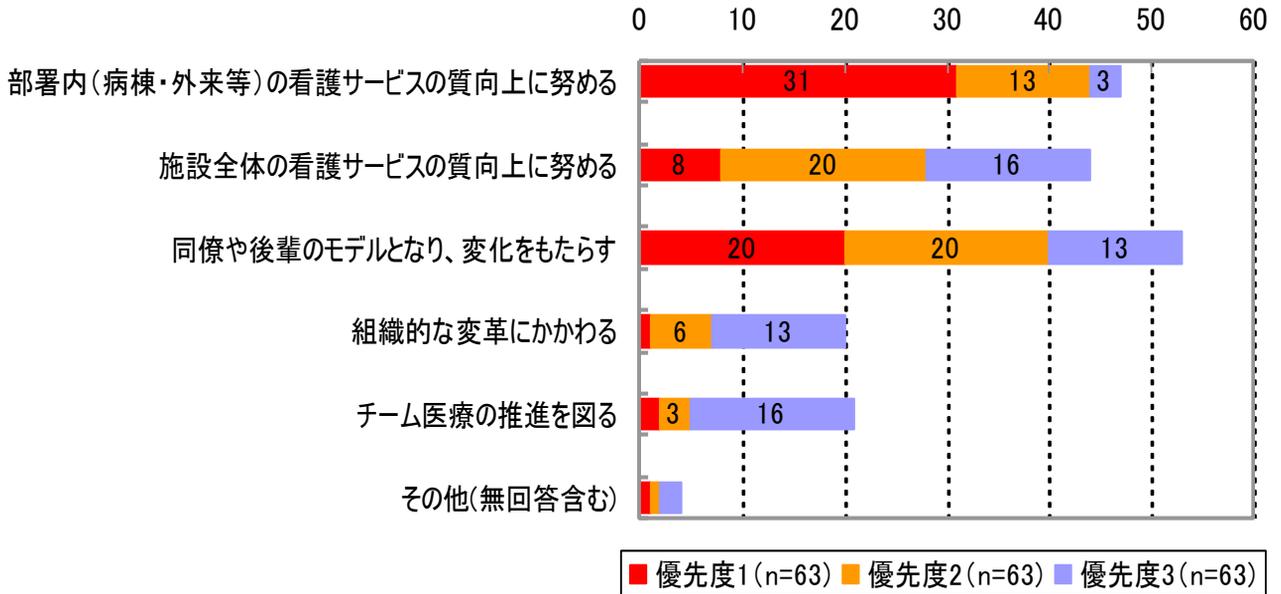


<図44. 救急看護・資格取得前後の施設外地域活動の変化>

認定看護師教育課程入学前での施設内の活動範囲は、「所属部署内に限る」が51%であった。教育課程修了から資格取得後の傾向を見ると、「所属部署内に限る」は4%に減少し、活動範囲が拡大していた(図43)。

施設外地域活動の範囲は、「あり」の者が教育課程入学前の38.1%から資格取得後には64.3%に増加していた(図44)。

4) 今後5年間で、力を入れて取り組んでいきたい活動について

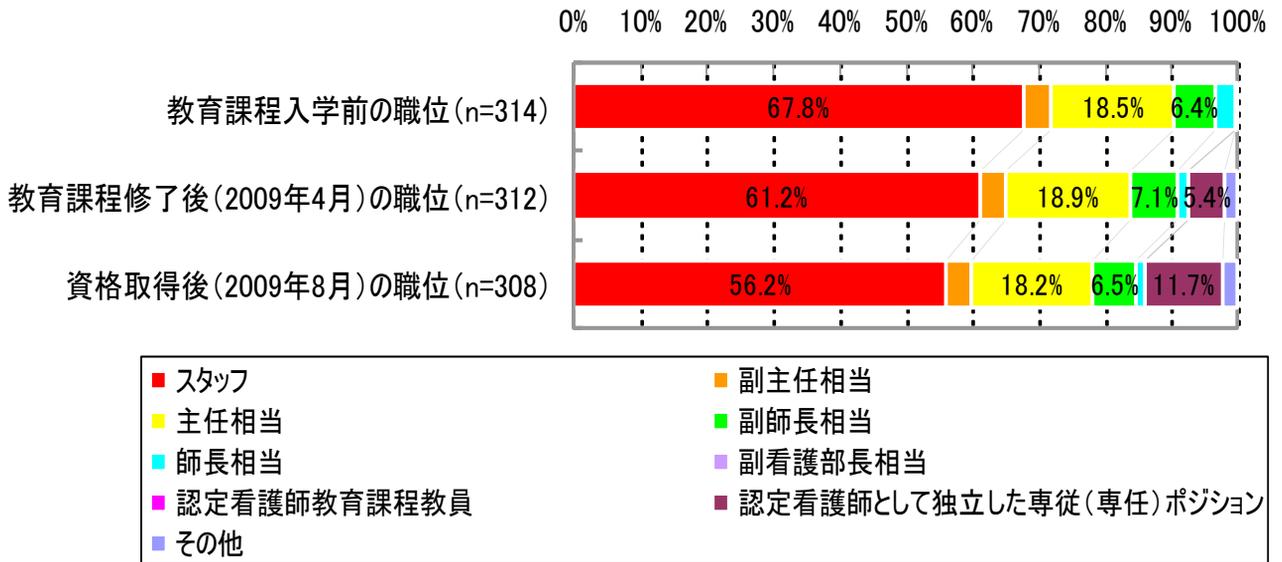


<図45. 救急看護・今後5年間の活動目標>

優先度1～3をあわせて見ると、「同僚や後輩のモデルとなり、変化をもたらす」が回答総数189名中53名で最も多かった。優先度の一番高い項目では「部署内(病棟・外来等)の看護サービスの質向上に努める」が31名で最も多かった(図45)。

2 皮膚・排泄ケア

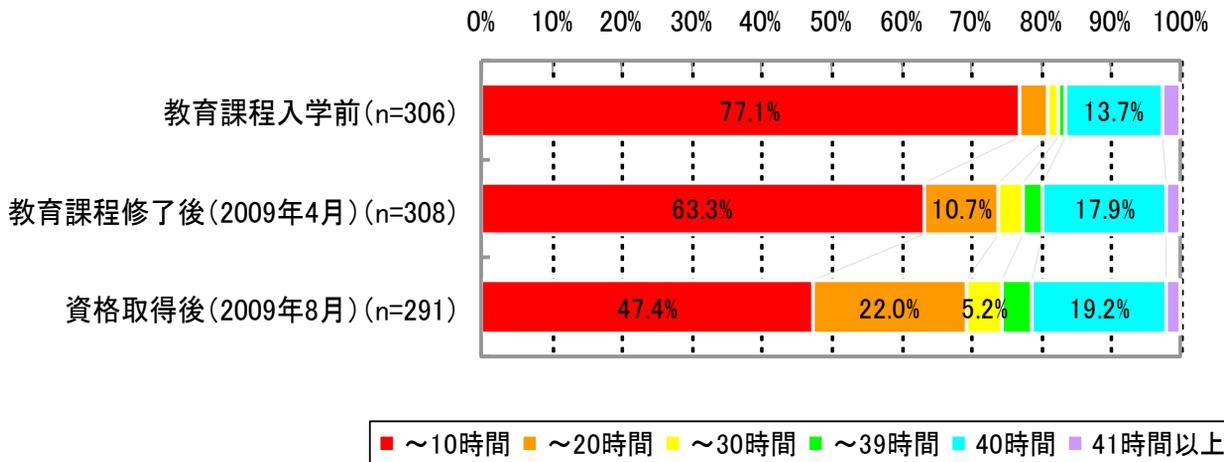
1) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の職位について



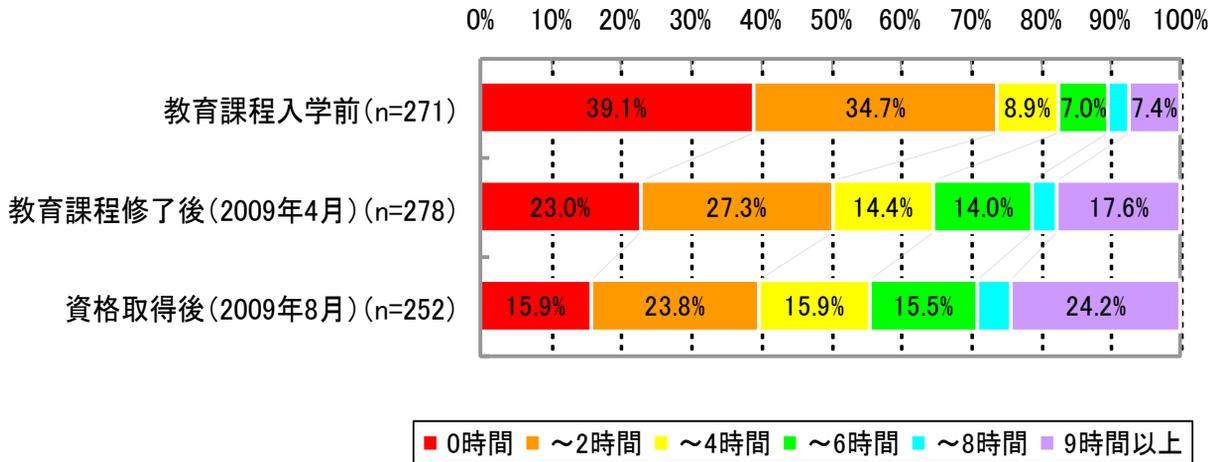
<図46. 皮膚・排泄ケア・資格取得前後の職位の変化>

認定看護師資格取得前後で、皮膚・排泄ケア分野の認定者の職位は、「スタッフ」の割合が67.8%から56.2%に減少し、「認定看護師として独立した専従(専任)ポジション」が0%から11.7%に増加していた(図46)。

2) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の認定看護分野での
時間内／時間外勤務における実践時間数について



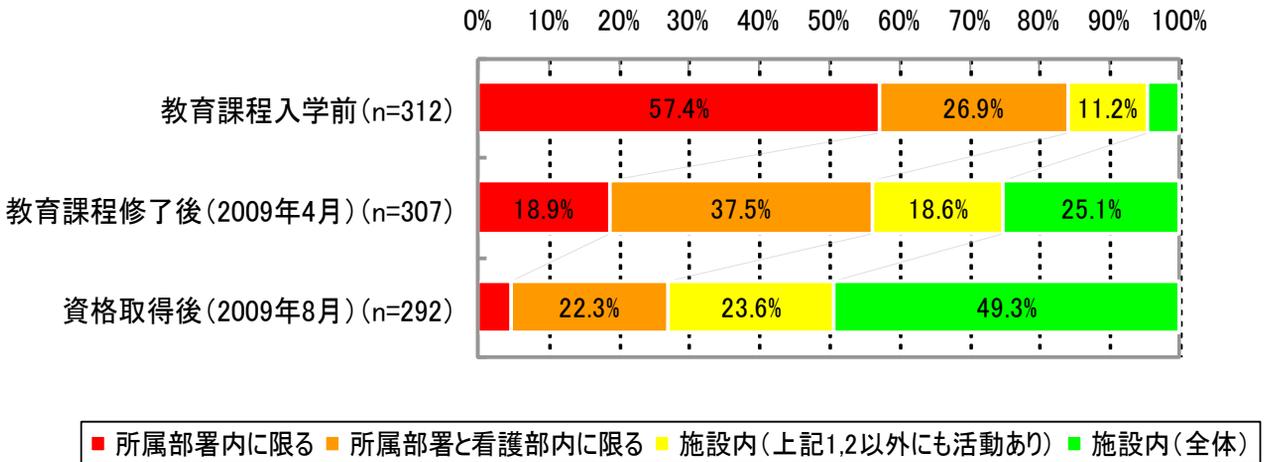
<図47. 皮膚・排泄ケア・資格取得前後の勤務時間内における実践時間数の変化>



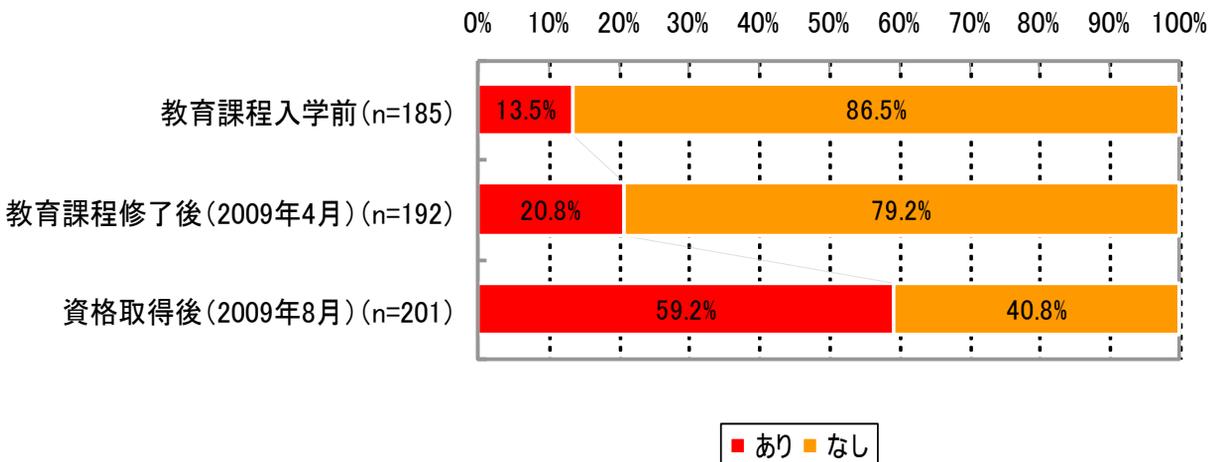
<図48. 皮膚・排泄ケア・資格取得前後の勤務時間外における実践時間数の変化>

認定看護師教育課程入学前の勤務時間内実践時間数(週単位)は「10時間以下」が77.1%であり、次いで「40時間」が13.7%であった。教育課程入学前から資格取得後までの実践時間数を見ると、「10時間以下」が減少し、「10～20時間まで」と「40時間」が増加していた(図47)。
勤務時間外における実践時間数は、「0～2時間まで」が減少し、2時間を越えるものが増加、中でも、「9時間以上」は入学前の比べると教育課程修了後で2倍、資格取得後で3倍に増加していた(図48)。

3) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の活動範囲について



<図49. 皮膚・排泄ケア・資格取得前後の活動範囲の変化>

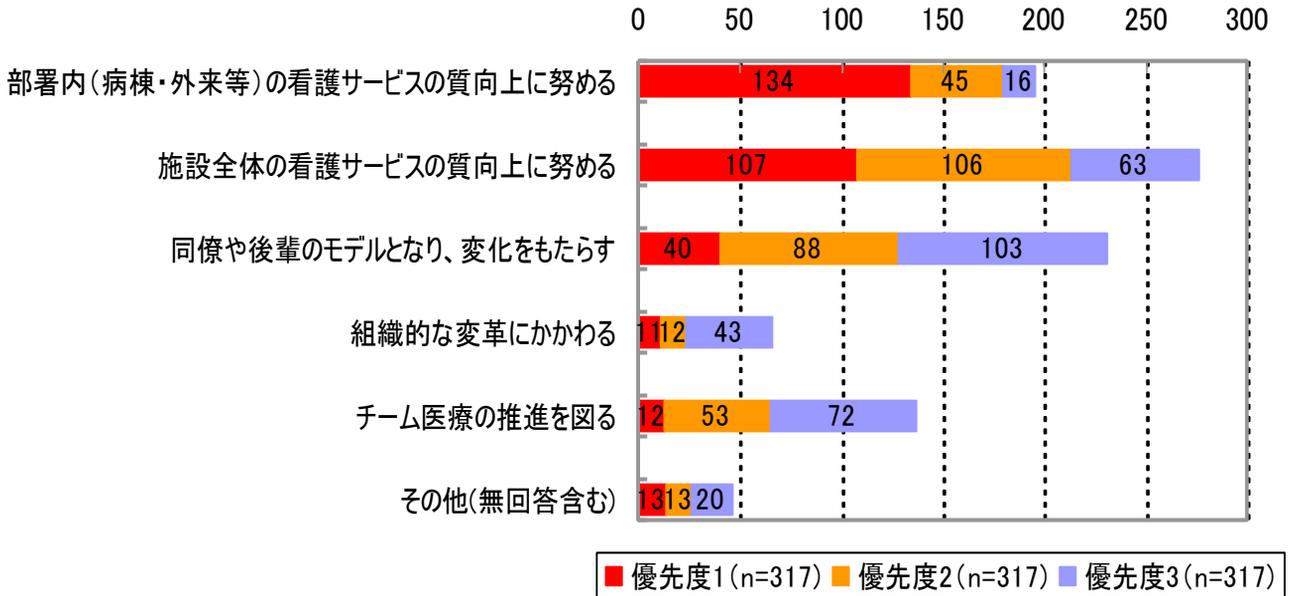


<図50. 皮膚・排泄ケア・資格取得前後の施設外地域活動の変化>

認定看護師教育課程入学前での施設内の活動範囲は、「所属部署内に限る」が57.4%であった。教育課程修了から資格取得後の傾向を見ると、「所属部署内に限る」は5%に減少し、活動範囲が拡大していた(図49)。

施設外地域での活動範囲は、「あり」の者が教育課程入学前の13.5%から資格取得後には59.2%に増加していた(図50)。

4) 今後5年間で、力を入れて取り組んでいきたい活動について

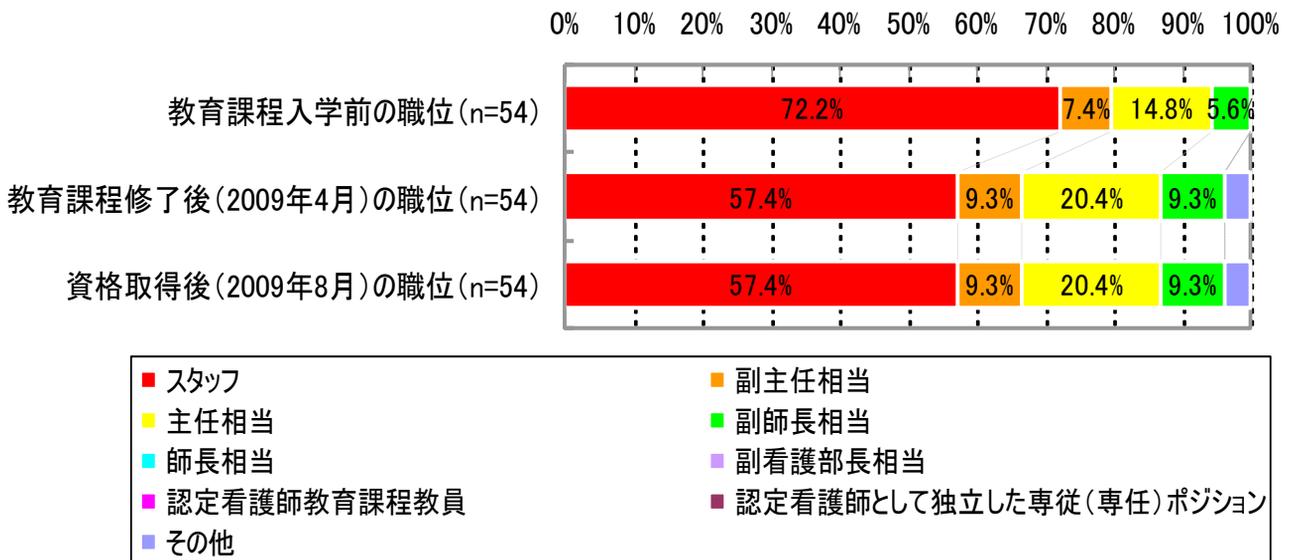


<図51. 皮膚・排泄ケア・今後5年間の活動目標>

優先度1～3をあわせて見ると、「施設全体の看護サービスの質向上に努める」が回答総数951名中276名で最も多かった。優先度の一番高い項目では「部署内(病棟・外来等)の看護サービスの質向上に努める」が134名で最も多かった(図51)。

3 集中ケア

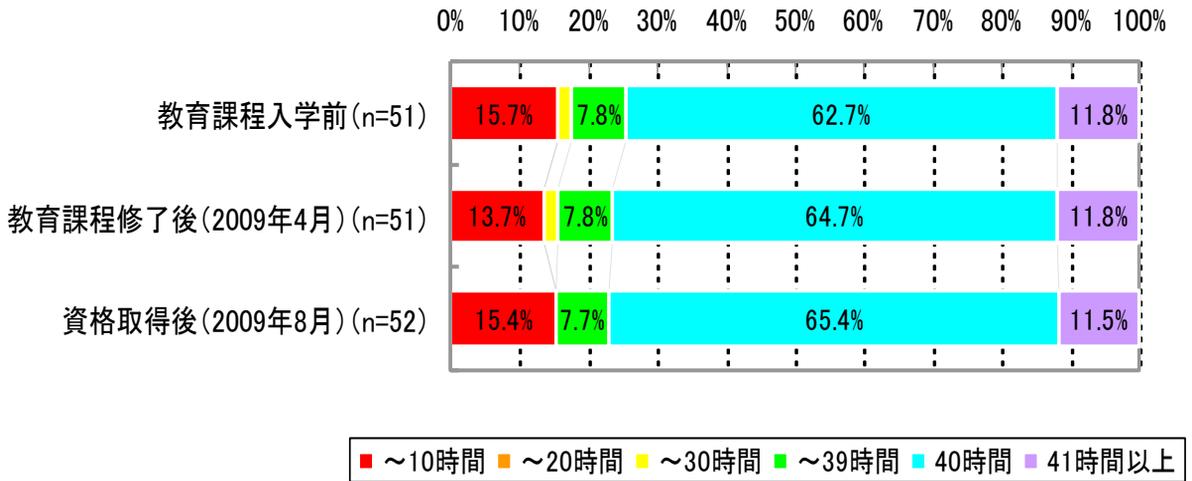
1) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の職位について



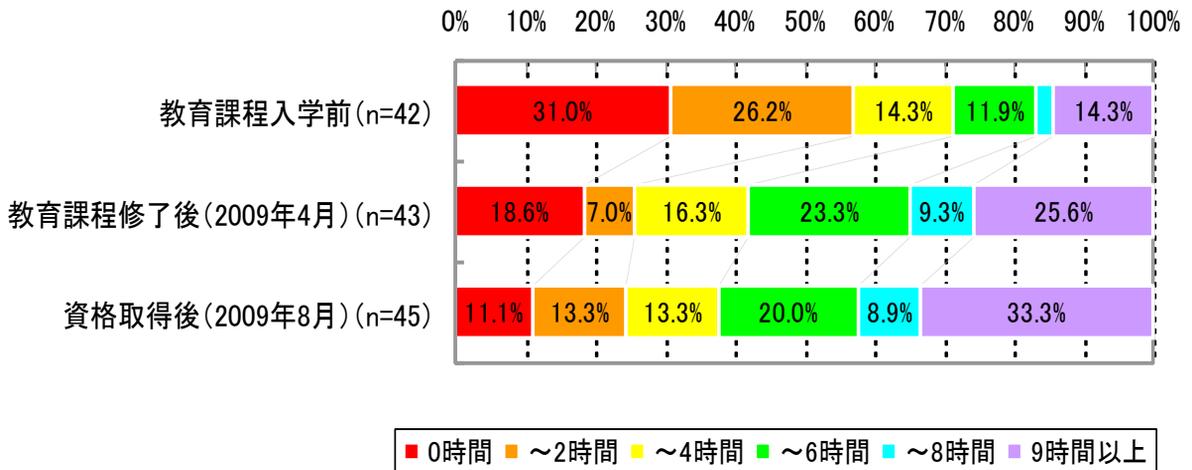
<図52. 集中ケア・資格取得前後の職位の変化>

認定看護師資格取得前後で、集中ケアの認定者の職位は、「スタッフ」の割合が72.2%から57.4%に減少し、「主任相当」の割合が14.8%から20.4%に増加していた(図52)。

2) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の認定看護分野での
時間内／時間外勤務における実践時間数について



<図53. 集中ケア・資格取得前後の時間内勤務における実践時間数の変化>

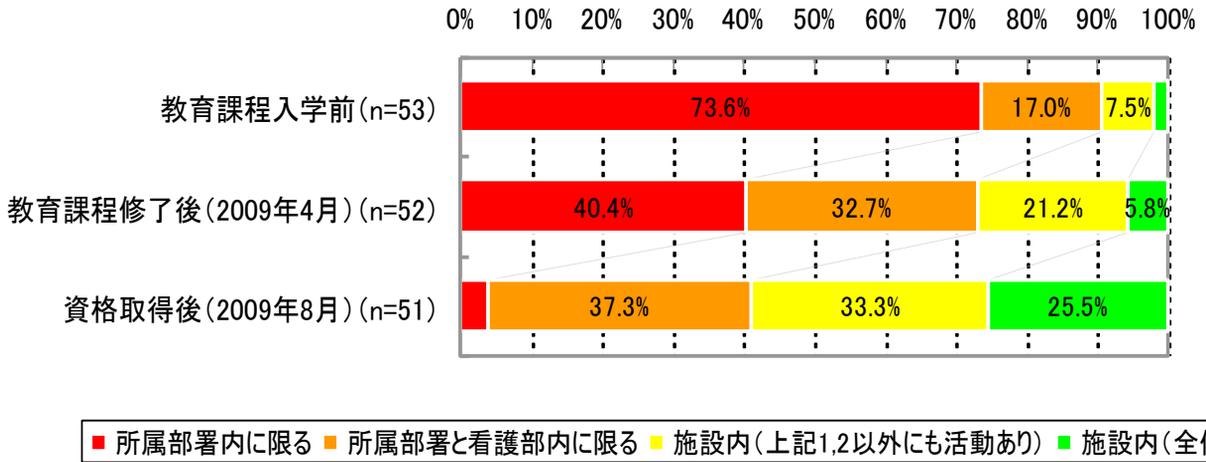


<図54. 集中ケア・資格取得前後の時間外勤務における実践時間数の変化>

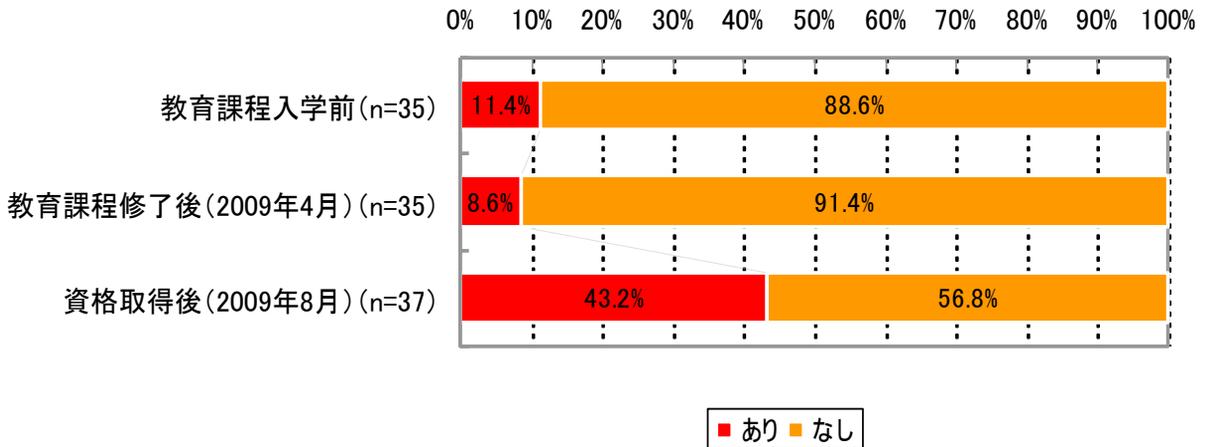
認定看護師教育課程入学前の勤務時間内実践時間数(週単位)は、「40時間」が62.7%であり、次いで「10時間以下」が15.4%であった。教育課程入学前から資格取得後までの実践時間数を見ると、どの時間帯も大きな変化は見られなかった(図53)。

勤務時間外における実践時間数は、「0~2時間まで」が資格取得後で半数以下となり、「9時間以上」が資格取得後で2倍以上に増加していた(図54)。

3) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の活動範囲について



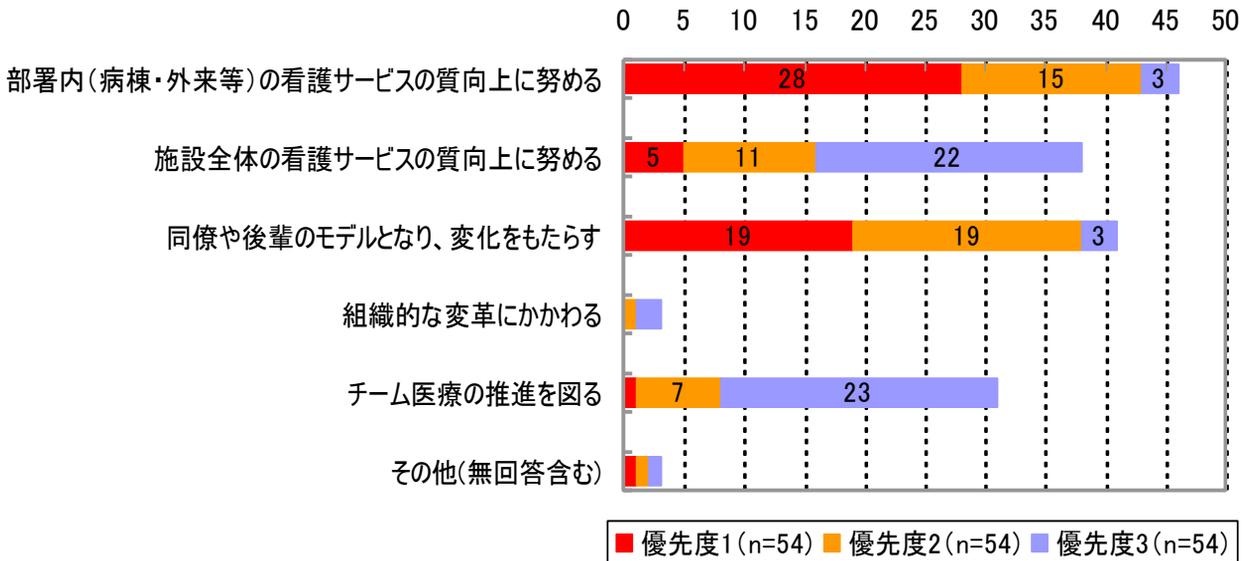
<図55. 集中ケア・資格取得前後の活動範囲の変化>



<図56. 集中ケア・資格取得前後の施設外地域活動の変化>

認定看護師教育課程入学前での施設内の活動範囲は、「所属部署内に限る」が73.6%であった。教育課程修了から資格取得後の傾向を見ると、「所属部署内に限る」は4%に減少し、活動範囲が拡大していた(図55)。
施設外地域活動の範囲は、「あり」の者が教育課程入学前の11.4%から資格取得後には43.2%に増加していた(図56)。

4) 今後5年間で、力を入れて取り組んでいきたい活動について

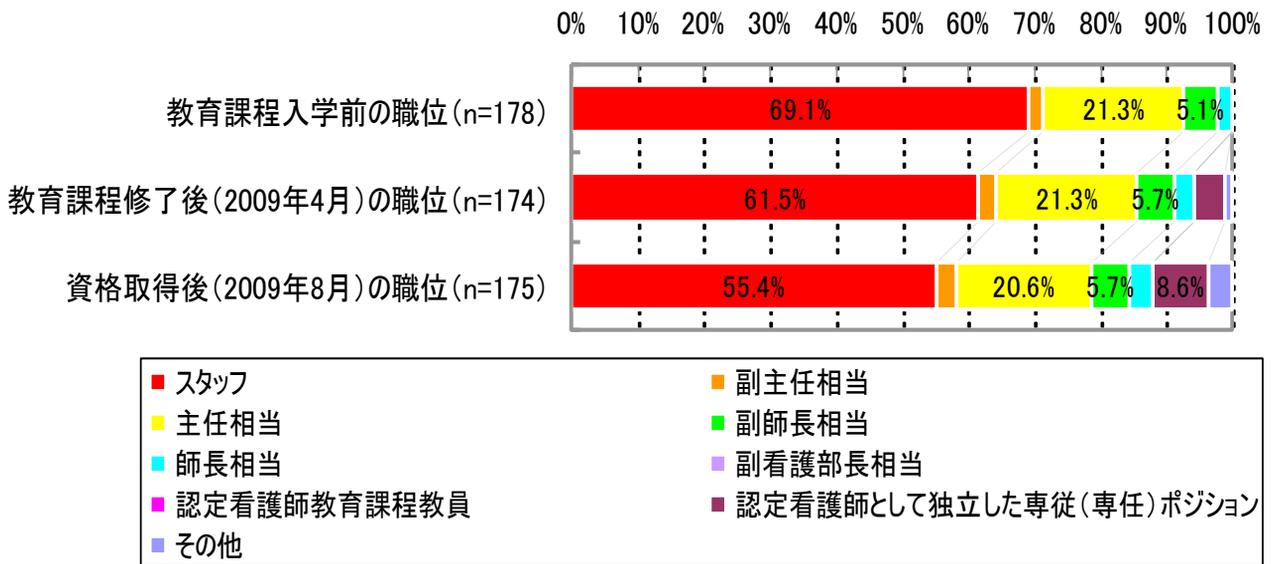


<図57. 集中ケア・今後5年間の活動目標>

優先度1～3をあわせて見ると、「部署内(病棟・外来等)の看護サービスの質向上に努める」が回答総数162名中46名で最も多かった。優先度の一番高い項目でも同項目が28名で最も多かった(図57)。

4 緩和ケア

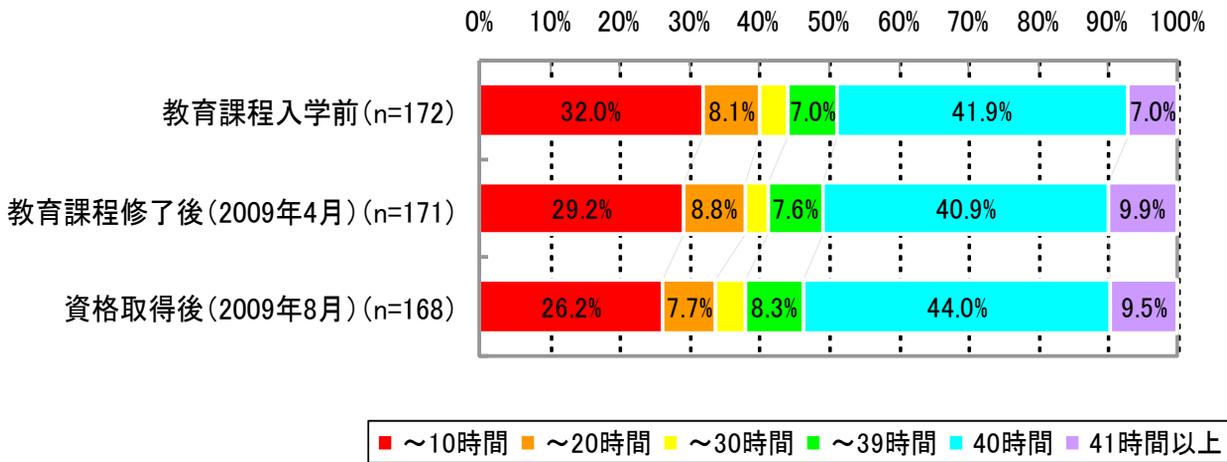
1) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の職位について



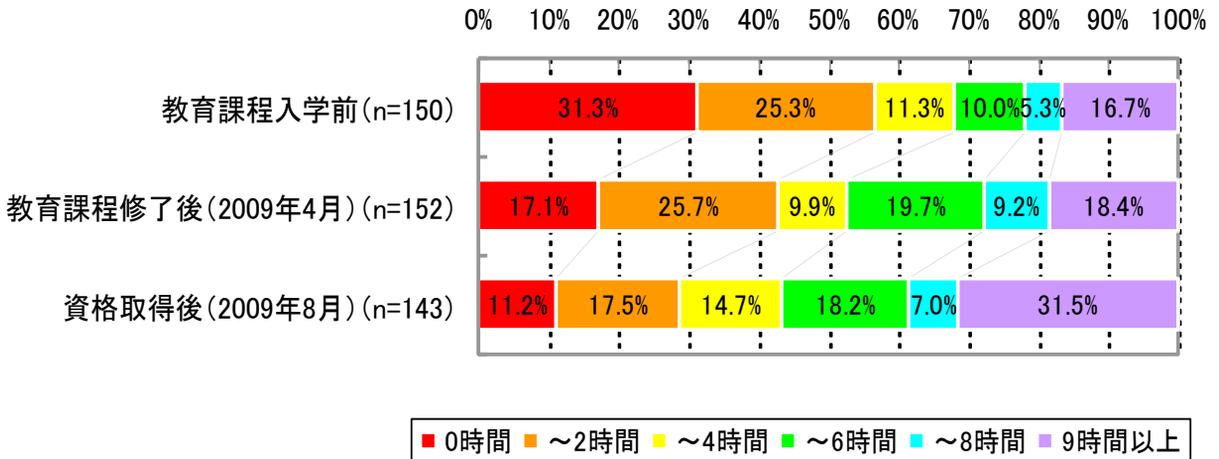
<図58. 緩和ケア・資格取得前後の職位の変化>

認定看護師資格取得前後で、緩和ケアの認定者の職位は、「スタッフ」の割合が69.1%から55.4%に減少し、「認定看護師として独立した専従(専任)ポジション」の割合が0%から8.6%に増加していた(図58)。

2.) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の認定看護分野での
時間内／時間外勤務における実践時間数について



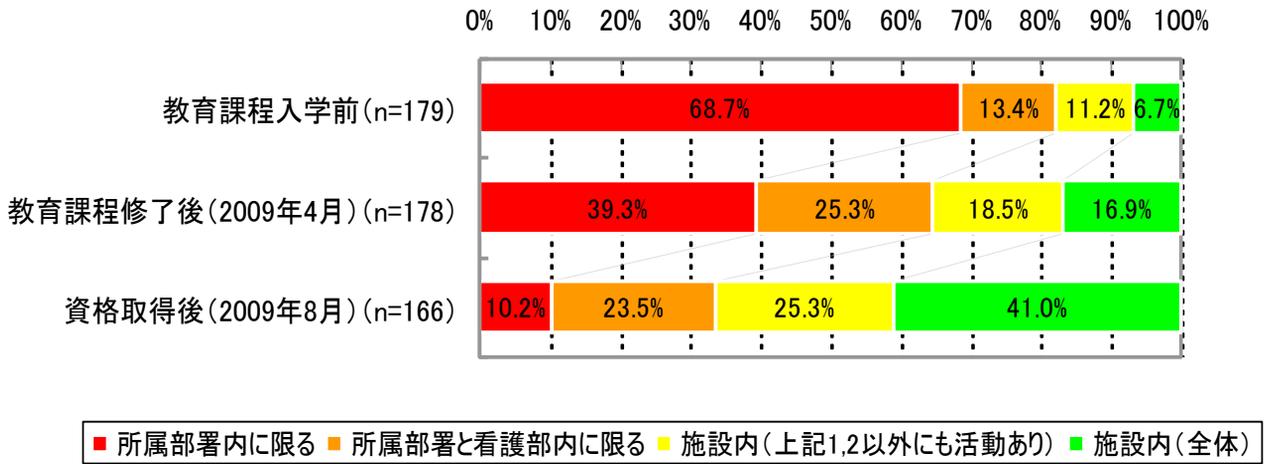
<図59. 緩和ケア・資格取得前後の勤務時間内における実践時間数の変化>



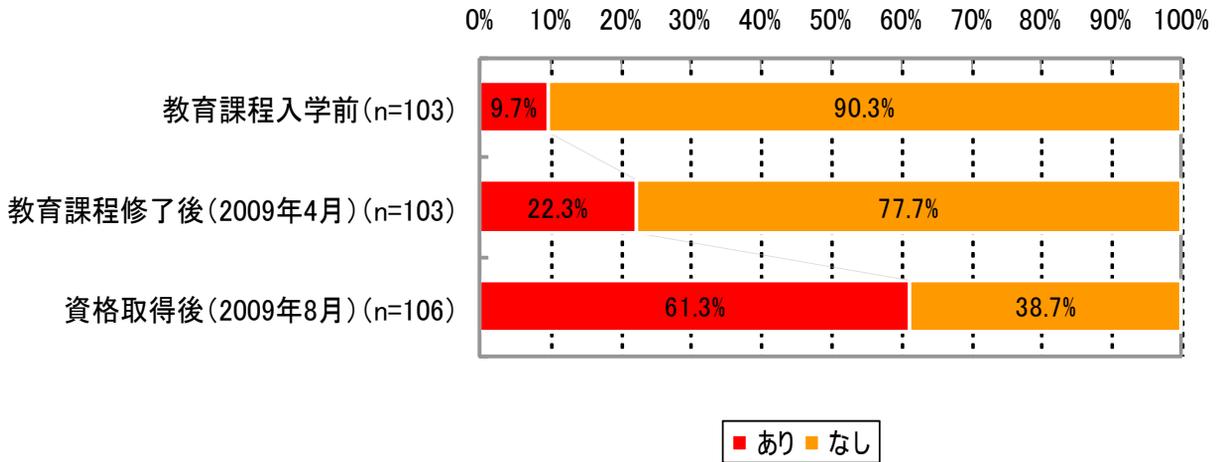
<図60. 緩和ケア・資格取得前後の勤務時間外における実践時間数の変化>

認定看護師教育課程入学前の勤務時間内実践時間数(週単位)は「40時間」が41.9%、「10時間以下」が32.0%であった。教育課程入学前から資格取得後までの実践時間数では、「10時間以下」が減少し、「40時間」が増加していた(図59)。
勤務時間外における実践時間数は、「0~2時間まで」が資格取得後でほぼ半減し、「9時間以上」は入学前に比べると資格取得後でほぼ倍増していた(図60)。

3) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の活動範囲について



<図61. 緩和ケア・資格取得前後の活動範囲の変化>

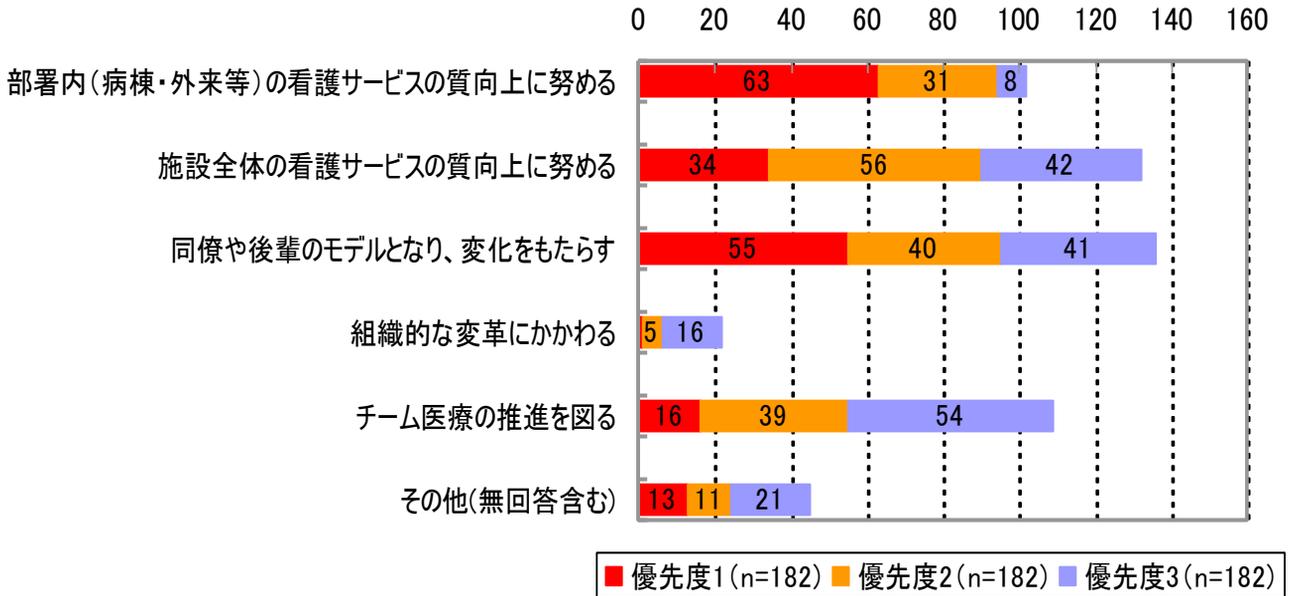


<図62. 緩和ケア・資格取得前後の施設外地域活動の変化>

認定看護師教育課程入学前での施設内の活動範囲は、「所属部署内に限る」が69%であった。教育課程修了から資格取得後の傾向を見ると、「所属部署内に限る」10.2%に減少し、活動範囲が拡大していた(図61)。

施設外地域活動の範囲は、「あり」の者が教育課程入学前の9.7%から資格取得後には61.3%に増加していた(図62)。

4) 今後5年間で、力を入れて取り組んでいきたい活動について

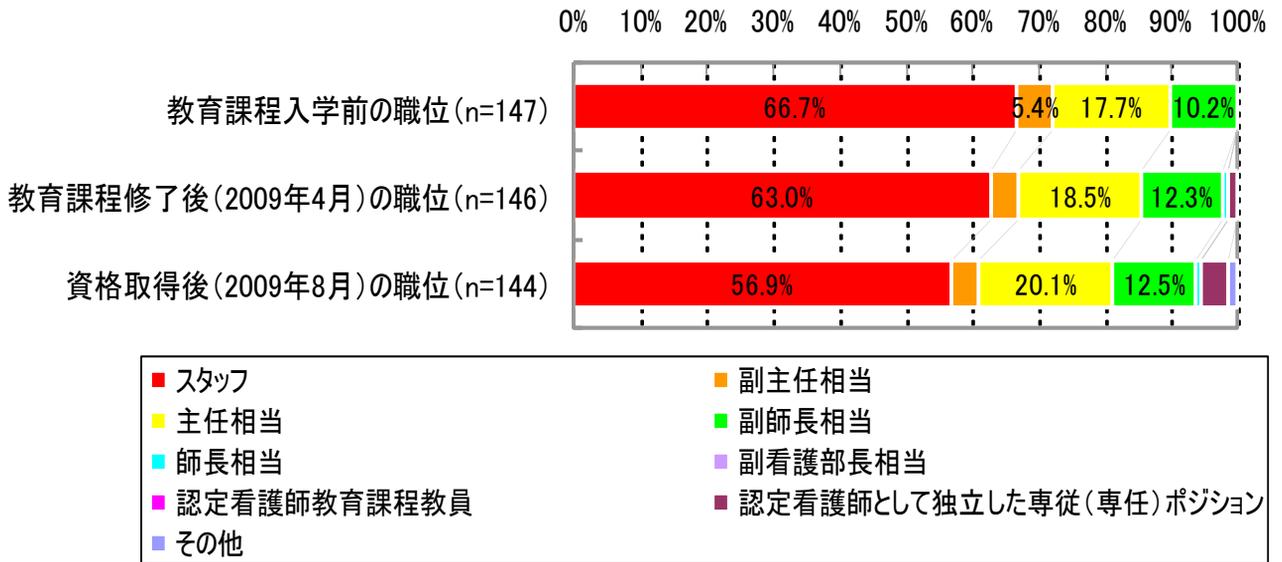


<図63. 緩和ケア・今後5年間の活動目標>

優先度1～3をあわせて見ると、「同僚や後輩のモデルとなり、変化をもたらす」が回答総数546名中136名で最も多かった。優先度の一番高い項目では「部署内(病棟・外来等)の看護サービスの質向上に努める」が63名で最も多かった(図63)。

5 がん化学療法看護

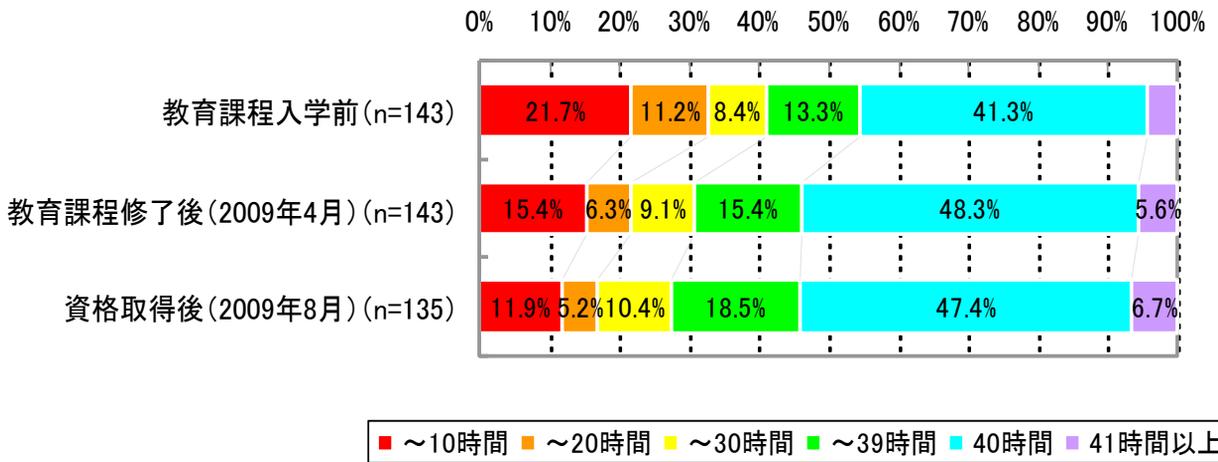
1) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の職位について



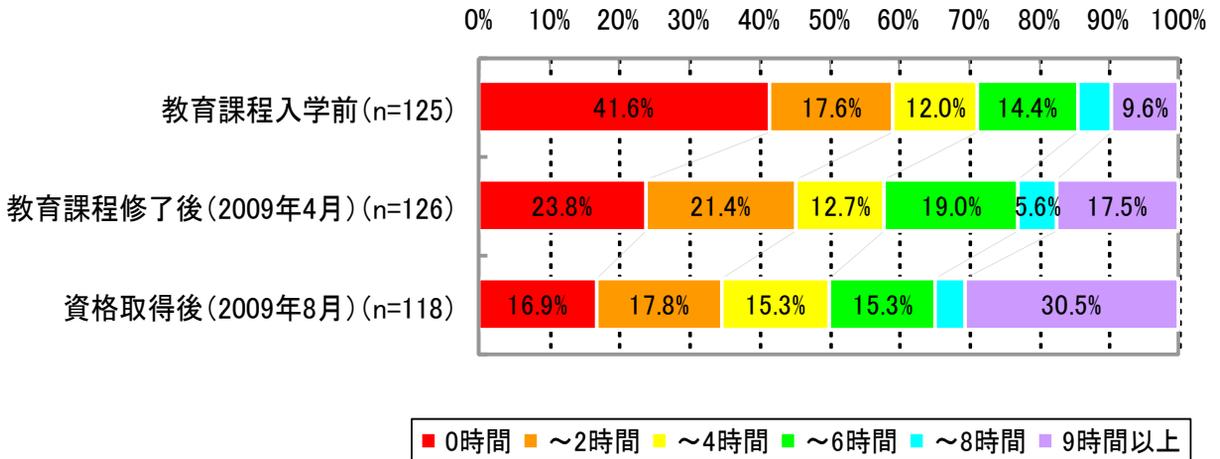
<図64. がん化学療法看護・資格取得前後の職位の変化>

認定看護師資格取得前後で、がん化学療法看護分野の認定者の職位は、「スタッフ」の割合が66.7%から58.9%に減少し、「主任相当」の割合が17.7%から20.1%に、「副師長相当」の割合が10.2%から12.5%に増加していた(図64)。

2) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の認定看護分野での
時間内／時間外勤務における実践時間数について



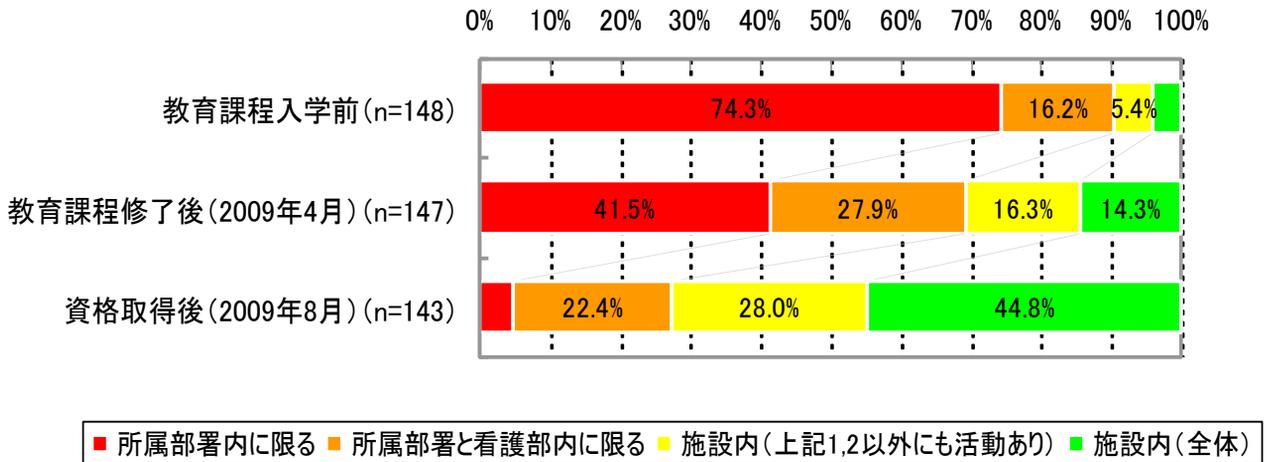
<図65. がん化学療法看護・資格取得前後の勤務時間内における実践時間数の変化>



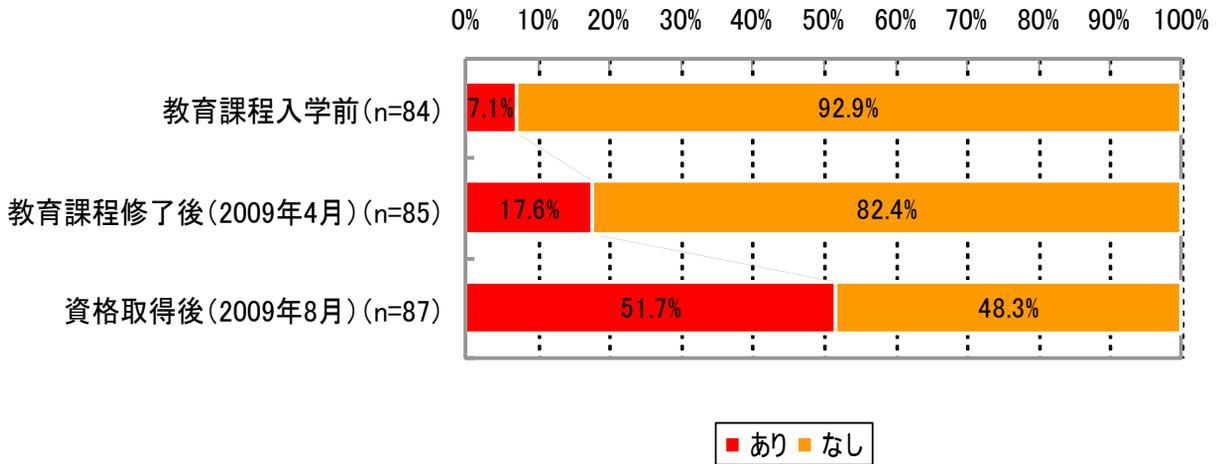
<図66. がん化学療法看護・資格取得前後の時間外勤務における実践時間数の変化>

認定看護師教育課程入学前の勤務時間内実践時間数(週単位)は「40時間」が41.3%であり、「10時間以下」が21.7%であった。教育課程入学前から資格取得後までの実践時間数を見ると、20時間までが減少し、20時間を超えるものが増加していた(図65)。
時間外勤務における実践時間数は、「0時間」が半数以下となり「9時間以上」が資格取得後に3倍以上に増加していた(図66)。

3) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の活動範囲について



<図67. がん化学療法看護・資格取得前後の活動範囲の変化>

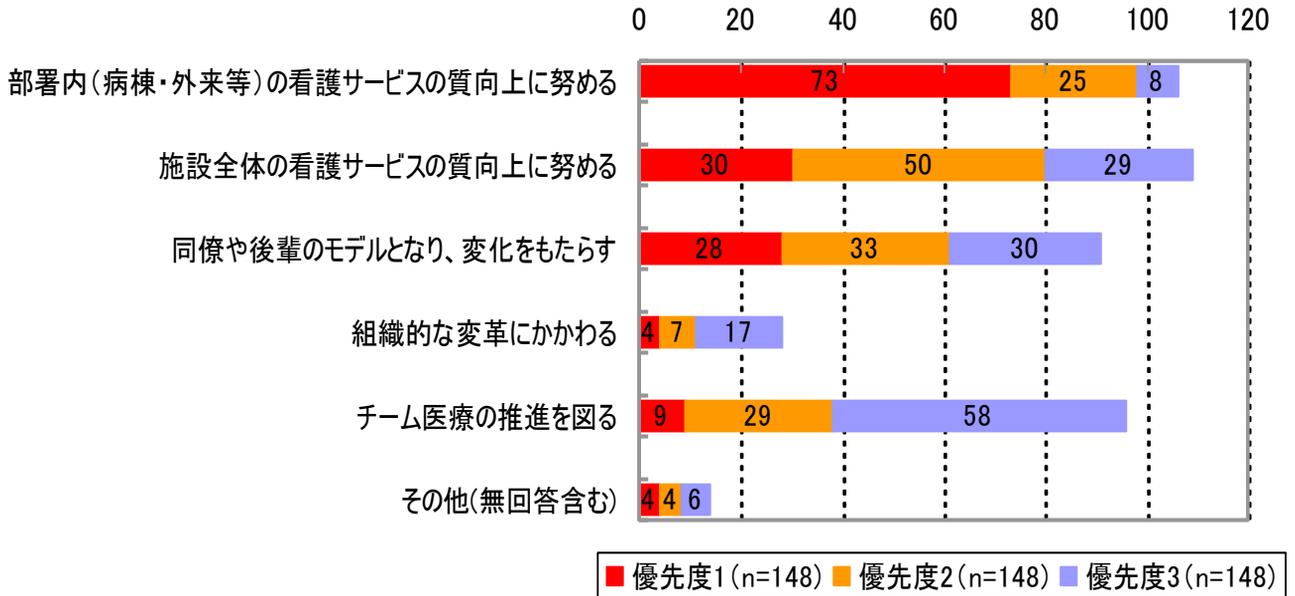


<図68. がん化学療法看護・資格取得前後の施設外地域活動の変化>

認定看護師教育課程入学前での施設内の活動範囲は、「所属部署内に限る」が74.3%であった。教育課程修了から資格取得後の傾向を見ると、「所属部署内に限る」は5%に減少し、活動範囲が拡大していた(図67)。

施設外地域活動の範囲は、「あり」の者が教育課程入学前の7.1%から資格取得後には51.7%に増加していた(図68)。

4) 今後5年間で、力を入れて取り組んでいきたい活動について

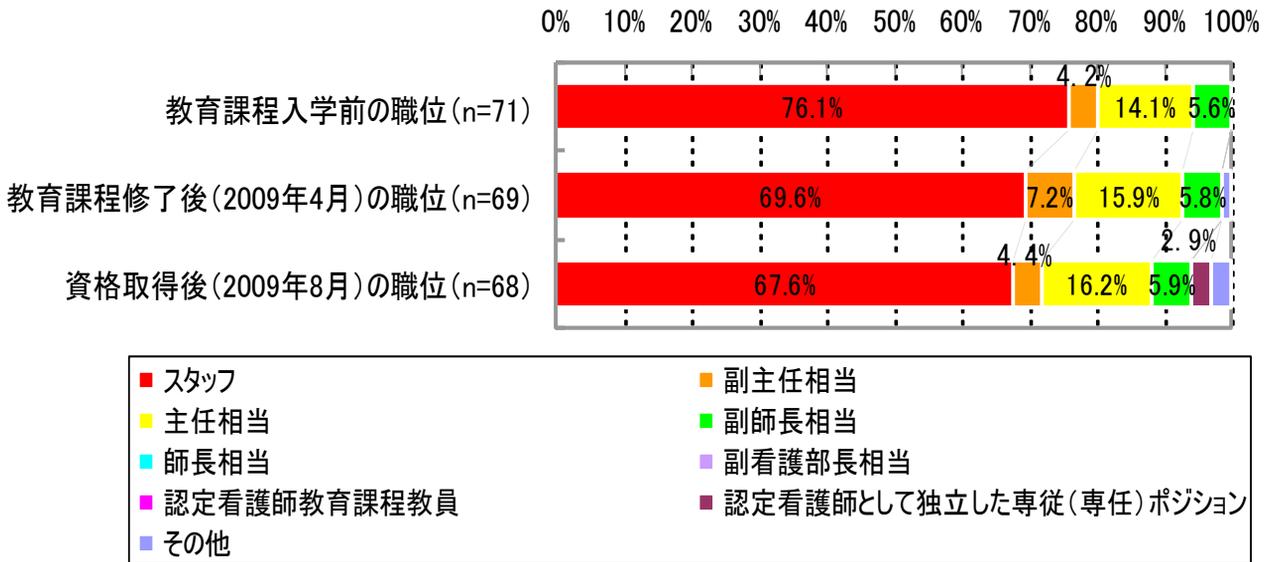


<図69. がん化学療法看護・今後5年間の活動目標>

優先度1～3をあわせて見ると、「施設全体の看護サービスの質向上に努める」が回答総数444名中109名で最も多かった。優先度の一番高い項目では「部署内(病棟・外来等)の看護サービスの質向上に努める」が73名で最も多かった(図69)。

6 がん性疼痛看護

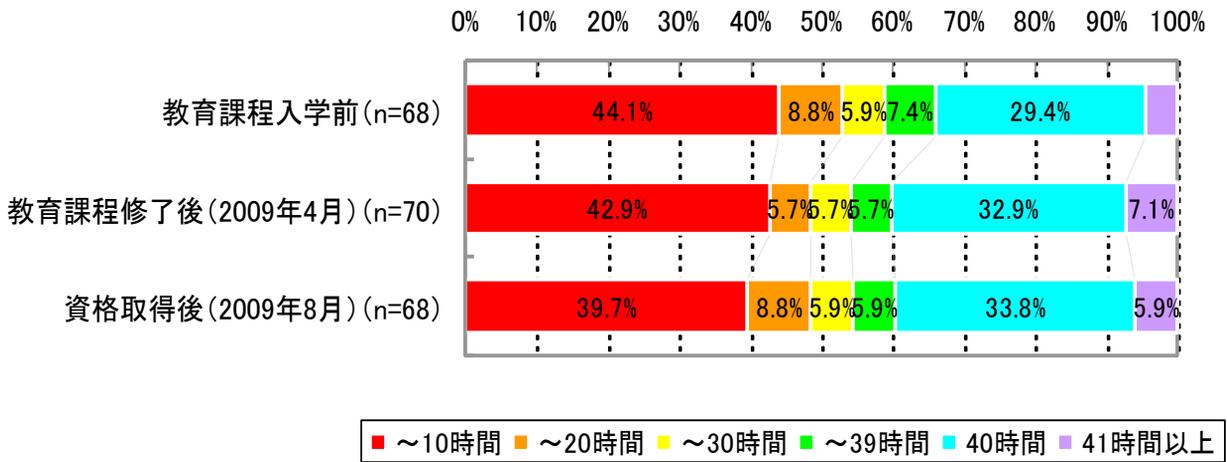
1) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の職位について



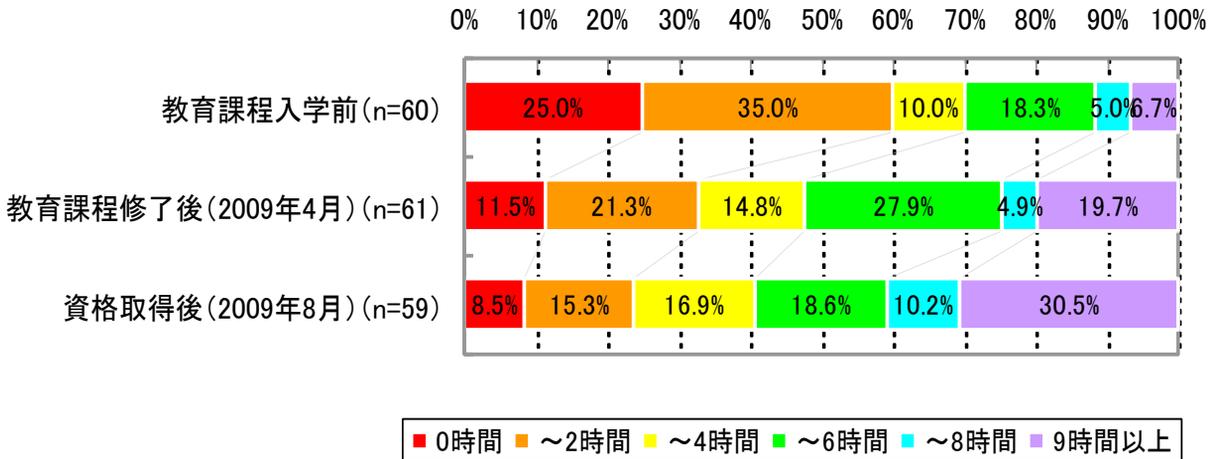
<図70. がん性疼痛看護・資格取得前後の職位の変化>

認定看護師資格取得前後で、がん性疼痛看護分野の認定者の職位は、「スタッフ」の割合が76.1%から67.6%に減少し、「主任相当」の割合は14.1%から16.2%に、「認定看護師として独立した専従(専任)ポジション」の割合は0%から2.9%に増加した(図70)。

2) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の認定看護分野での
時間内／時間外勤務における実践時間数について



<図71.がん性疼痛看護・資格取得前後の勤務時間内における実践時間数の変化>

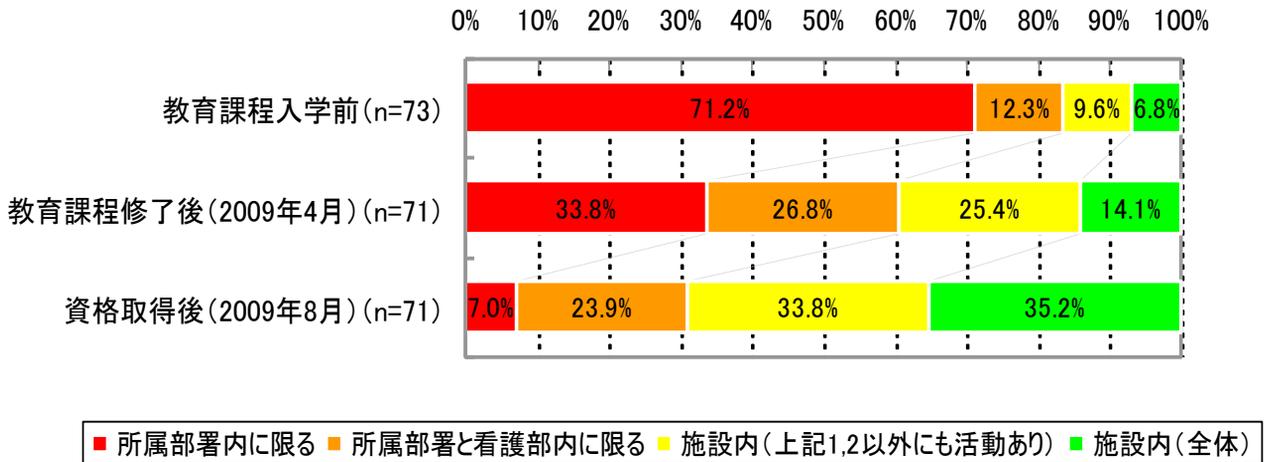


<図72.がん性疼痛看護・資格取得前後の勤務時間外における実践時間数の変化>

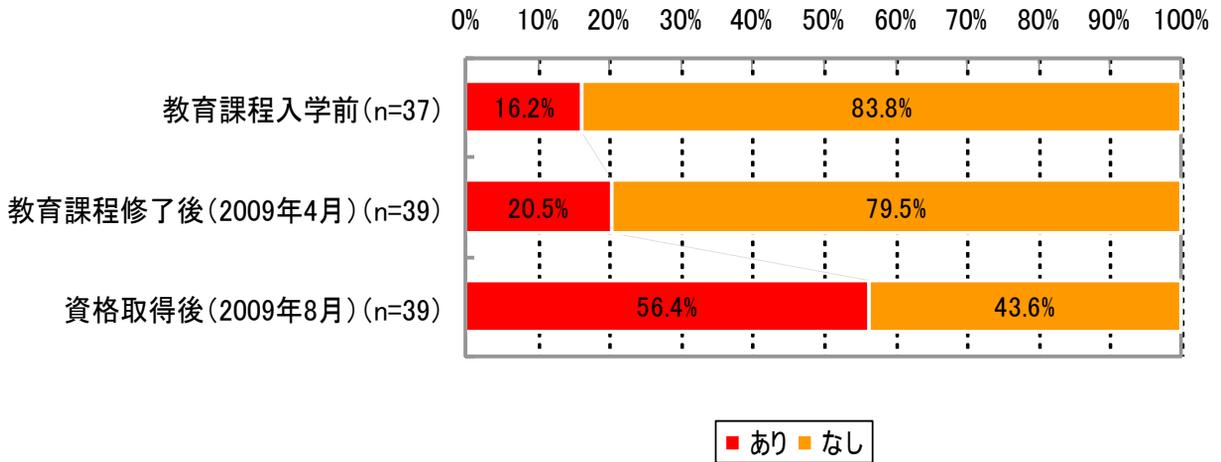
認定看護師教育課程入学前の勤務時間内実践時間数(週単位)は「10時間以下」が44.1%であり、次いで「40時間」が29.4%であった。教育課程入学前から資格取得後までの実践時間数を見ると、どの時間帯も大きな変化は見られなかった(図71)。

勤務時間外における実践時間数は、「0~2時間まで」が資格取得後に半数以下となり、「9時間以上」は資格取得後で4倍以上に増加していた(図72)。

3) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の活動範囲について



<図73. がん性疼痛看護・資格取得前後の活動範囲の変化>

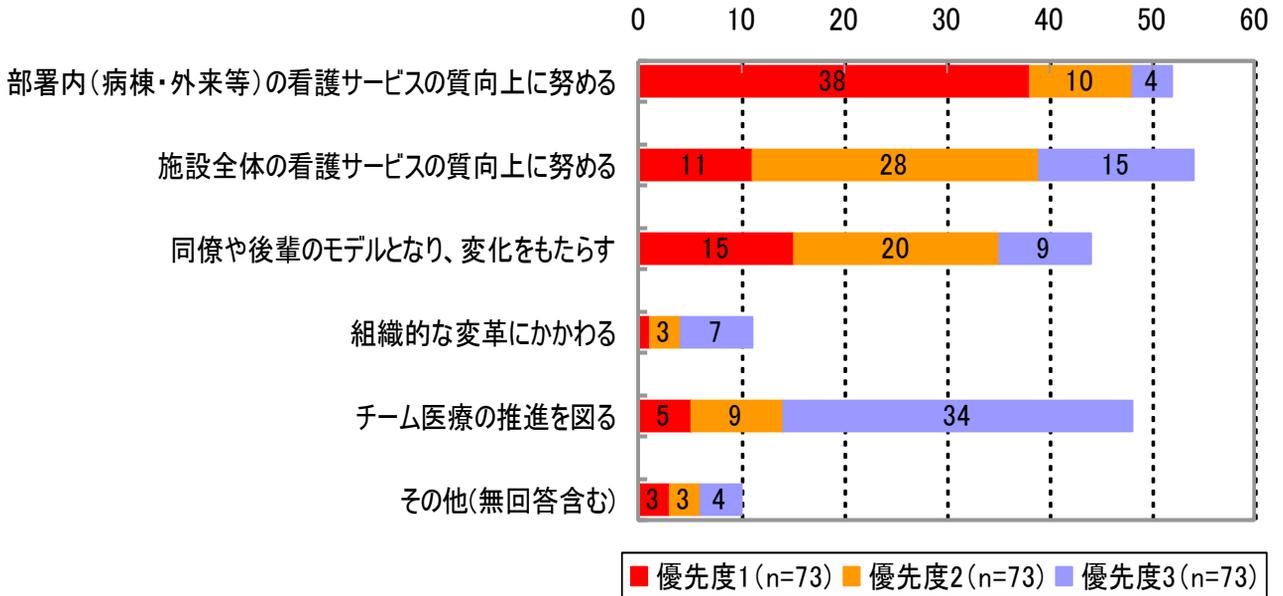


<図74. がん性疼痛看護・資格取得前後の施設外地域活動の変化>

認定看護師教育課程入学前での施設内の活動範囲は、「所属部署内に限る」が71%であった。教育課程修了から資格取得後の傾向を見ると、「所属部署内に限る」は7%に減少し、活動範囲は拡大していた(図73)。

施設外地域活動の範囲は、「あり」の者が教育課程入学前の16.2%から資格取得後には56.4%に増加していた(図74)。

4) 今後5年間で、力を入れて取り組んでいきたい活動について

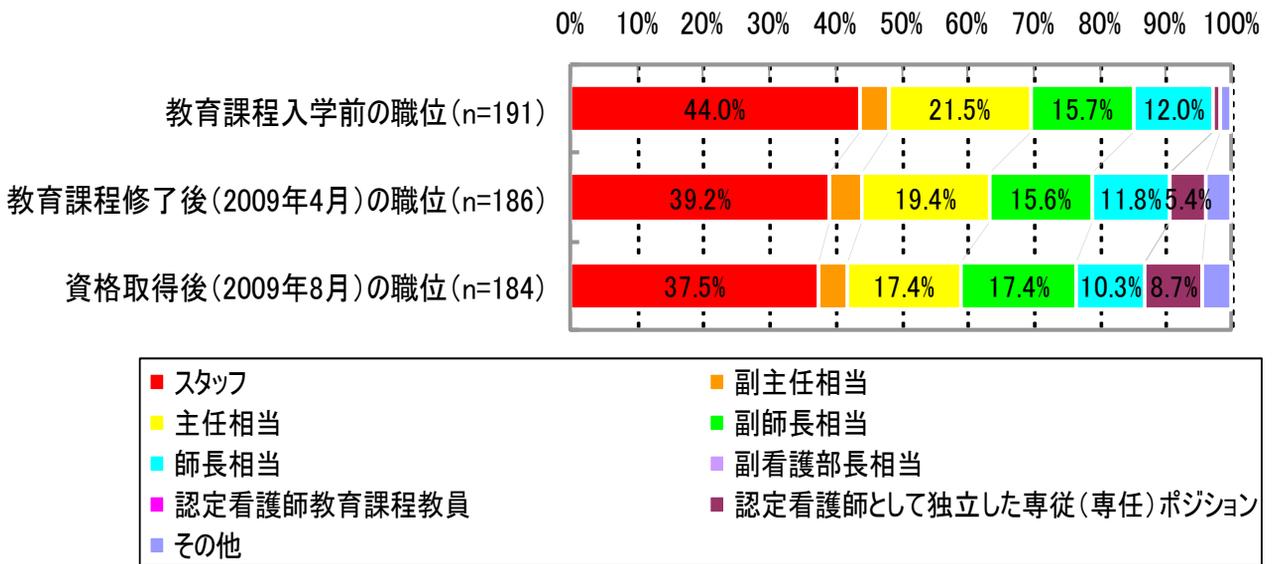


<図75.がん性疼痛看護・今後5年間の活動目標>

優先度1～3をあわせて見ると、「施設全体の看護サービスの質向上に努める」が回答総数219中54名で最も多かった。優先度の一番高い項目では「部署内(病棟・外来等)の看護サービスの質向上に努める」が38名で最も多かった(図75)。

7 感染管理

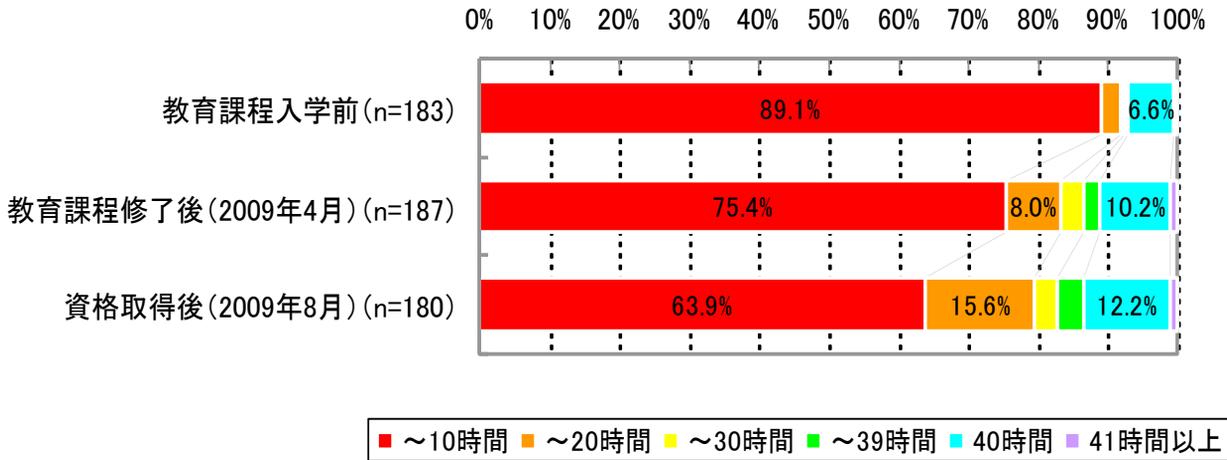
1) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の職位について(感染管理)



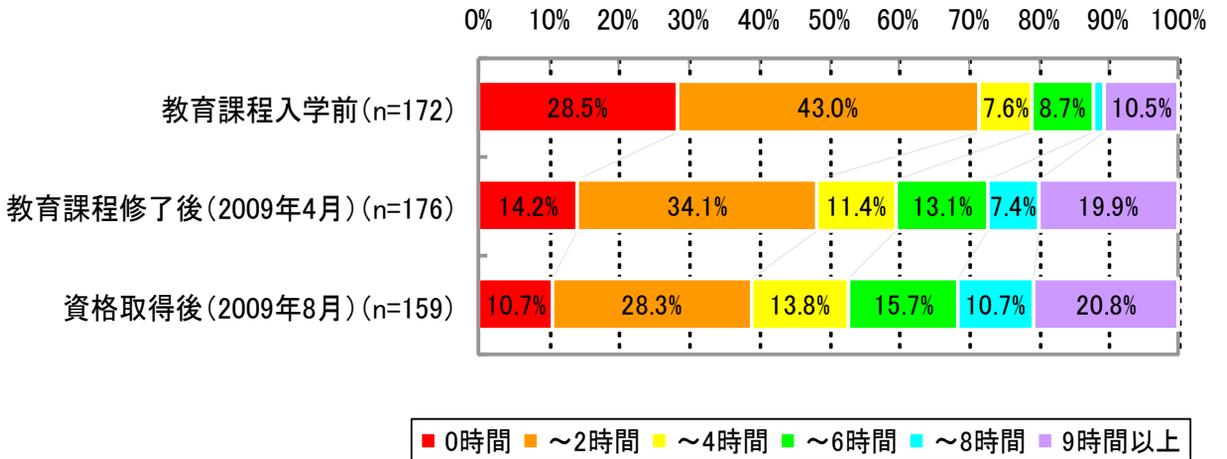
<図76. 感染管理・資格取得前後の職位の変化>

認定看護師資格取得前後で、感染管理分野の認定者の職位は、「スタッフ」の割合が44.0%から37.5%に減少し、「認定看護師として独立した専従(専任)ポジション」の割合が1%から8.7%に増加していた(図76)。

2) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の認定看護分野での
時間内／時間外勤務における実践時間数について



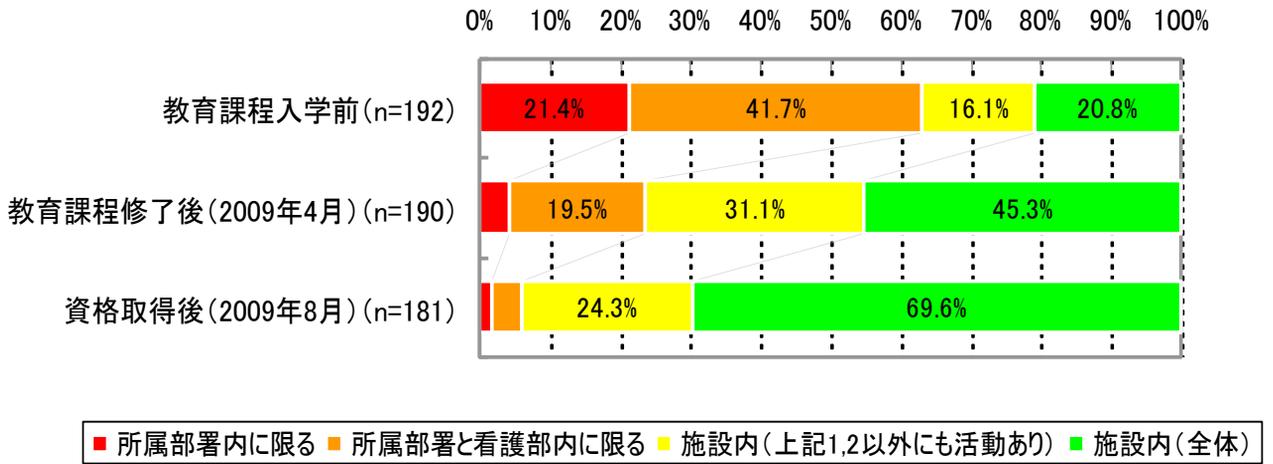
<図77. 感染管理・資格取得前後の勤務時間内における実践時間数の変化>



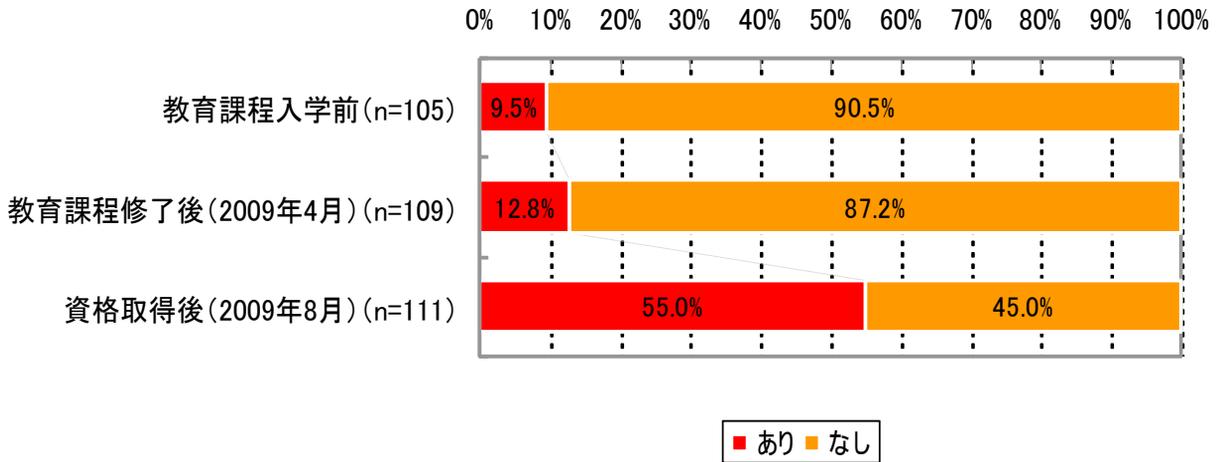
<図78. 感染管理・資格取得前後の勤務時間外における実践時間数の変化>

認定看護師教育課程入学前の勤務時間内実践時間数(週単位)は、「10時間以下」が89.1%であり、次いで「40時間」が6.6%であった。教育課程入学前～資格取得後までの実践時間数を見ると、「10時間以下」が減少し、20時間を越えるものが全体的に増加していた(図77)。
勤務時間外における実践時間数は、「0～2時間まで」が減少し、2時間を越えるものが全体的に増加していた(図78)。

3) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の活動範囲について



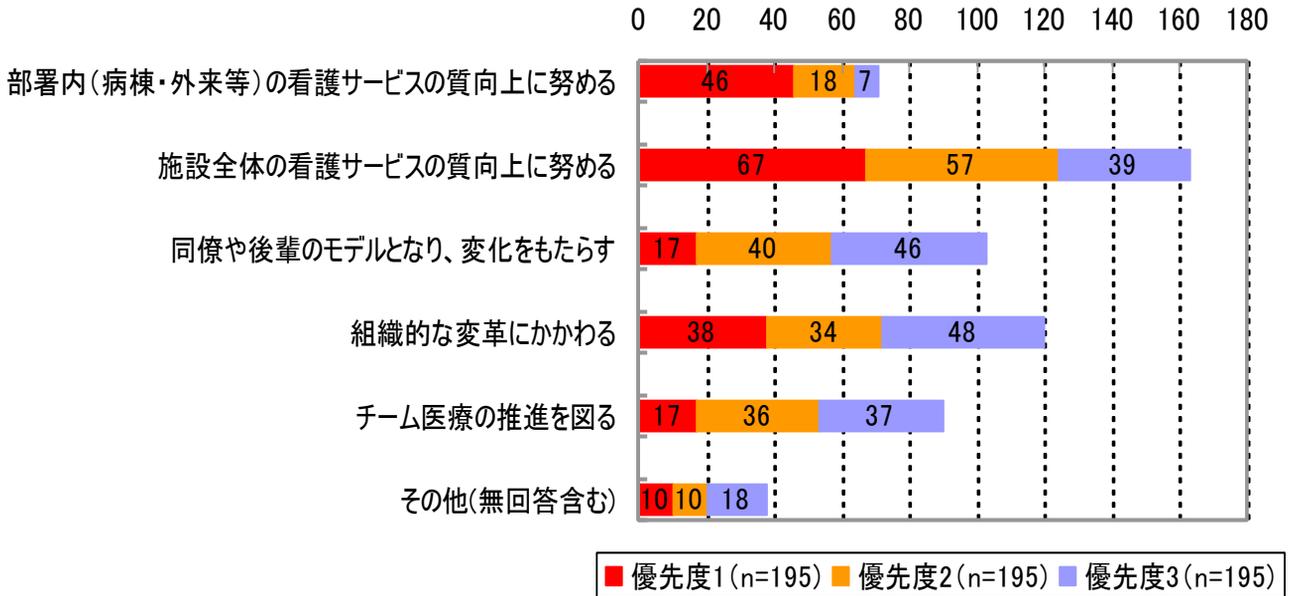
<図79. 感染管理・資格取得前後の活動範囲の変化>



<図80. 感染管理・資格取得前後の施設外地域活動の変化>

認定看護師教育課程入学前での施設内の活動範囲は、「所属部署と看護部内に限る」が42%で最も多く、次いで「所属部署内に限る」が21%であった。教育課程修了から資格取得後の傾向を見ると、「所属部署内に限る」や「所属部署と看護部内に限る」が減少し(資格取得後:両方あわせて6%)、「施設内(全体)」が資格取得後3倍以上増加していた(図79)。
施設外地域活動の範囲は、「あり」の者が教育課程入学前の9.5%から資格取得後には55.0%に増加していた(図80)。

4) 今後5年間で、力を入れて取り組んでいきたい活動について

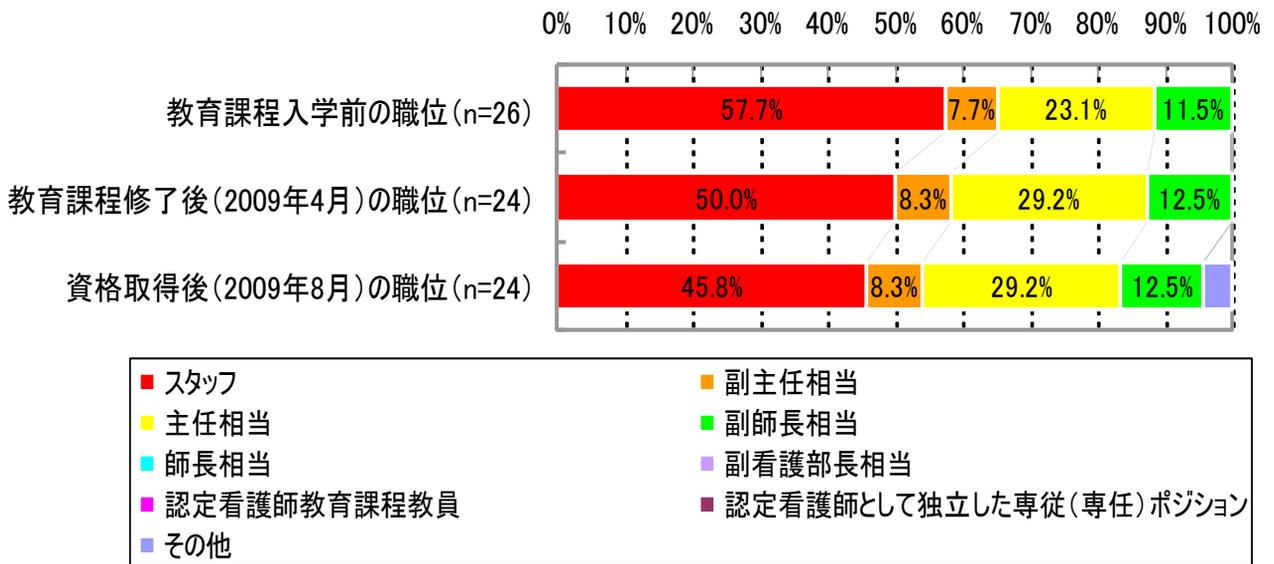


<図81. 感染管理・今後5年間の活動目標>

優先度1～3をあわせて見ると、「施設全体の看護サービスの質向上に努める」が回答総数585名中163名で最も多かった。優先度の一番高い項目は同項目で、67名で最も多かった(図81)。

8 糖尿病看護

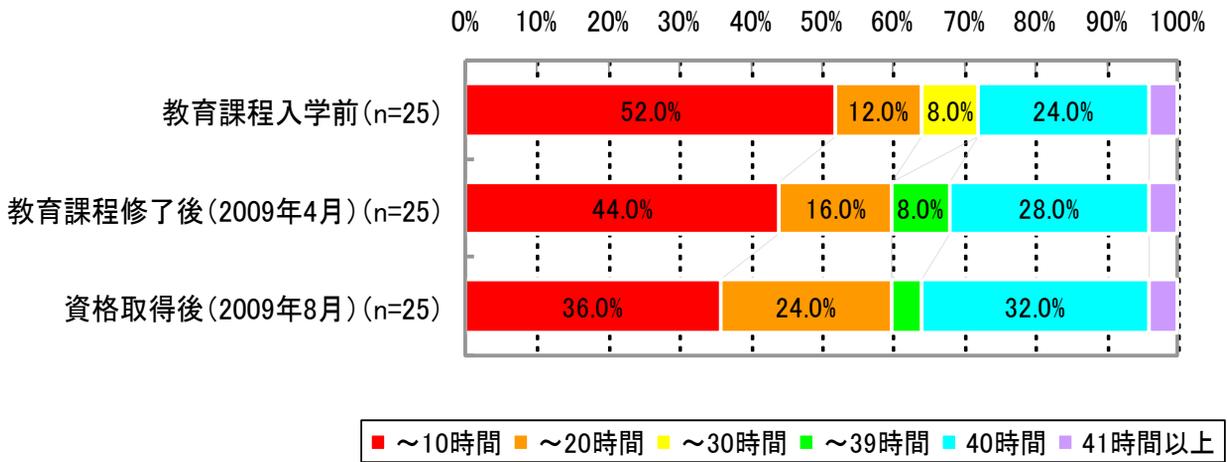
1) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の職位について



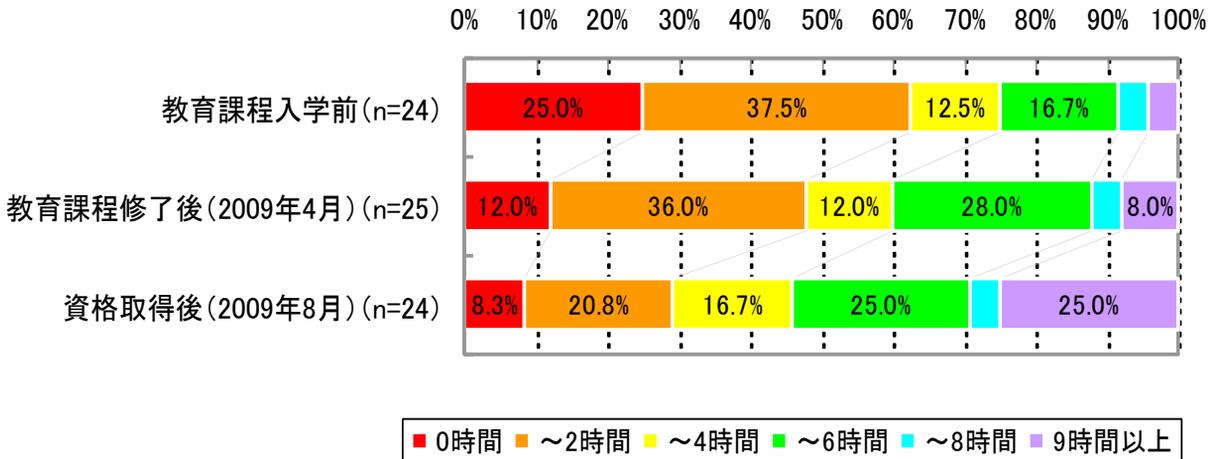
<図82. 糖尿病看護・資格取得前後の職位の変化>

認定看護師資格取得前後で、糖尿病看護分野の認定者の職位は、「スタッフ」の割合が57.7%から45.8%に減少し、「主任相当」の割合が23.1%から29.2%に増加していた(図82)

2) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の認定看護分野での
時間内／時間外勤務における実践時間数について



<図83. 糖尿病看護・資格取得前後の勤務時間内における実践時間数の変化>

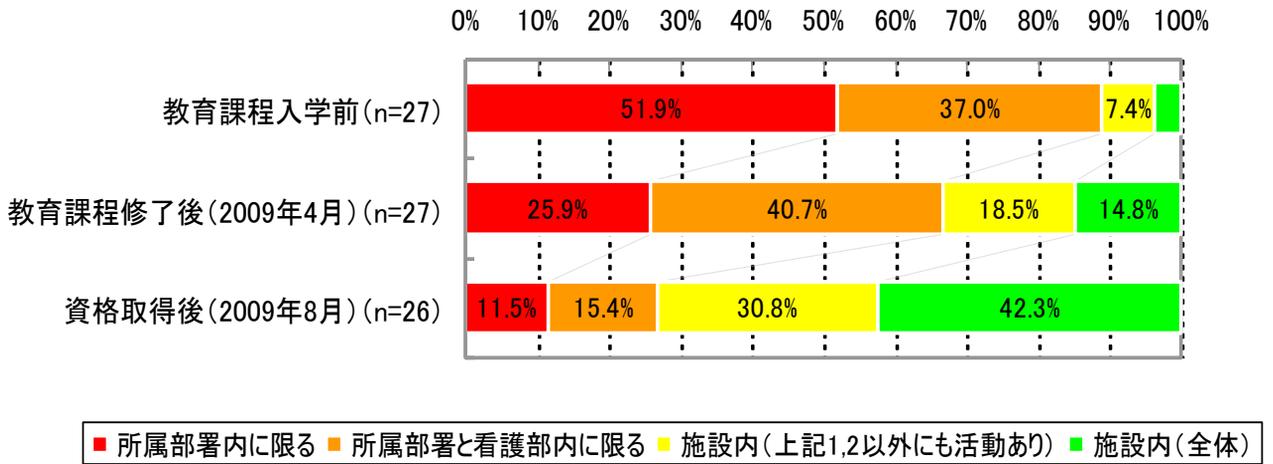


<図84. 糖尿病看護・資格取得前後の勤務時間外における実践時間数の変化>

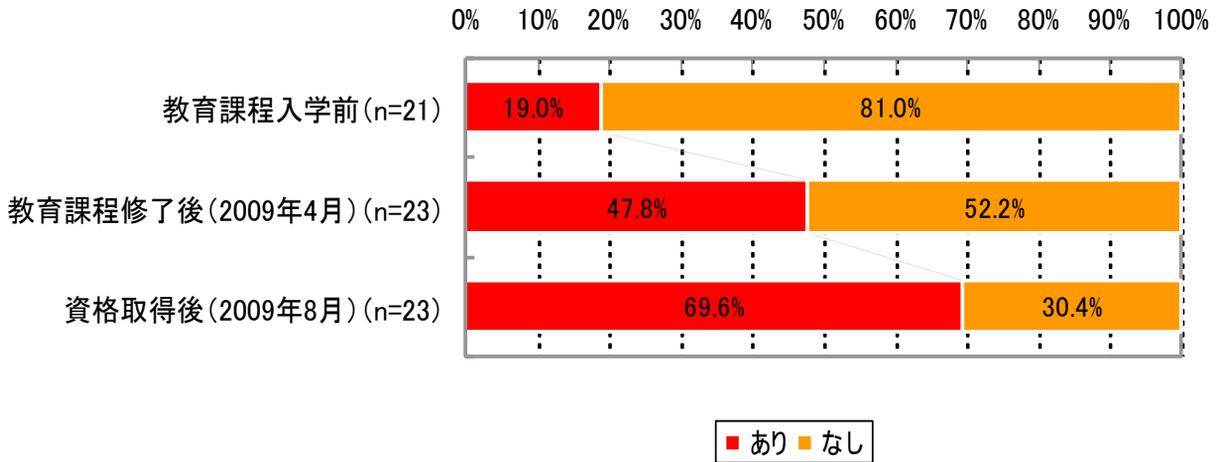
認定看護師教育課程入学前の勤務時間内実践時間数(週単位)は「10時間以下」が52.0%であり、次いで「40時間」が24.0%であった。教育課程入学前から資格取得後までの実践時間数を見ると、「10時間以下」が減少し、20時間を越えるものが全体的に増加していた(図83)。

勤務時間外における実践時間数は、「0~2時間まで」が減少し、2時間を越えるものが増加、特に「9時間以上」は入学前と比べると増加していた(図84)。

3) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の活動範囲について



<図85. 糖尿病看護・資格取得前後の活動範囲の変化>

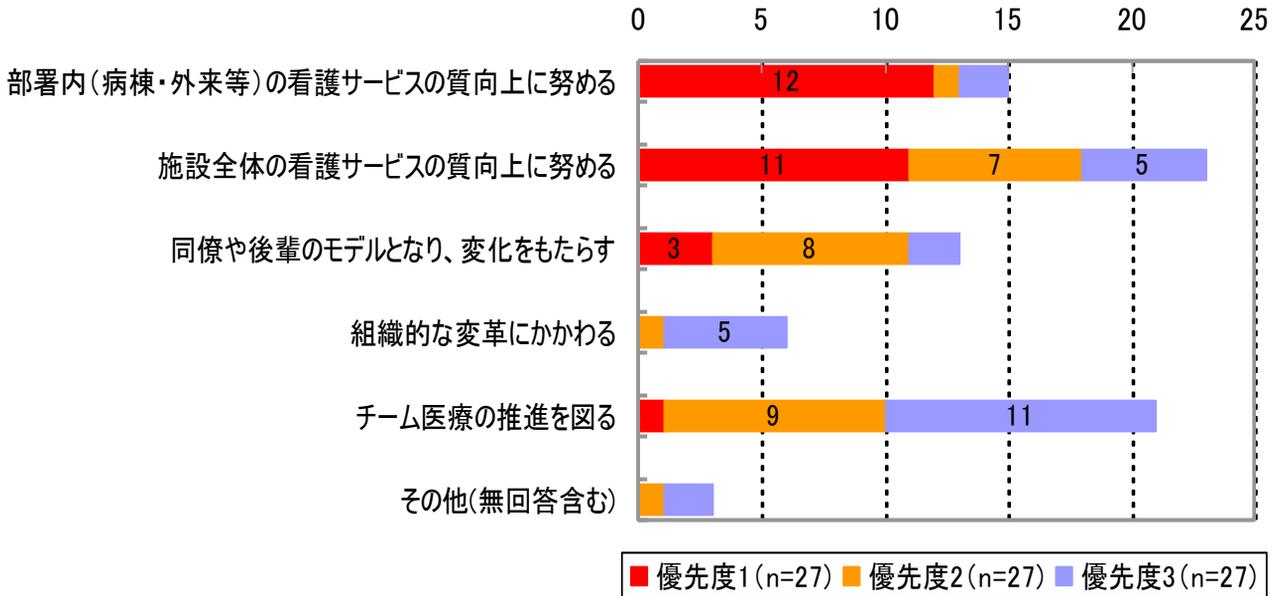


<図86. 糖尿病看護・資格取得前後の施設外地域活動の変化>

認定看護師教育課程入学前での施設内の活動範囲は、「所属部署内に限る」が51.9%であった。教育課程修了から資格取得後の傾向を見ると、「所属部署内に限る」や「所属部署と看護部内に限る」は減少し、活動範囲が拡大していた(図85)。

施設外地域活動の範囲は、「あり」の者が教育課程入学前の19.0%から資格取得後には69.6%に増加していた(図86)。

4) 今後5年間で、力を入れて取り組んでいきたい活動について

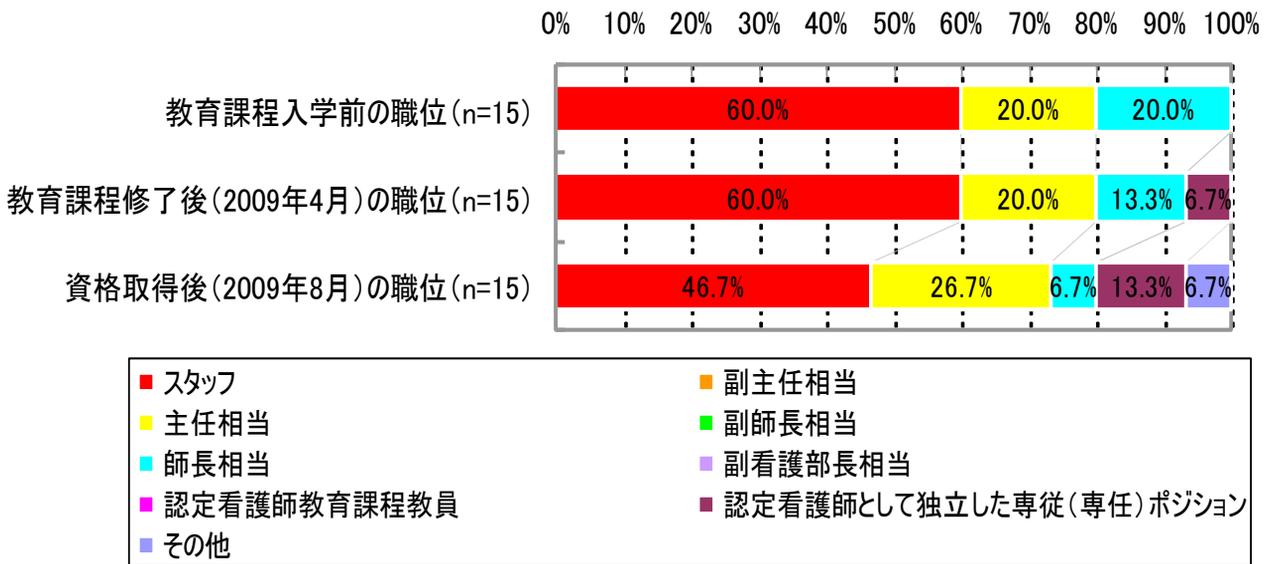


<図87. 糖尿病看護・今後5年間の活動目標>

優先度1～3をあわせて見ると、「施設全体の看護サービスの質向上に努める」が回答総数81名中23名で最も多かった。優先度の一番高い項目では「部署内(病棟・外来等)の看護サービスの質向上に努める」が12名で最も多かった(図87)。

9 不妊症看護

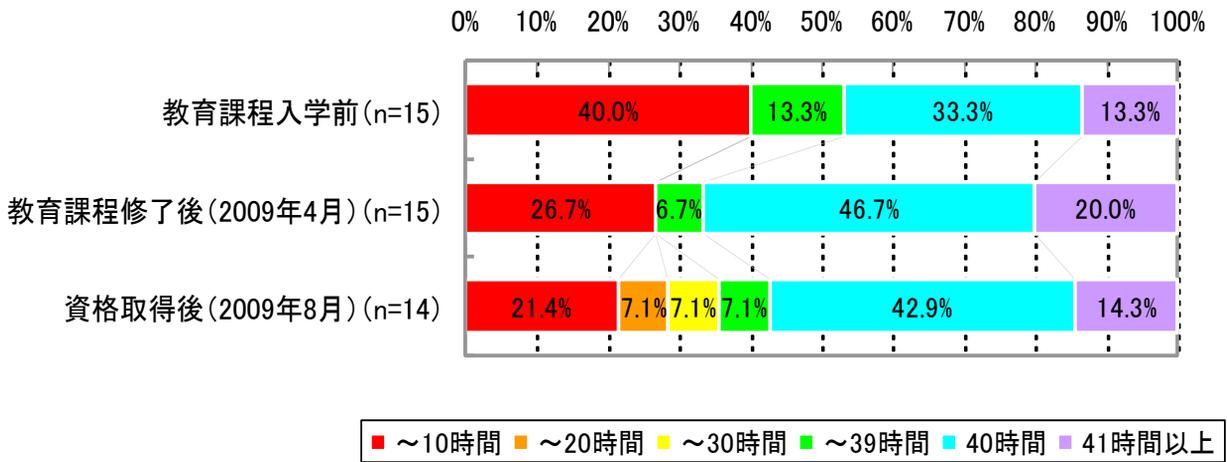
1.) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の職位について



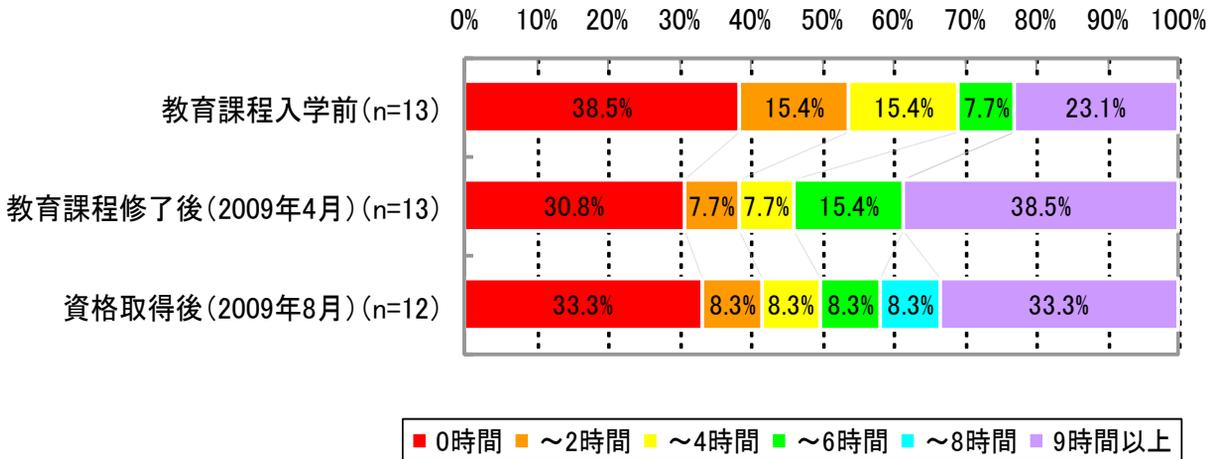
<図88. 不妊症看護・資格取得前後の職位の変化>

認定看護師資格取得前後で、不妊症看護分野の認定者の職位は、「スタッフ」の割合が60.0%から46.7%に減少し、「認定看護師として独立した専従(専任)ポジション」の割合が0%から13.3%に増加していた(図88)。

2) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の認定看護分野での
時間内／時間外勤務における実践時間数について



<図89. 不妊症看護・資格取得前後の勤務時間内における実践時間数の変化>

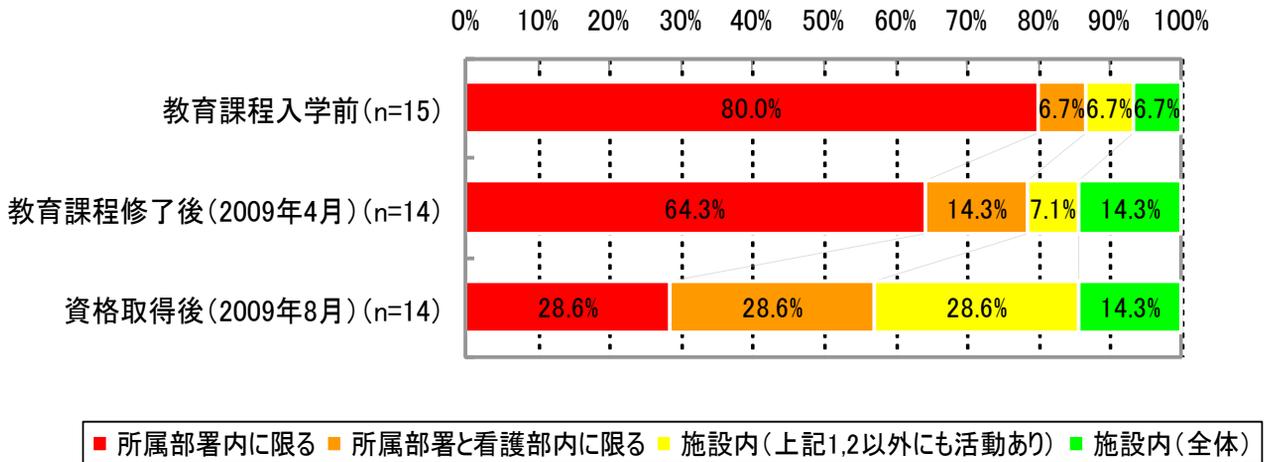


<図90. 不妊症看護・資格取得前後の勤務時間外における実践時間数の変化>

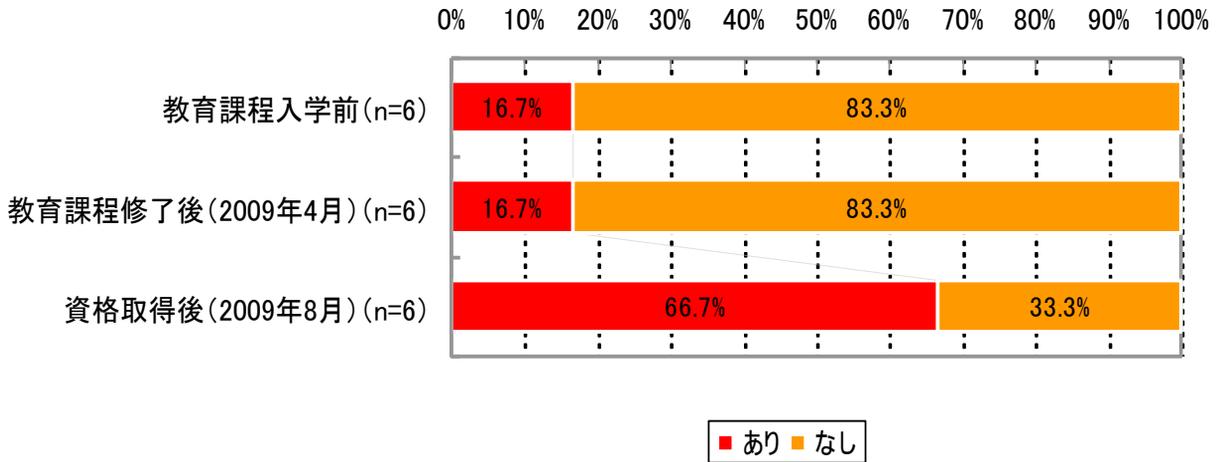
認定看護師教育課程入学前の勤務時間内実践時間数(週単位)は「10時間以下」が40.0%であり、次いで「40時間」が33%であった。教育課程入学前から資格取得後までの実践時間数を見ると、「10時間以下」が減少し、「10～30時間まで」が全体的に増加していた(図89)。

勤務時間外における実践時間数は、若干の変化はあるものの、全体的に教育課程入学前との差異は見られなかった(図90)。

3) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の活動範囲について



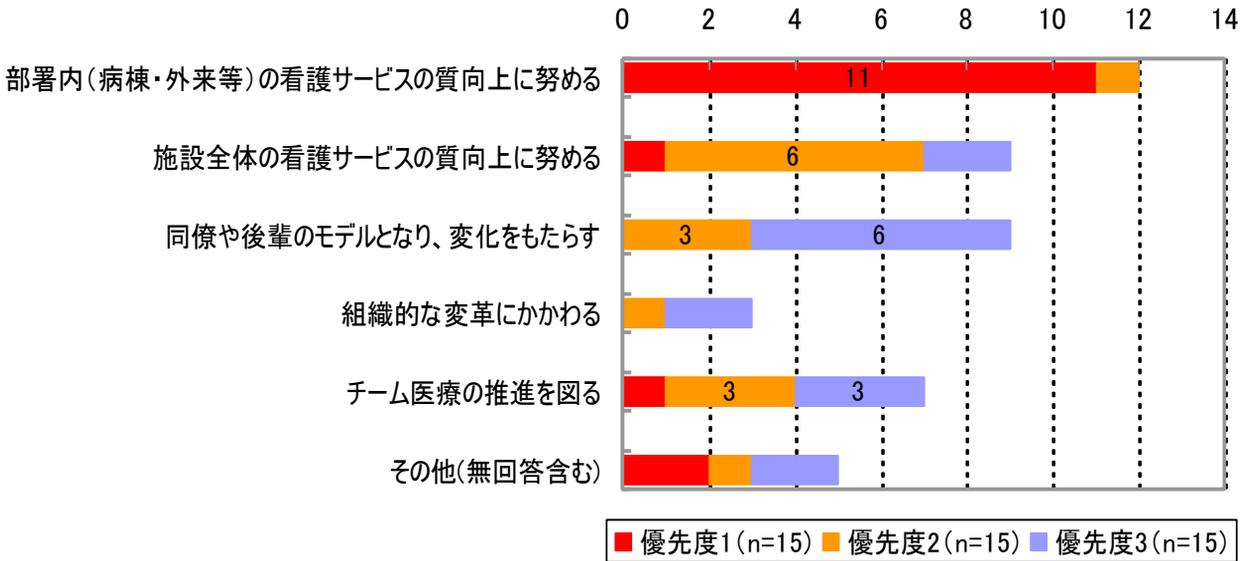
<図91. 不妊症看護・資格取得前後の活動範囲の変化>



<図92. 不妊症看護・資格取得前後の施設外地域活動の変化>

認定看護師教育課程入学前での施設内の活動範囲は、「所属部署内に限る」が80.0%であった。教育課程修了から資格取得後の傾向を見ると、「所属部署内に限る」は28.6%に減少し、活動範囲が拡大していた(図91)。
施設外地域活動の範囲は、「あり」の者が教育課程入学前の16.7%から資格取得後では66.7%に増加していた(図92)。

4) 今後5年間で、力を入れて取り組んでいきたい活動について

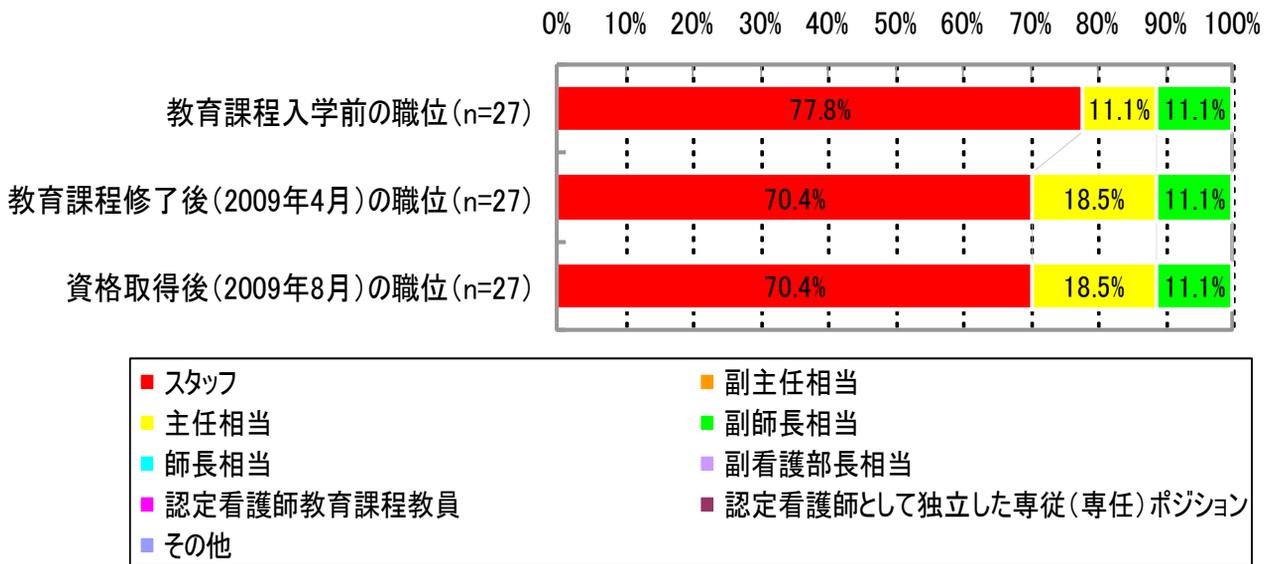


<図93. 不妊症看護・今後5年間の活動目標>

優先度1～3をあわせて見ると、「部署内(病棟・外来等)の看護サービスの質向上に努める」が回答総数45名中12名で最も多かった。優先度の一番高い項目は、同項目が11名で、最も多かった(図93)。

10 新生児集中ケア

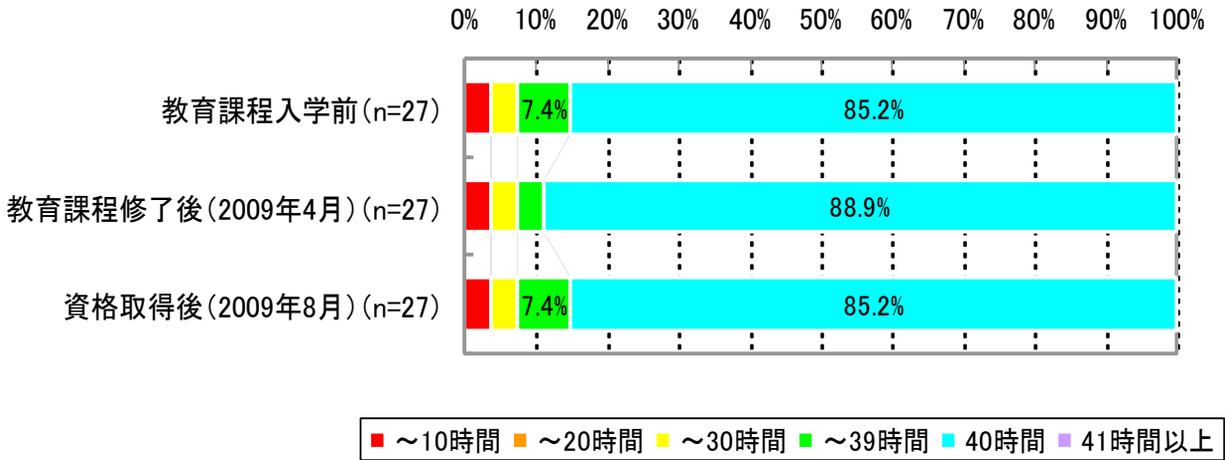
1) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の職位について



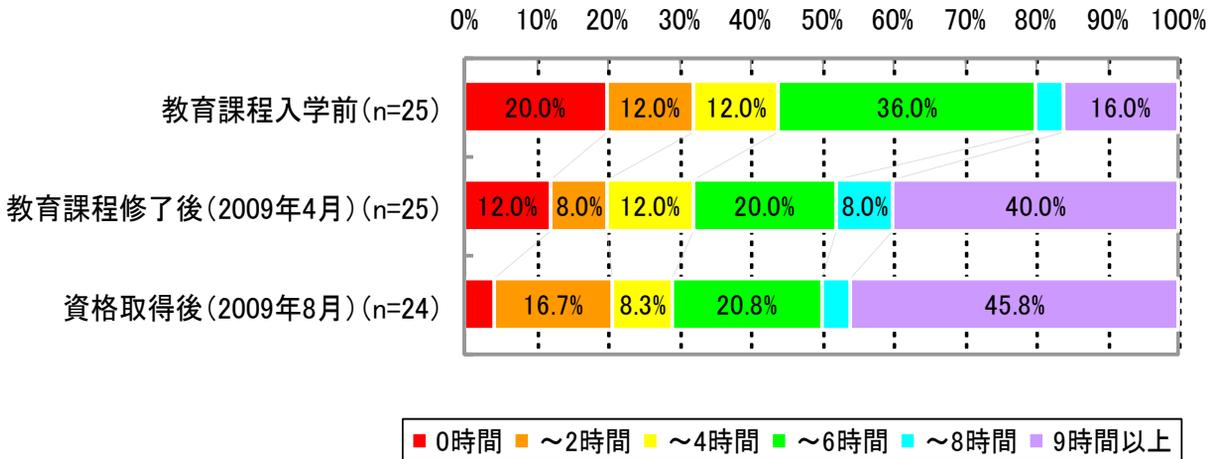
<図94. 新生児集中ケア・資格取得前後の職位の変化>

認定看護師資格取得前後で、新生児集中ケア分野の認定者の職位は、「スタッフ」の割合が77.8%から70.4%に減少し、「主任相当」の割合が11.1%から18.5%に増加していた(図94)。

2) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の認定看護分野での
時間内／時間外勤務における実践時間数について



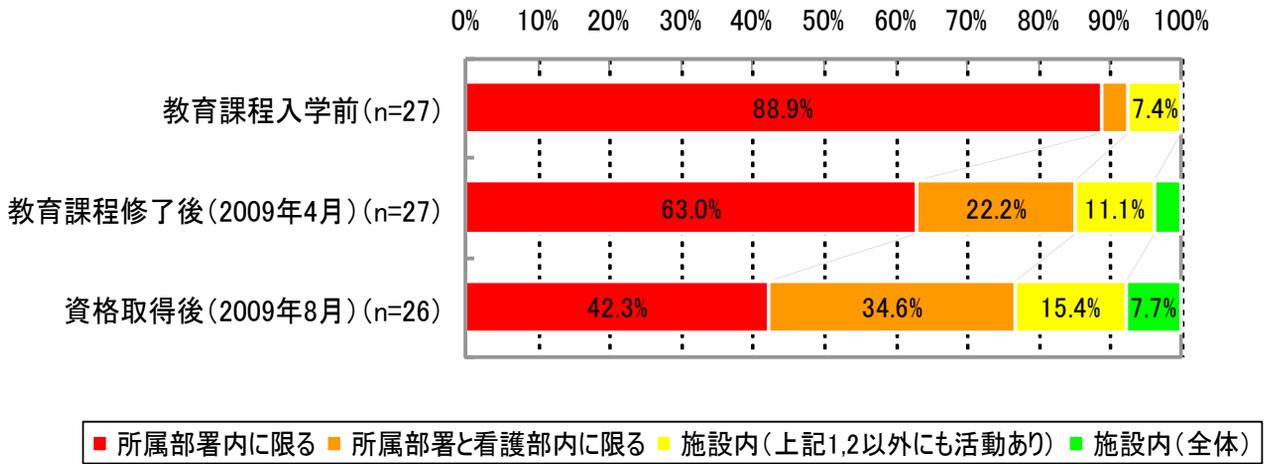
<図95. 新生児集中ケア・資格取得前後の勤務時間内における実践時間数の変化>



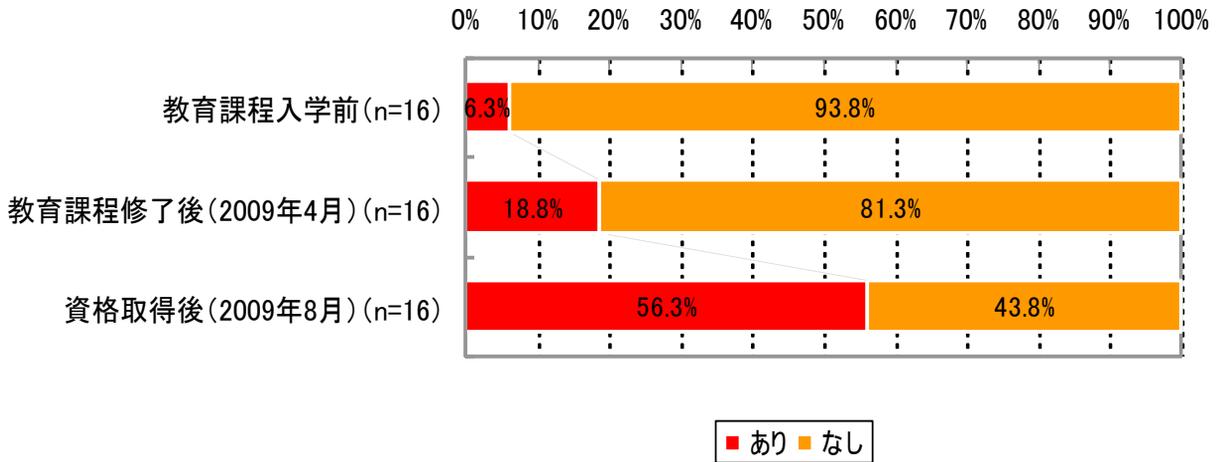
<図96. 新生児集中ケア・資格取得前後の勤務時間外における実践時間数の変化>

認定看護師教育課程入学前の勤務時間内実践時間数(週単位)は「40時間」が85.2%であり、次いで「30～39時間まで」が7.4%であった。教育課程入学前から資格取得後の実践時間数をみると、どの時間帯も大きな変化は見られなかった(図95)。
勤務時間外における実践時間数は、「0時間」が減少し、「9時間以上」が増加していた(図96)。

3) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の活動範囲について



<図97. 新生児集中ケア・資格取得前後の活動範囲の変化>

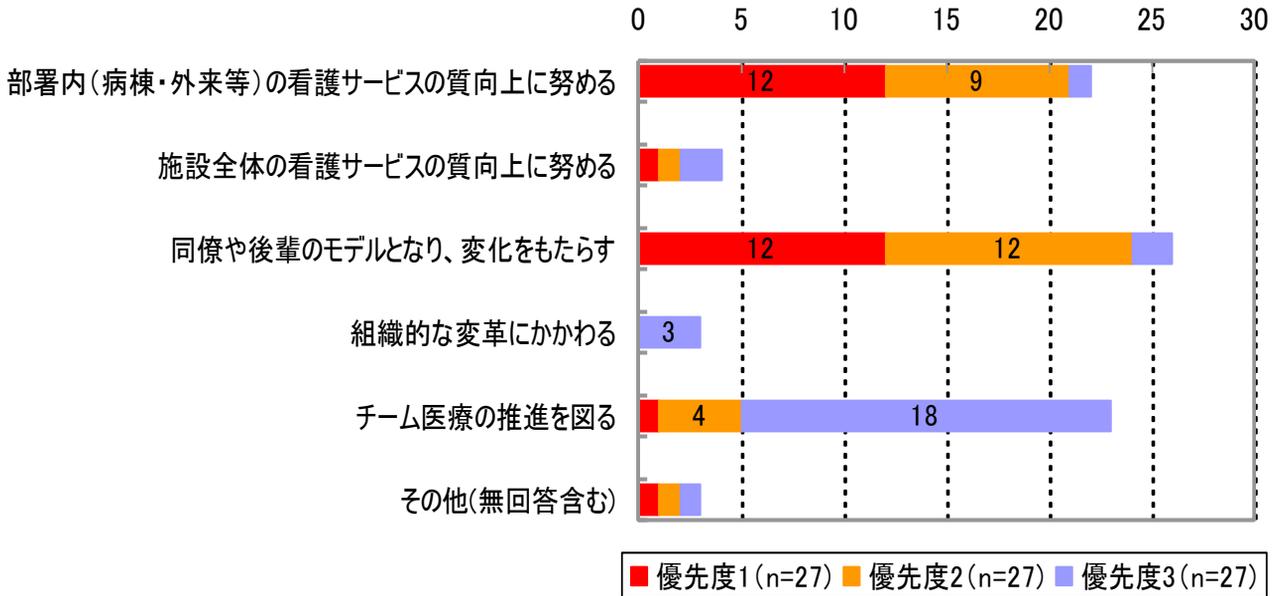


<図98. 新生児集中ケア・資格取得前後の施設外地域活動の変化>

認定看護師教育課程入学前での施設内の活動範囲は、「所属部署内に限る」が88.9%であった。教育課程修了から資格取得後の傾向を見ると、「所属部署内に限る」は42.3%に減少し、活動範囲が拡大していた(図97)。

施設外地域活動の範囲は、「あり」の者が教育課程入学前の6.3%から資格取得後には56.3%に増加していた(図98)。

4) 今後5年間で、力を入れて取り組んでいきたい活動について

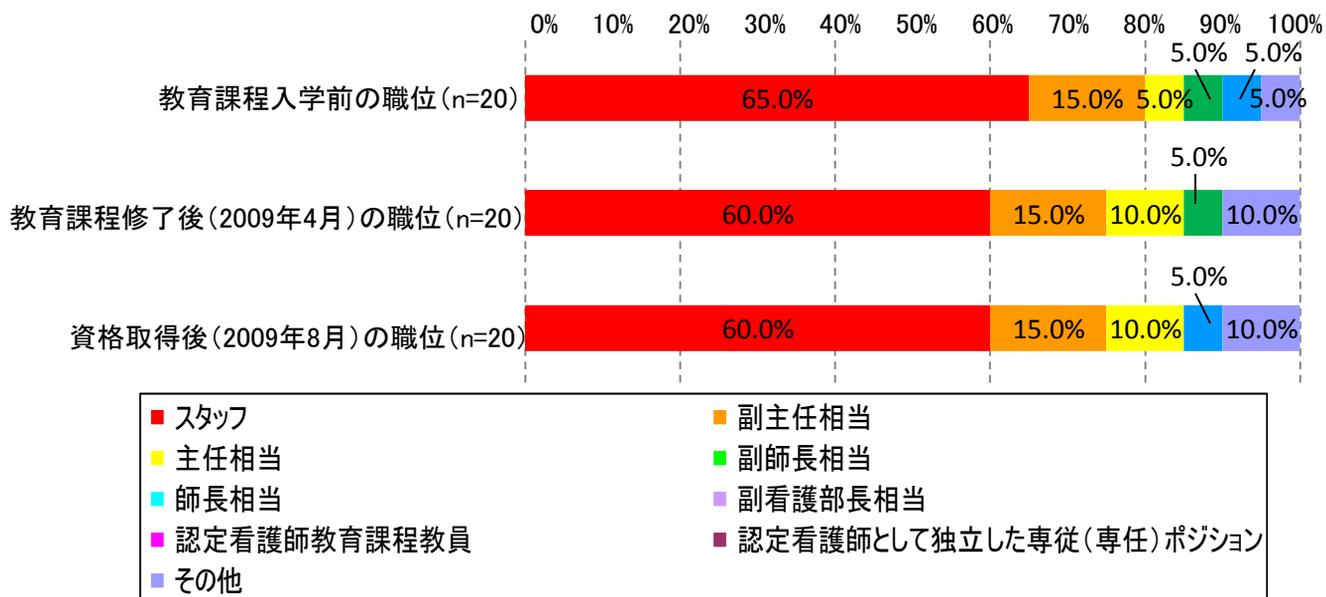


<図99. 新生児集中ケア・今後5年間の活動目標>

優先度1～3をあわせて見ると、「同僚や後輩のモデルとなり、変化をもたらす」が回答総数81名中26名で最も多かった。優先度の一番高い項目では「部署内(病棟・外来等)の看護サービスの質向上に努める」と「同僚や後輩のモデルとなり、変化をもたらす」が、それぞれ12名で最も多かった(図99)。

11 透析看護

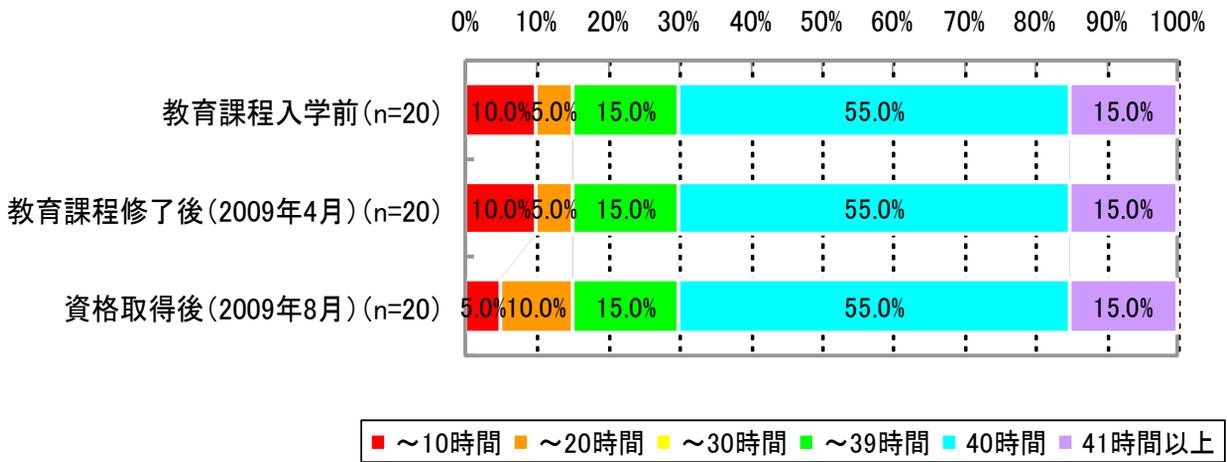
1) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の職位について



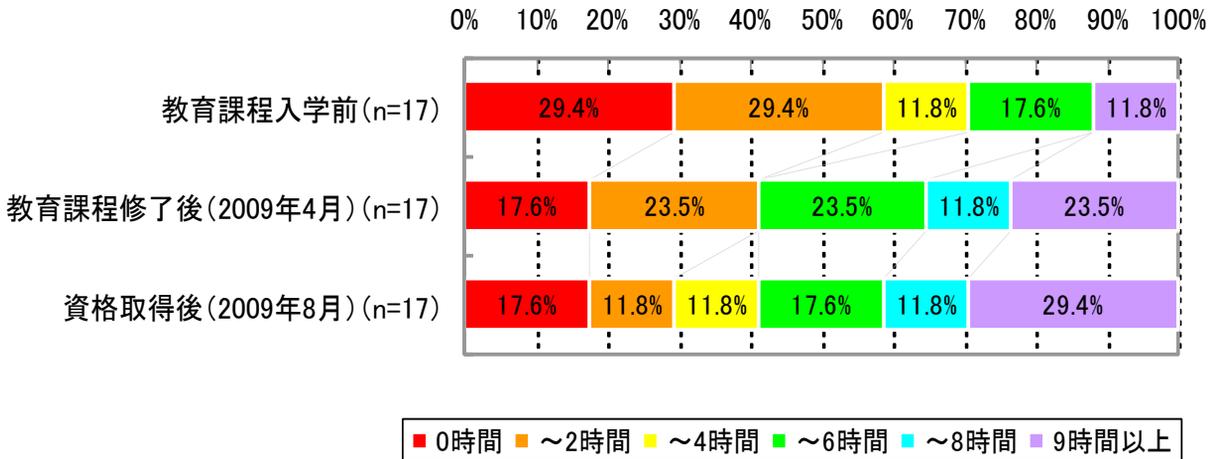
<図100. 透析看護・資格取得前後の職位の変化>

認定看護師資格取得前後で、透析看護分野の認定者の職位は、「スタッフ」の割合が65.0%から60.0%に減少していた。教育課程修了後から資格取得後との比較においては職位に大きな変化は見られなかった(図100)。

2) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の認定看護分野での
時間内／時間外勤務における実践時間数について



<図101. 透析看護・資格取得前後の勤務時間内における実践時間数の変化>

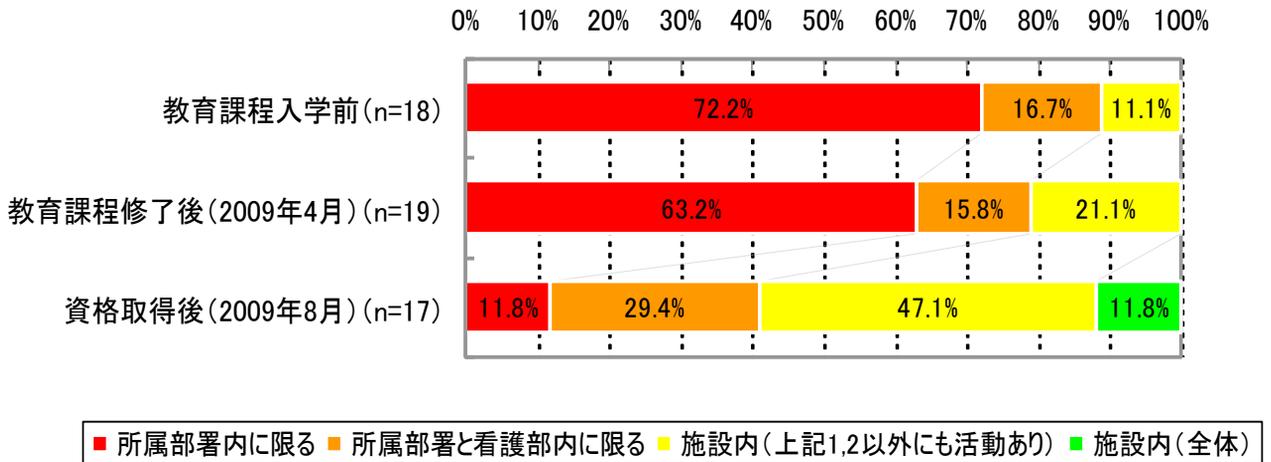


<図102. 透析看護・資格取得前後の勤務時間外における実践時間数の変化>

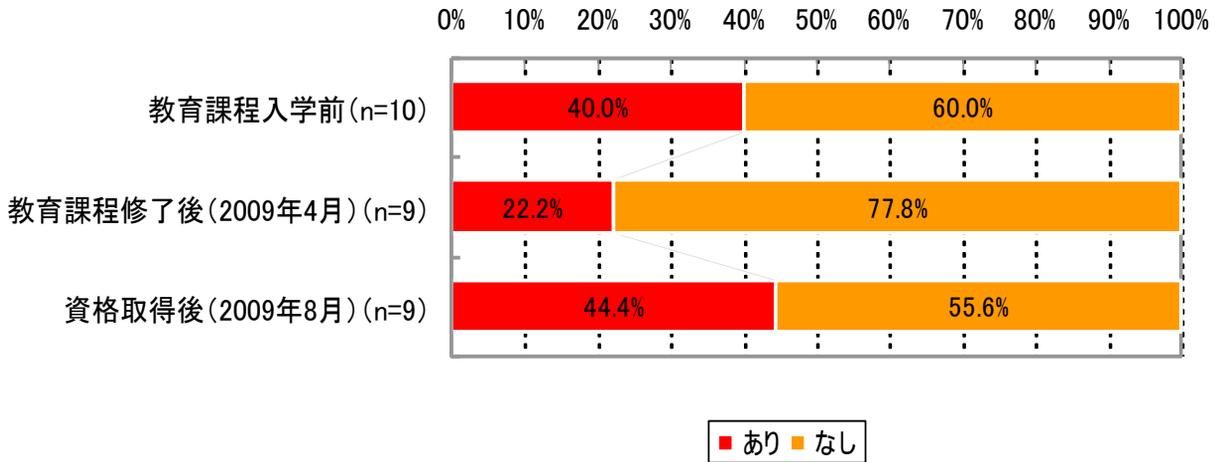
認定看護師教育課程入学前の勤務時間内実践時間数(週単位)は「40時間」が55%であり、次いで「30時間を越え39時間まで」が15.0%であった。教育課程入学前から資格取得後までの実践時間数を見ると、「10時間以下」が減少し、「10時間～20時間まで」が増加していた(図101)。

勤務時間外における実践時間数は、「2時間まで」が減少し、「9時間以上」が増加していた(図102)。

3) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の活動範囲について



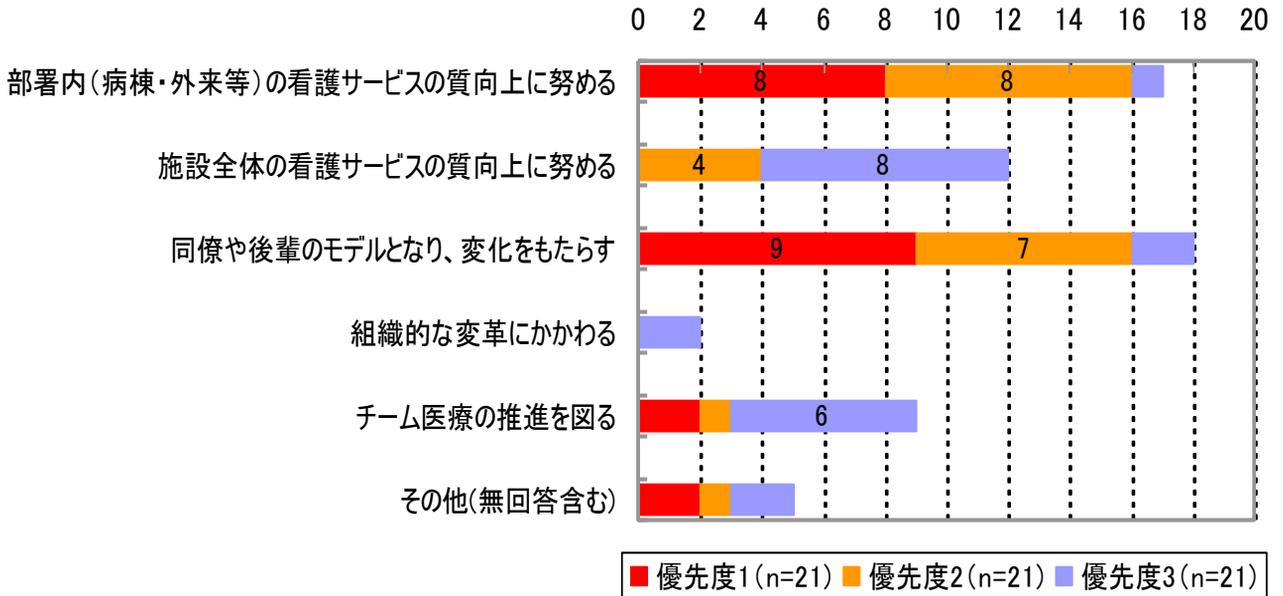
<図103. 透析看護・資格取得前後の活動範囲の変化>



<図104. 透析看護・資格取得前後の施設外地域活動の変化>

認定看護師教育課程入学前での施設内の活動範囲は、「所属部署内に限る」が72.2%であった。教育課程修了から資格取得後の傾向を見ると、「所属部署内に限る」は11.8%に減少し、活動範囲が拡大していた(図103)。
施設外地域活動の範囲は、「あり」の者が教育課程入学前の40.0%が資格取得後では44.4%に増加していた(図104)。

4) 今後5年間で、力を入れて取り組んでいきたい活動について

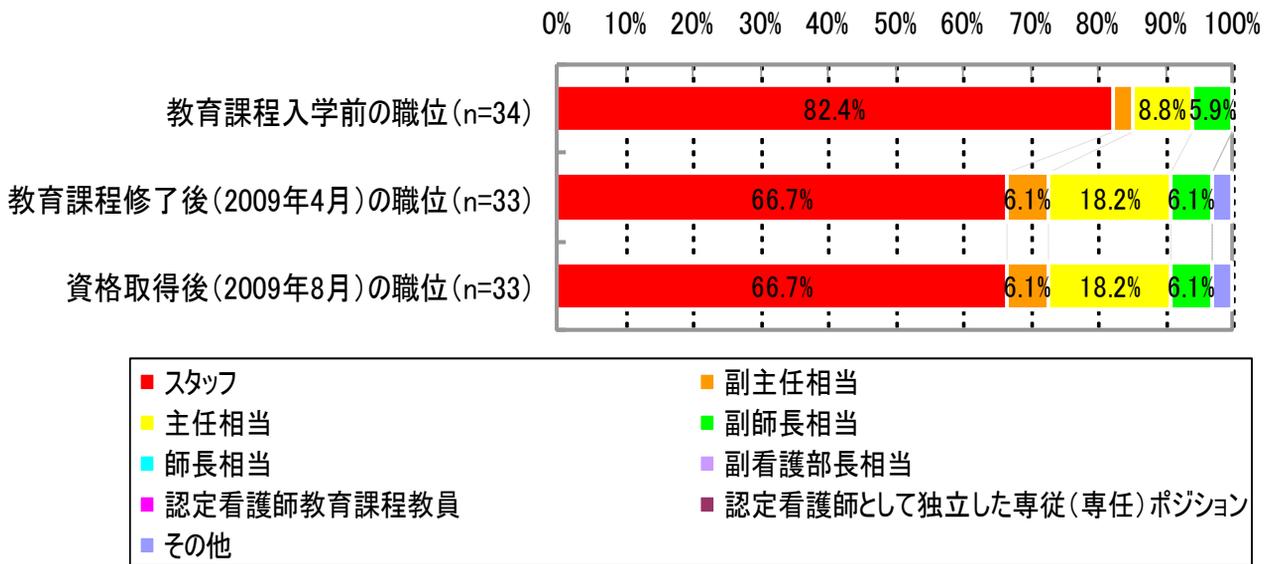


<図105. 透析看護・今後5年間の活動目標>

優先度1～3をあわせて見ると、「同僚や後輩のモデルとなり、変化をもたらす」が回答総数63名中18名で最も多かった。優先度の一番高い項目は同項目が9名で最も多かった(図105)。

12 手術看護

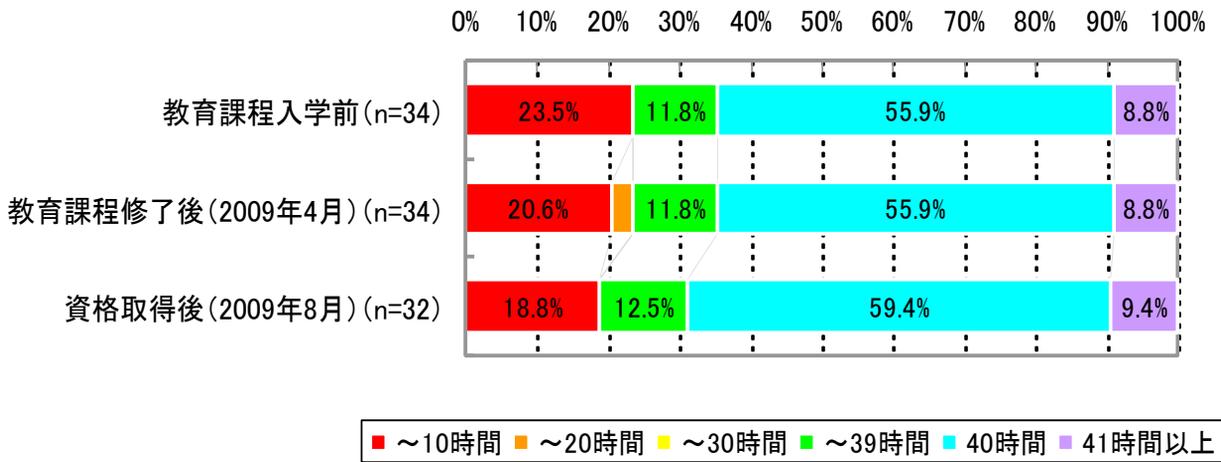
1) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の職位について



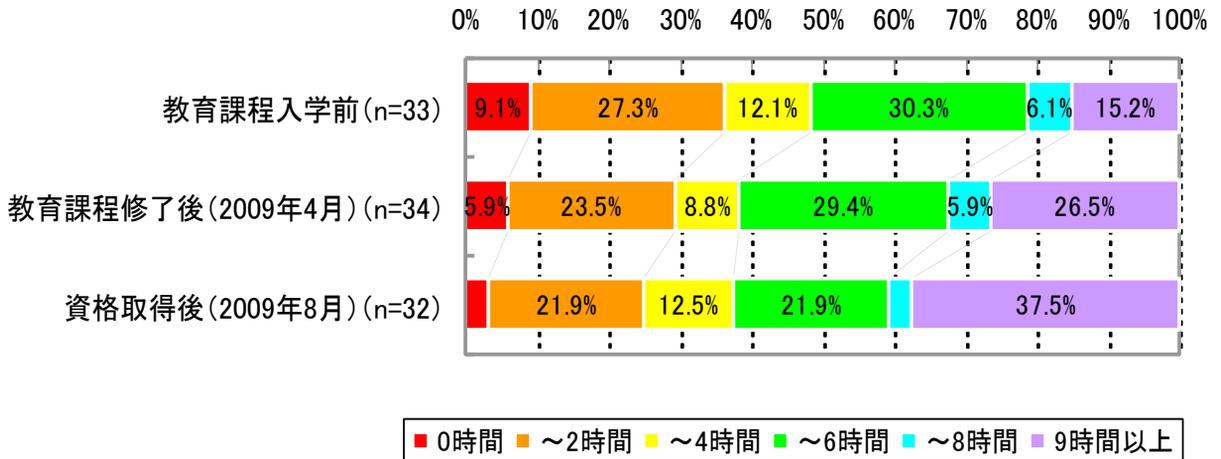
<図106. 手術看護・資格取得前後の職位の変化>

認定看護師資格取得前後で、手術看護分野の認定者の職位は、「スタッフ」の割合が82.4%から66.7%に減少し、「主任相当」の割合が8.8%から18.2%に増加していた(図106)。

2) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の認定看護分野での
 時間内／時間外勤務における実践時間数について



<図107. 手術看護・資格取得前後の勤務時間内における実践時間数の変化>

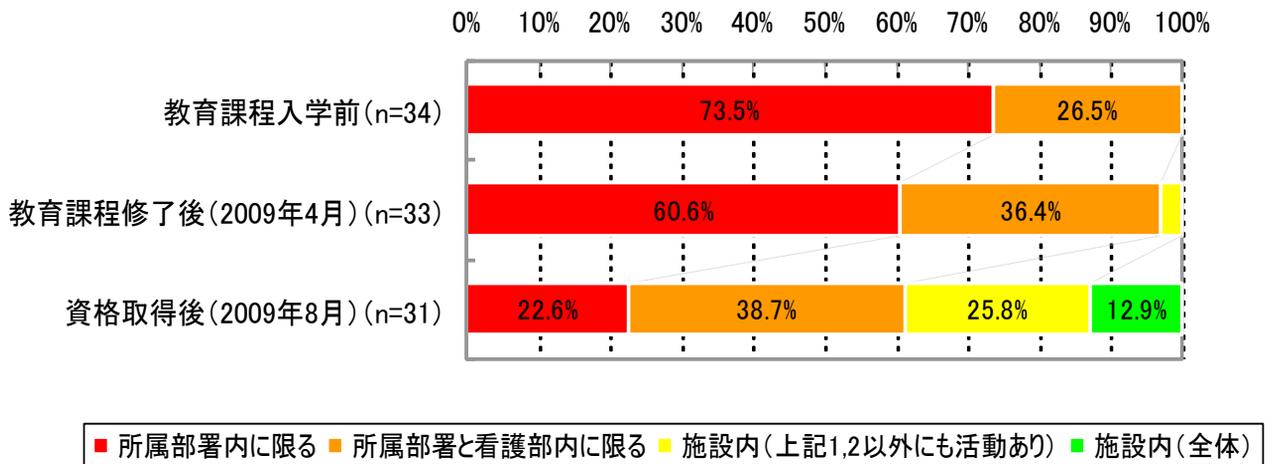


<図108. 手術看護・資格取得前後の時間外勤務における実践時間数の変化>

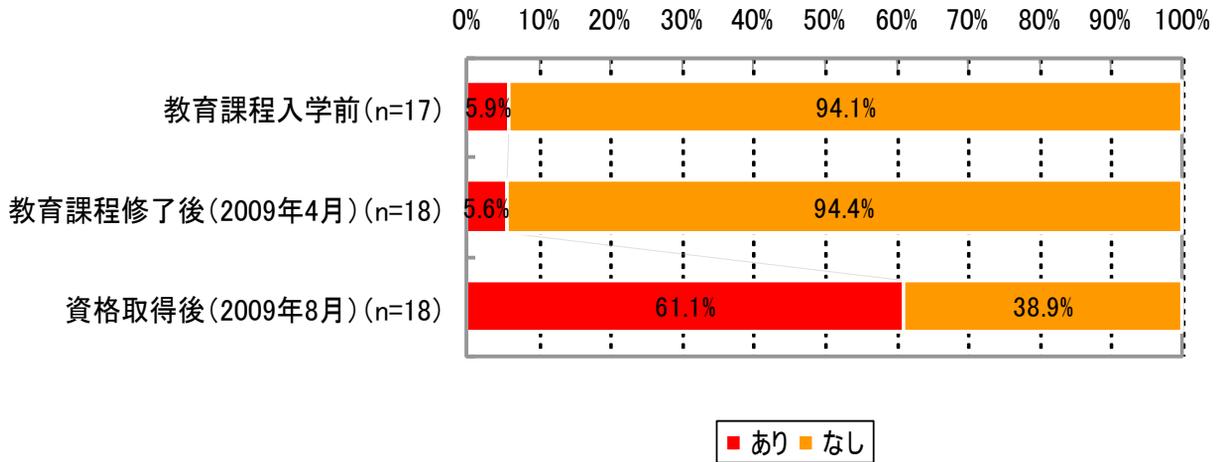
認定看護師教育課程入学前の勤務時間内実践時間数(週単位)は「40時間」が56%であり、次いで「10時間以下」が23.5%であった。教育課程入学前から資格取得後までの実践時間数を見ると、どの時間帯も大きな変化は見られなかった(図107)。

勤務時間外における実践時間数は、「0~2時間まで」が減少し、特に、「9時間以上」が2倍以上増加していた(図108)。

3) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の活動範囲について



<図109. 手術看護・資格取得前後の活動範囲の変化>

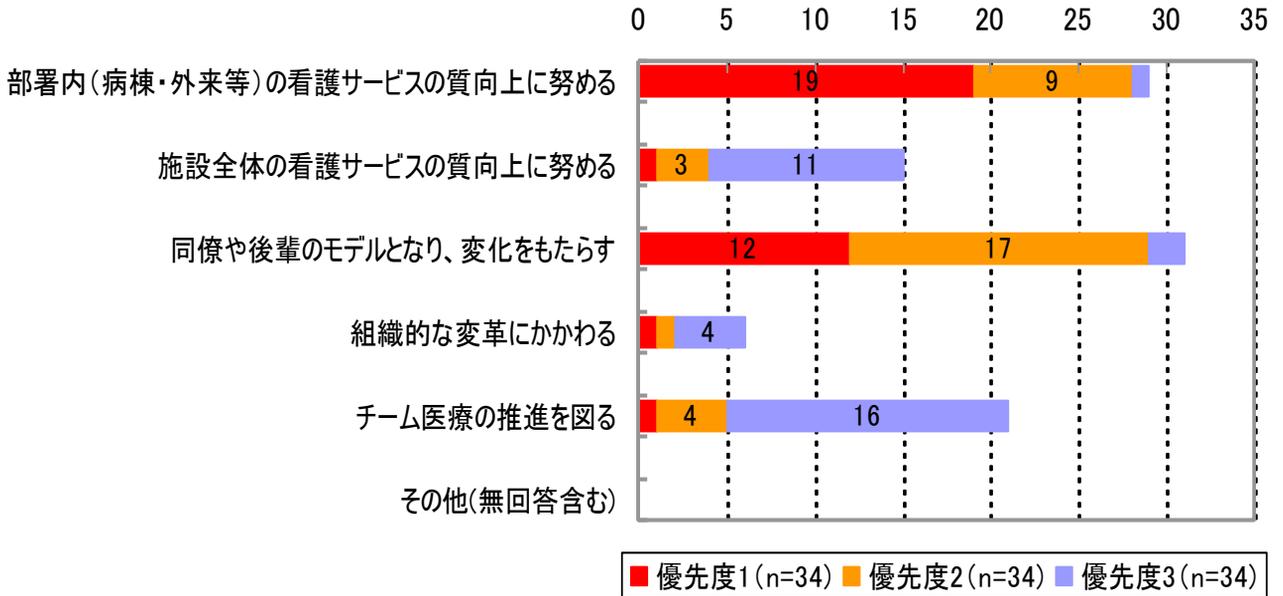


<図110. 手術看護・資格取得前後の施設外地域活動の変化>

認定看護師教育課程入学前の施設内活動範囲は、「所属部署内に限る」が74%であった。教育課程修了から資格取得後の傾向を見ると、「所属部署内に限る」は22.6%に減少し、活動範囲が拡大していた(図109)。

施設外地域活動の範囲は、「あり」の者が教育課程入学前の6.9%から資格取得後には61.1%に増加していた(図110)。

4) 今後5年間で、力を入れて取り組んでいきたい活動について

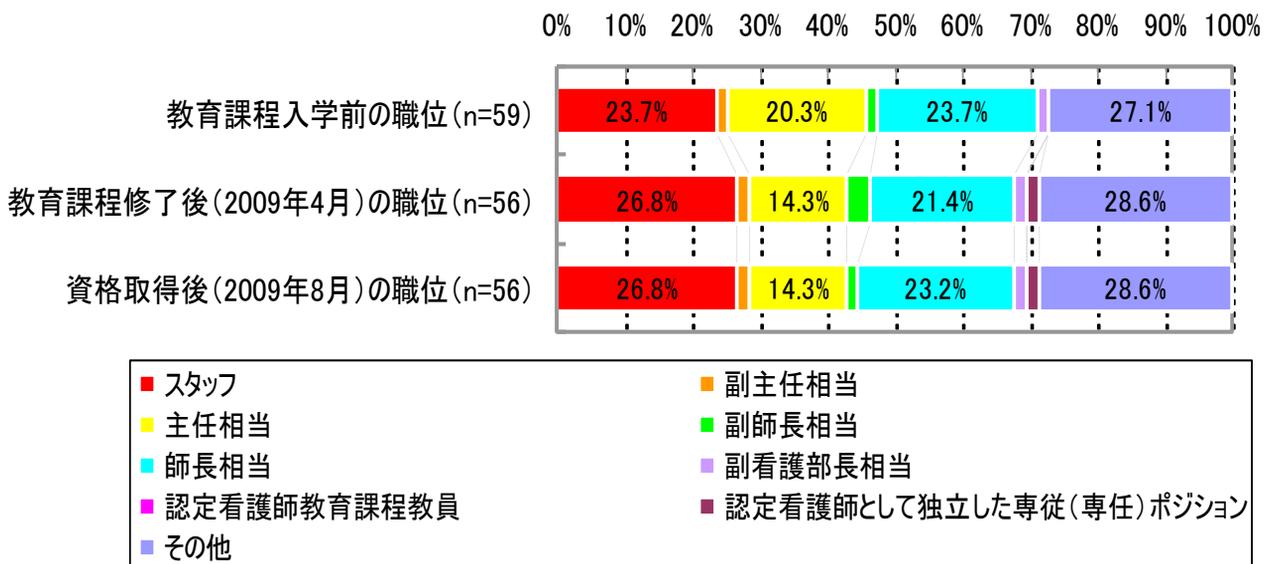


<図111. 手術看護・今後5年間の活動目標>

優先度1～3をあわせて見ると、「同僚や後輩のモデルとなり、変化をもたらす」が回答総数102名中31名で最も多かった。優先度の一番高い項目では「部署内(病棟・外来等)の看護サービスの質向上に努める」が19名で最も多かった(図111)。

13 訪問看護

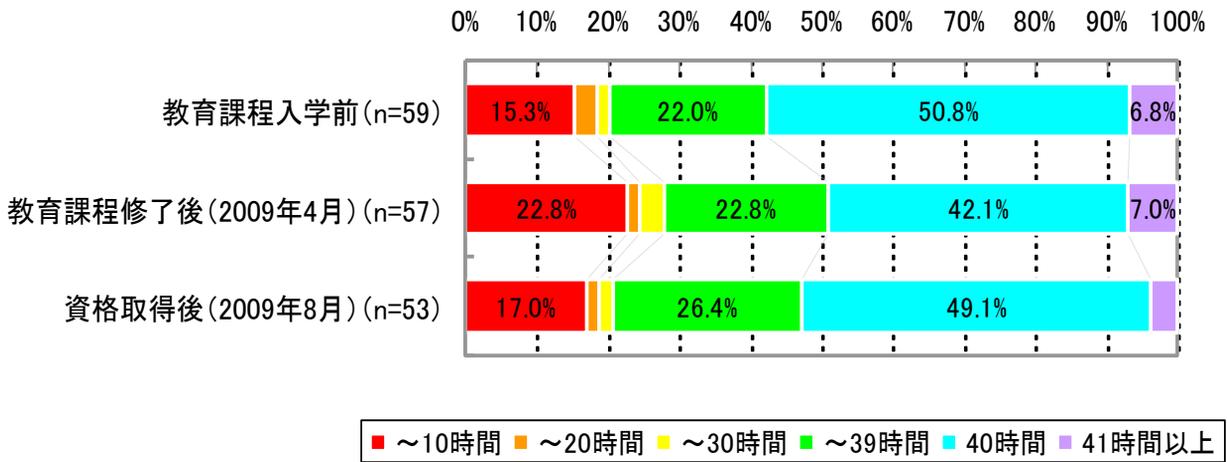
1) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の職位について



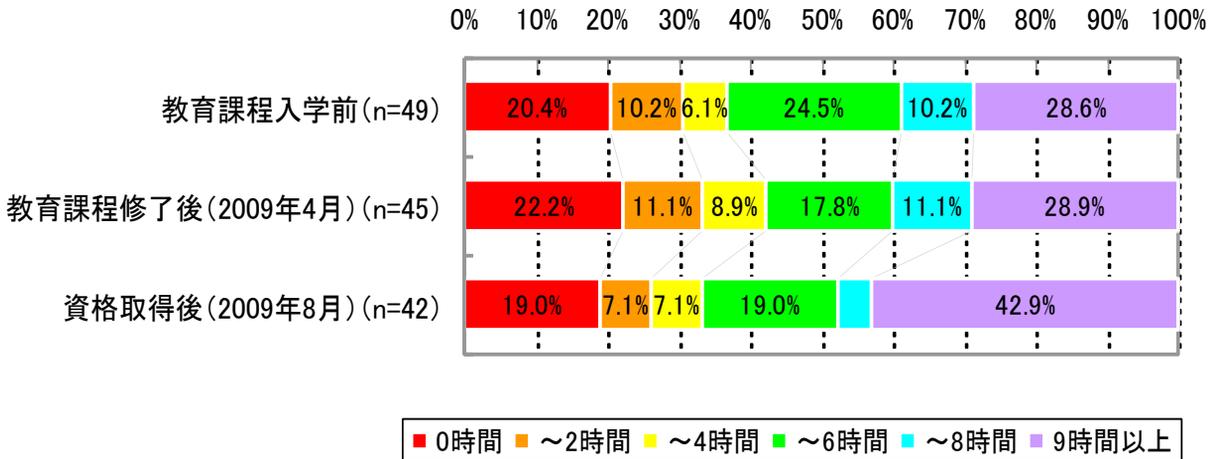
<図112. 訪問看護・資格取得前後の職位の変化>

認定看護師資格取得前後で、訪問看護分野の認定者の職位は、「スタッフ」の割合が23.7%から20.8%に減少したが、全体的に見ると大きな変化はなかった(図112)。

2) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の認定看護分野での
時間内／時間外勤務における実践時間数について



<図113. 訪問看護・資格取得前後の勤務時間内における実践時間数の変化>

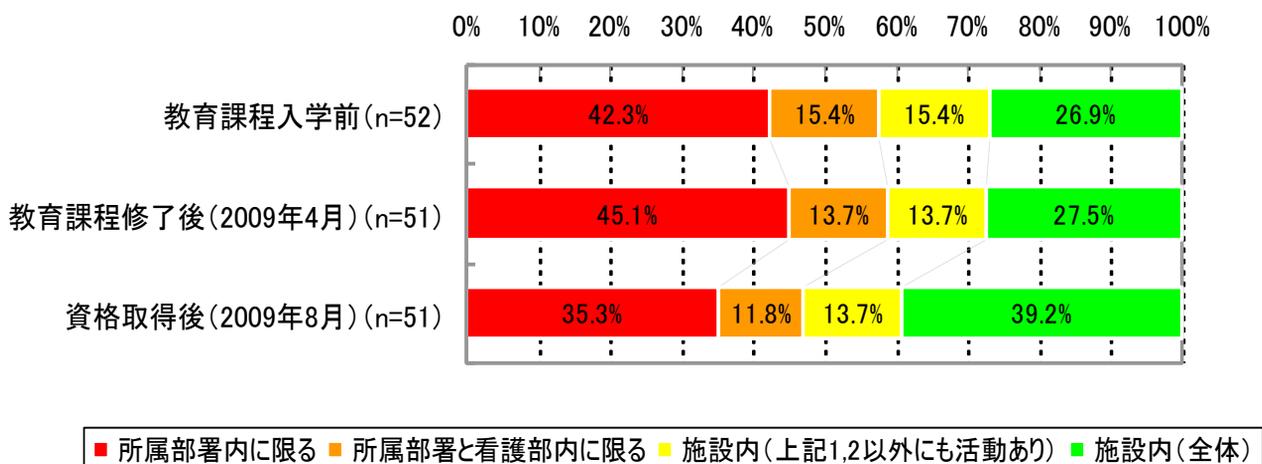


<図114. 訪問看護・資格取得前後の勤務時間外における実践時間数の変化>

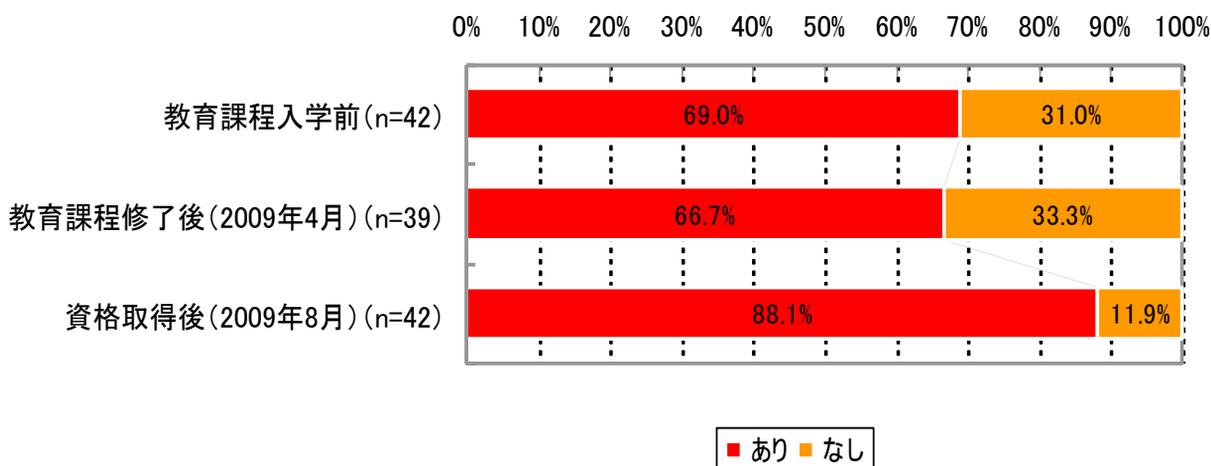
認定看護師教育課程入学前の勤務時間内実践時間数(週単位)は「40時間」が50.8%であり、次いで「20～30時間まで」が22.0%であった。教育課程入学前から資格取得後までの実践時間数を見ると、どの時間帯も大きな変化は見られなかった(図113)。「時間外勤務」での実践時間数では、「9時間以上」が資格取得後に増加している。

13 訪問看護

3) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の活動範囲について



<図115. 訪問看護・資格取得前後の活動範囲の変化>



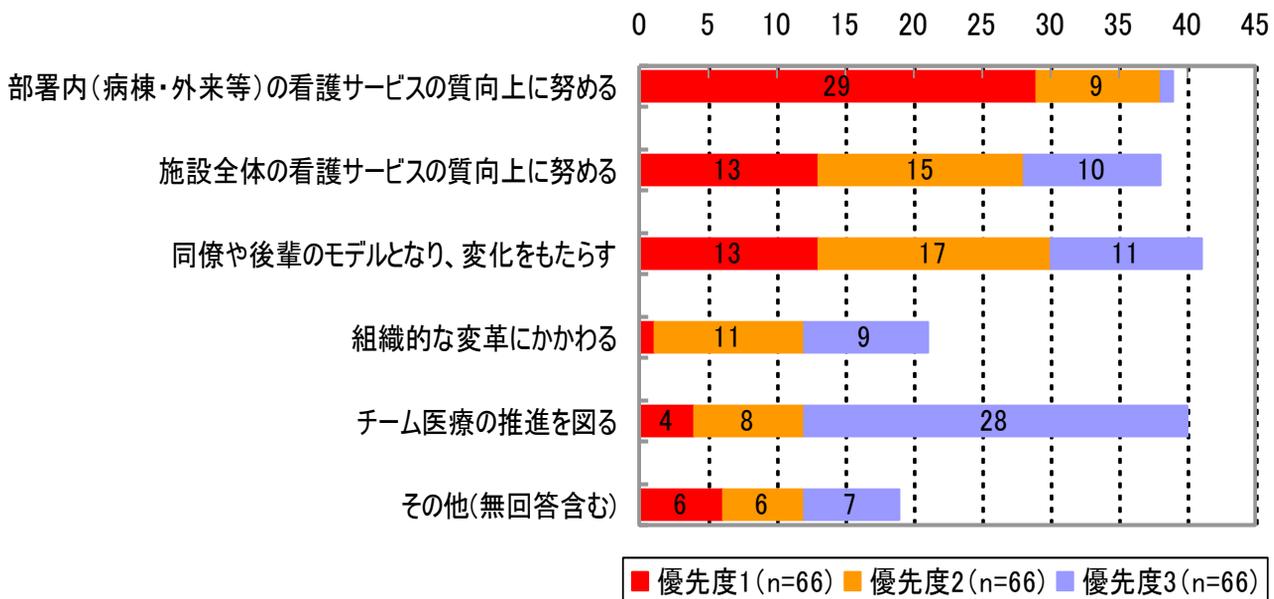
<図116. 訪問看護・資格取得前後の施設外地域活動の変化>

認定看護師教育課程入学前での施設内の活動範囲は、「所属部署内に限る」が42.3%であった。教育課程入学前から教育課程修了後の傾向を見ると、大きな変化はあまりないが、教育課程修了から資格取得後では「所属部署内に限る」が35.3%に減少し、活動範囲は拡大していた(図115)。

施設外地域活動の範囲は、「あり」の者が教育課程入学前の69.0%から資格取得後には88.1%に増加していた(図116)

13 訪問看護

4) 今後5年間で、力を入れて取り組んでいきたい活動について

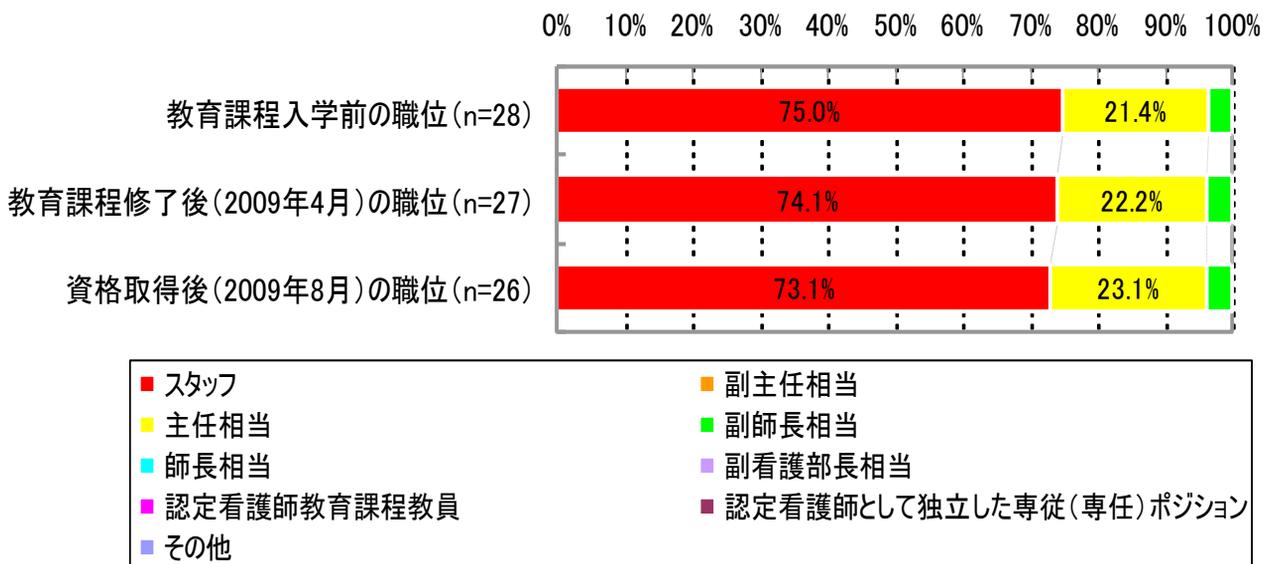


<図117. 訪問看護・今後5年間の活動目標>

優先度1～3をあわせて見ると、「同僚や後輩のモデルとなり、変化をもたらす」が回答総数198名中41名で最も多かった。優先度の一番高い項目では「部署内(病棟・外来等)の看護サービスの質向上に努める」が29名で最も多かった。

14 乳がん看護

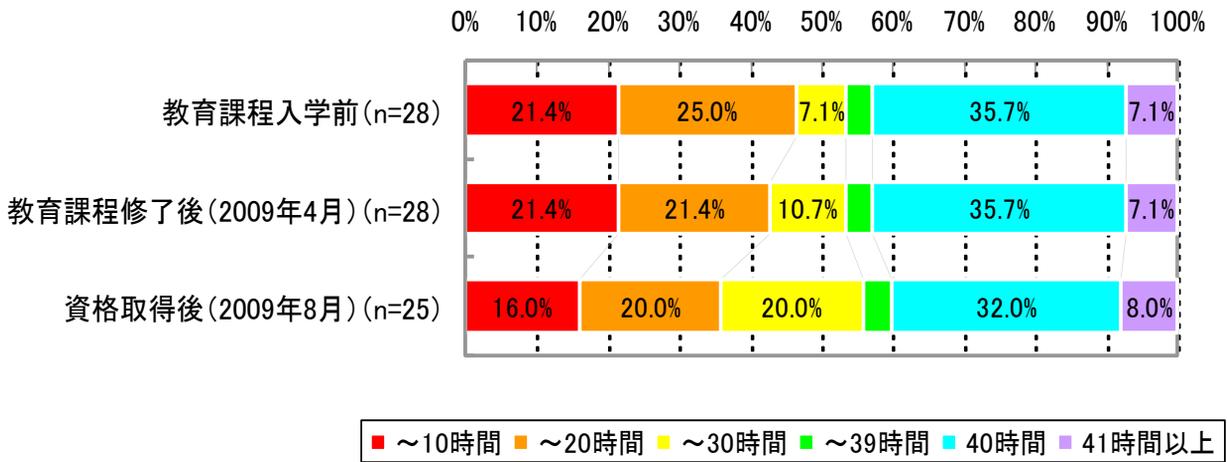
1) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の職位について



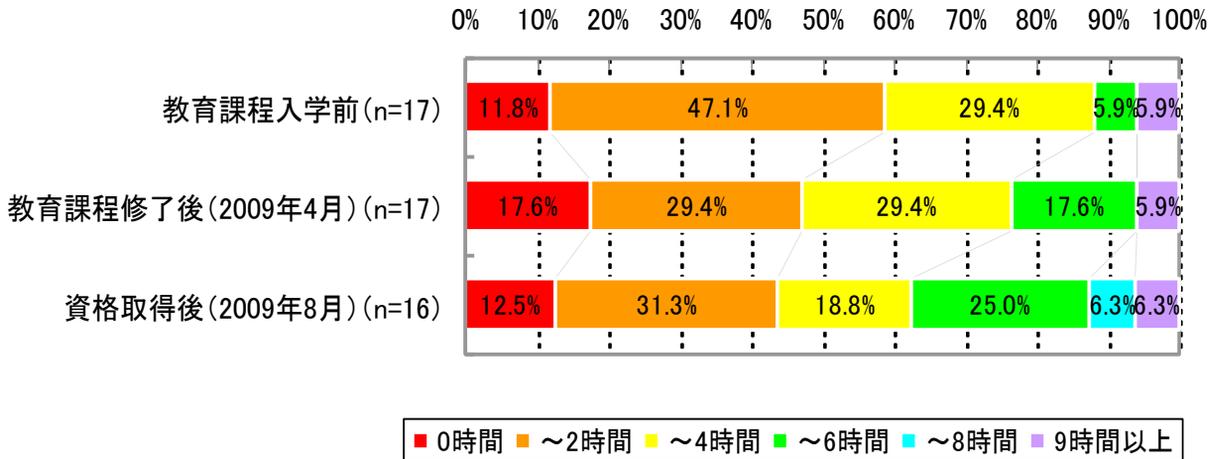
<図118. 乳がん看護・資格取得前後の職位の変化>

認定看護師資格取得前後で、乳がん看護分野の認定者の職位は、「スタッフ」の割合が75.0%から73.1%に減少していたが、全体的に見ると大きな変化はなかった(図118)。

2) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の認定看護分野での
時間内／時間外勤務における実践時間数について



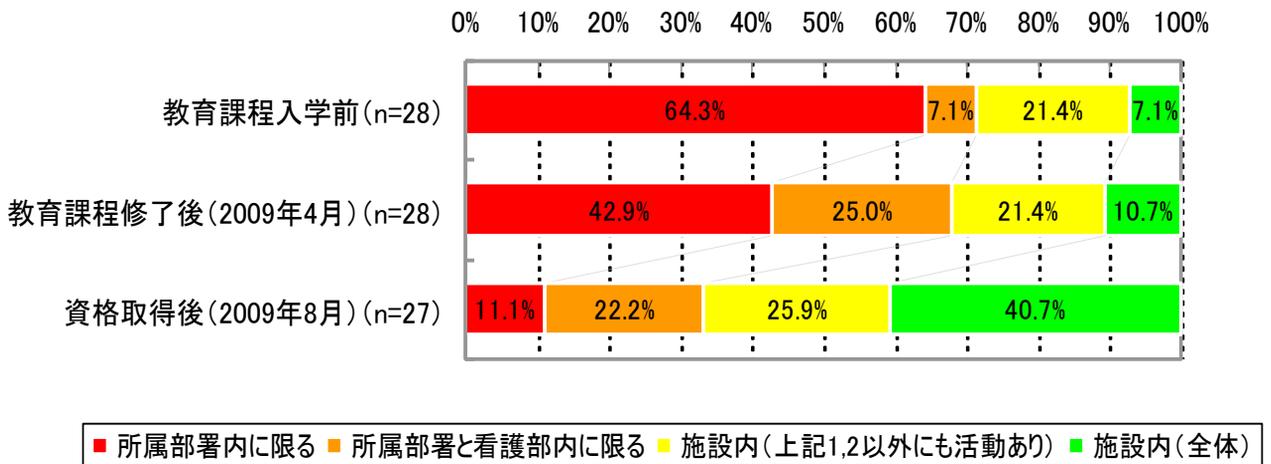
<図119. 乳がん看護・資格取得前後の勤務時間内における実践時間数の変化>



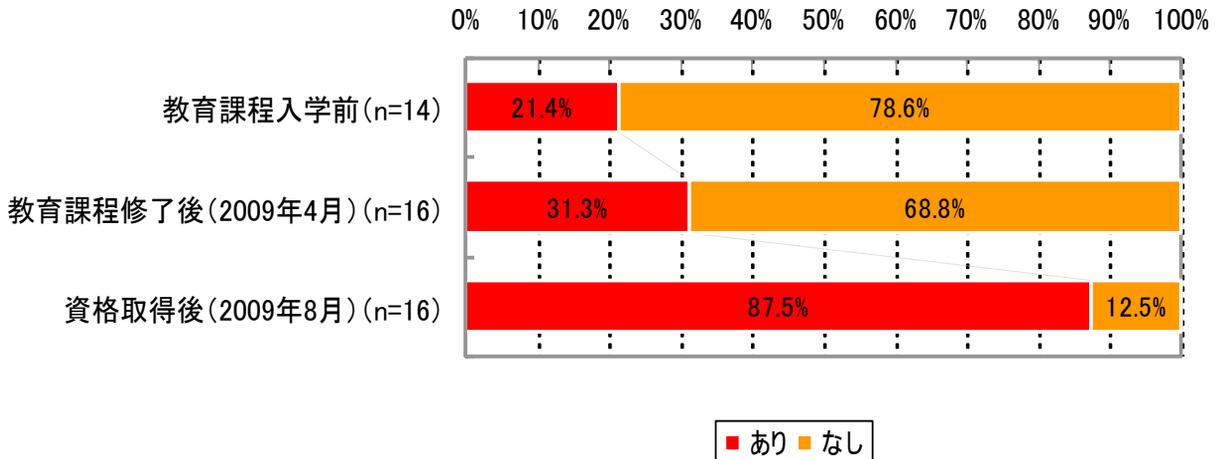
<図120. 乳がん看護・資格取得前後の勤務時間外における実践時間数の変化>

認定看護師教育課程入学前の勤務時間内実践時間数(週単位)は「40時間」が36%であり、次いで「20~30時間まで」が25%であった。教育課程入学前から資格取得後までの実践時間数を見ると、「20時間以下」が減少し、「20~30時間まで」が増加していた(図119)。勤務時間外における実践時間数は、「2時間まで」が減少し、「4~6時間まで」が4倍以上増加していた(図120)。

3) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の活動範囲について



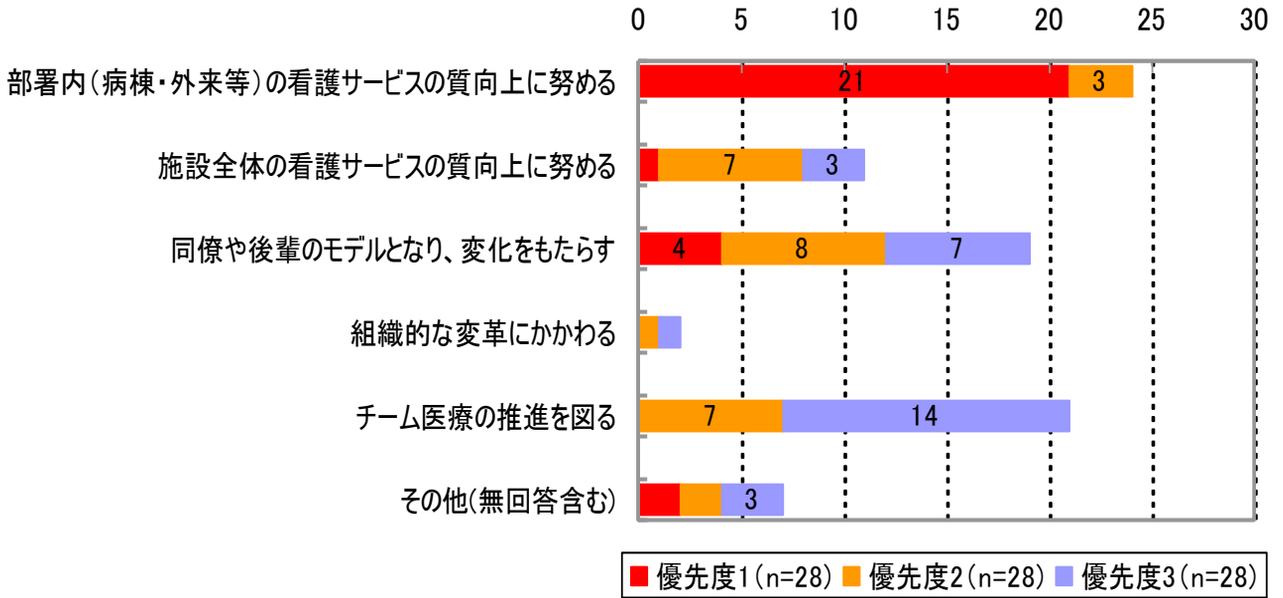
<図121. 乳がん看護・資格取得前後の活動範囲の変化>



<図122. 乳がん看護・資格取得前後の施設外地域活動の変化>

認定看護師教育課程入学前での施設内の活動範囲は、「所属部署内に限る」が64%であった。教育課程修了から資格取得後の傾向を見ると、「所属部署内に限る」は11.1%に減少し、活動範囲が拡大していた(図121)。
施設外地域活動の範囲は、「あり」の者が教育課程入学前の21.4%から資格取得後には87.5%に増加していた(図122)。

4.) 今後5年間で、力を入れて取り組んでいきたい活動について

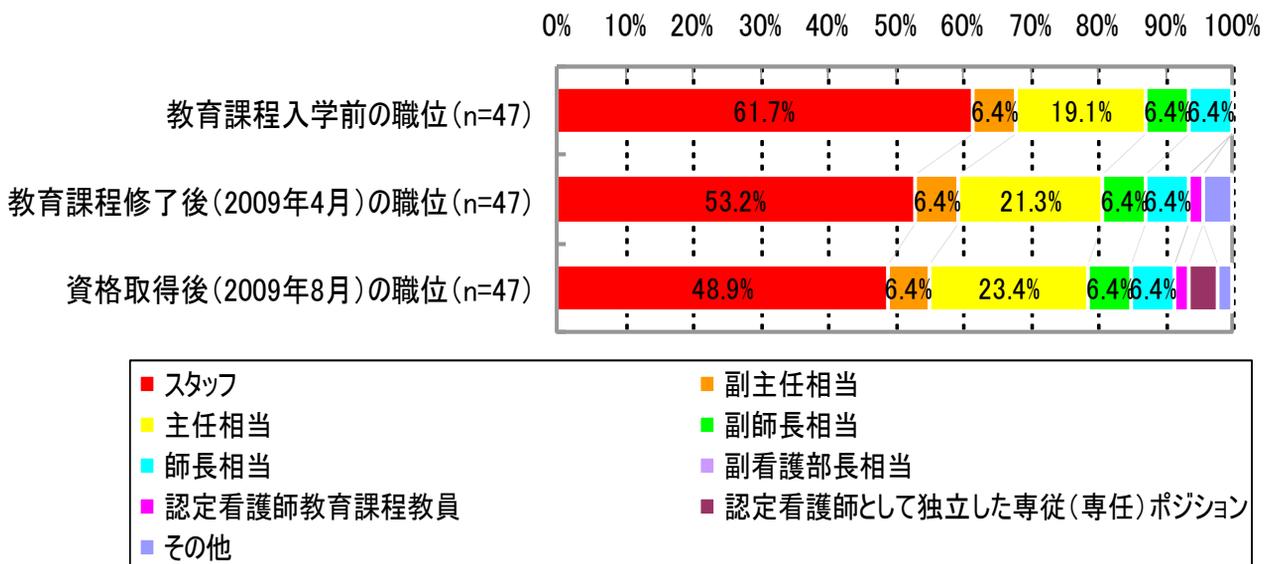


<図123. 乳がん看護・今後5年間の活動目標>

優先度1～3をあわせて見ると、「部署内(病棟・外来等)の看護サービスの質向上に努める」が回答総数84名中24名で最も多かった。優先度の一番高い項目では同項目が21名で最も多かった(図123)。

15 摂食・嚥下障害看護

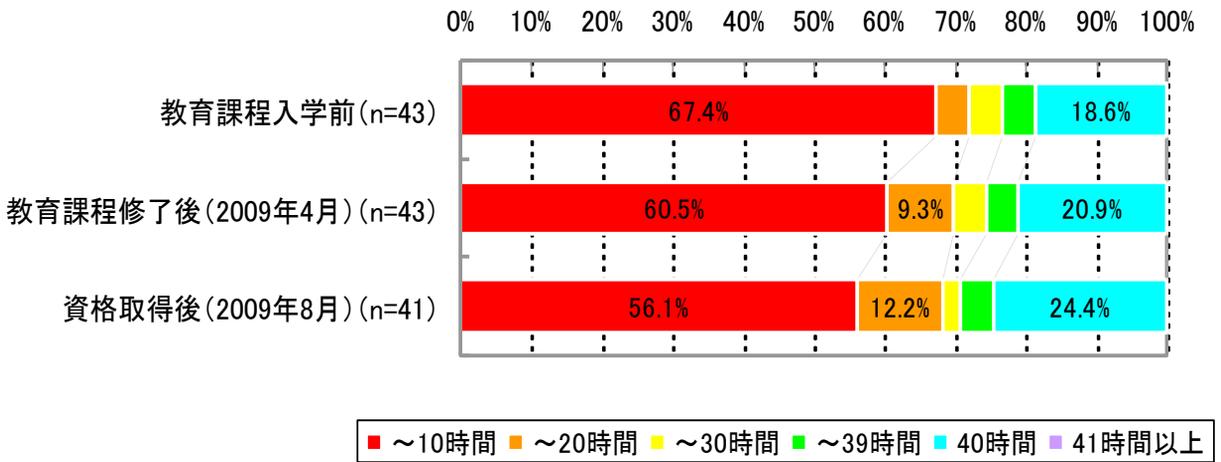
1) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の職位について



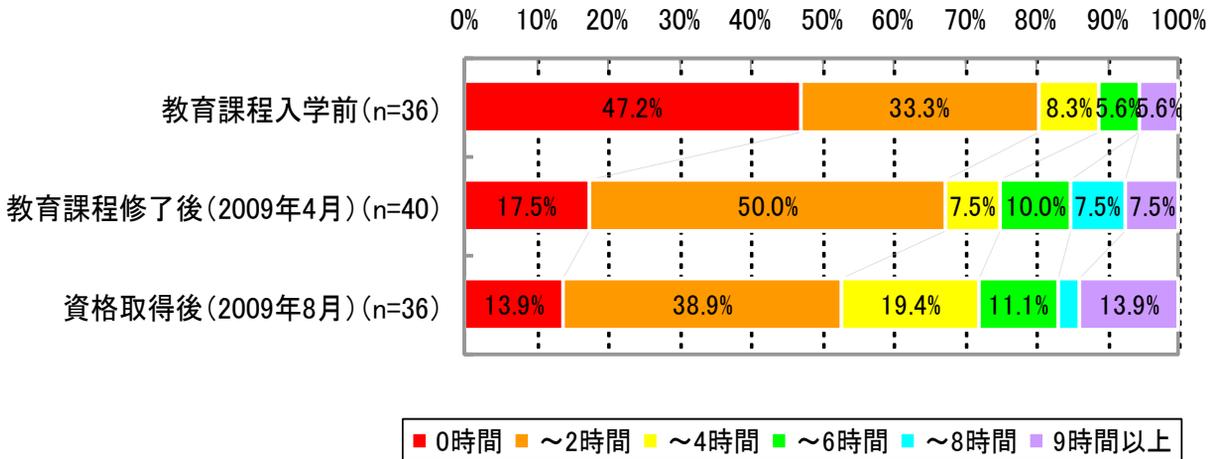
<図124. 摂食・嚥下障害看護・資格取得前後の職位の変化>

認定看護師資格取得前後で、摂食・嚥下障害看護分野の認定者の職位は、「スタッフ」の割合が61.7%から48.9%に減少し、「主任相当」の割合が19.1%から23.4%に増加していた(図124)。

2) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の認定看護分野での
時間内／時間外勤務における実践時間数について



<図125. 摂食・嚥下障害看護・資格取得前後の勤務時間内における実践時間数の変化>

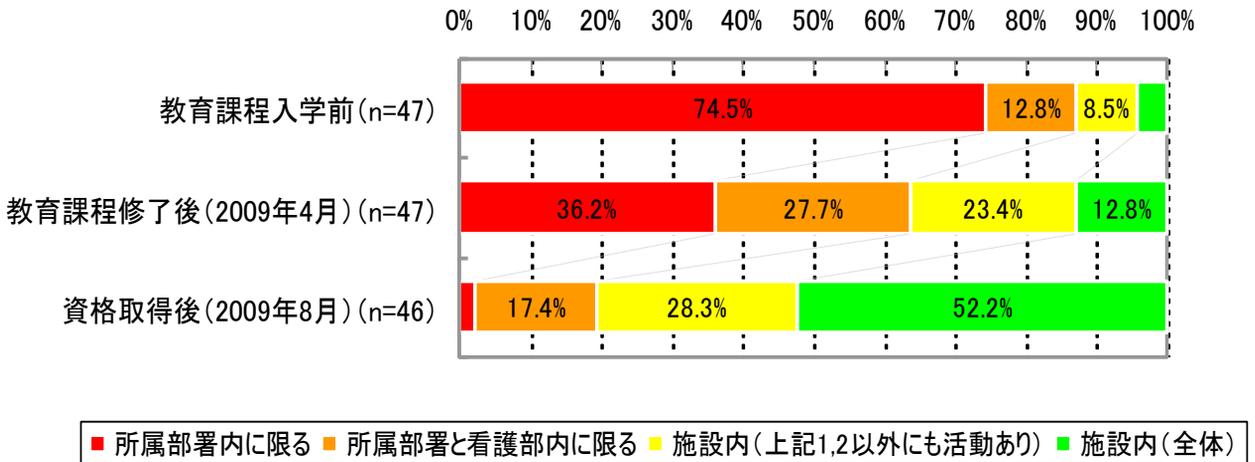


<図126. 摂食・嚥下障害看護・資格取得前後の勤務時間外における実践時間数の変化>

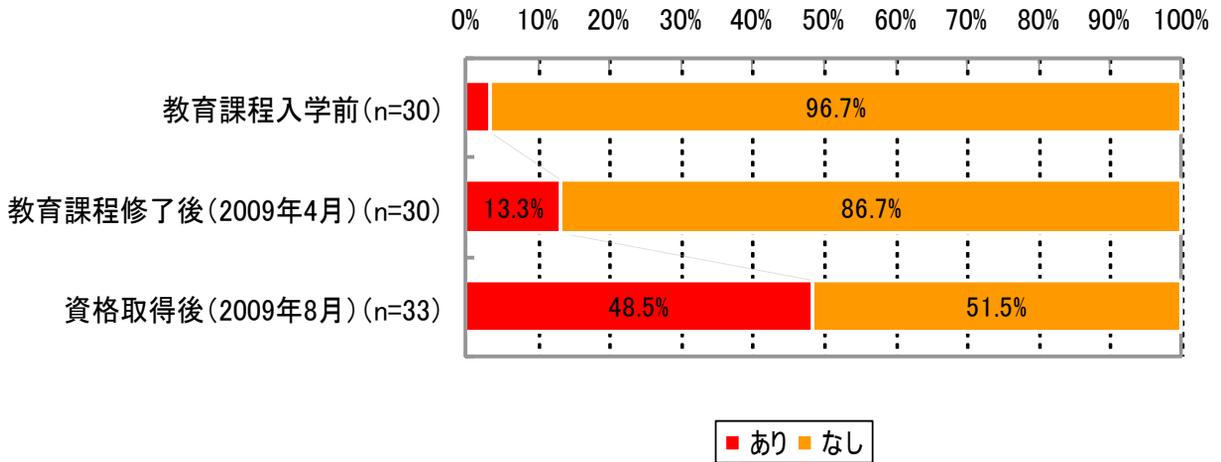
認定看護師教育課程入学前の勤務時間内実践時間数(週単位)は「10時間まで」が67.4%であり、次いで「40時間」が18.6%であった。教育課程入学前から資格取得後の実践時間数を見ると、「10時間以下」が減少し、「20～30時間まで」が増加していた(図125)。

勤務時間外における実践時間数は、「2時間まで」が減少し、それ以外は増加していた(図126)。

3) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の活動範囲について



<図127. 摂食・嚥下障害看護・資格取得前後の活動範囲の変化>

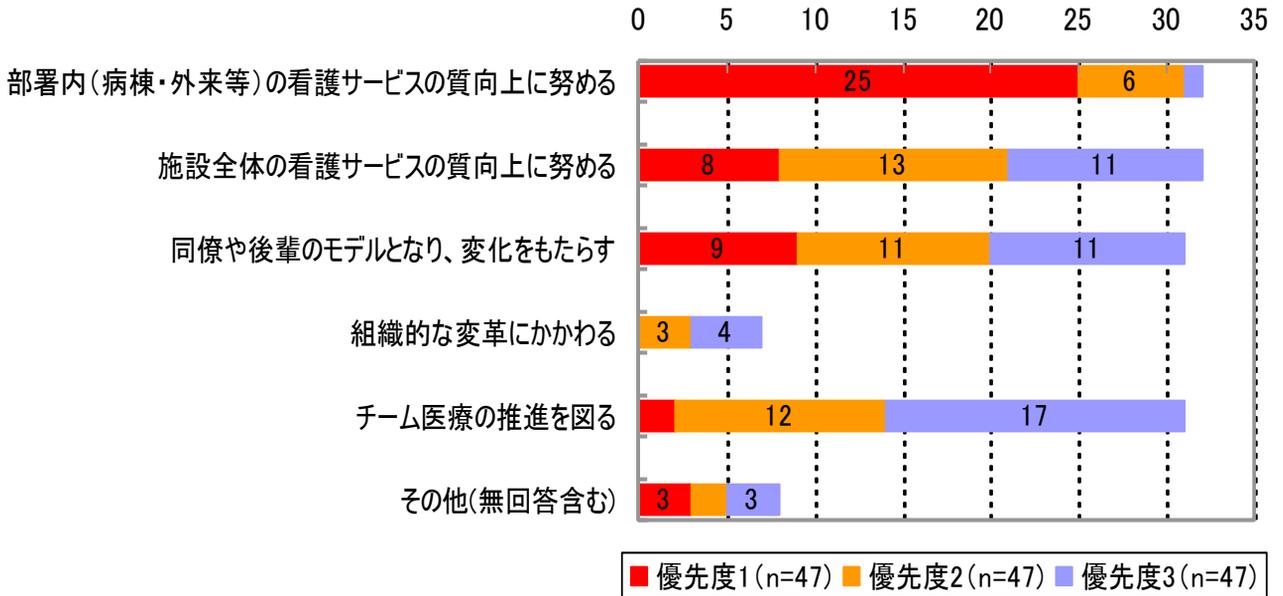


<図128. 摂食・嚥下障害看護・資格取得前後の施設外地域活動の変化>

認定看護師教育課程入学前での施設内の活動範囲は、「所属部署内に限る」が74.5%であった。教育課程修了から資格取得後の傾向を見ると、「所属部署内に限る」は2%に減少し、活動範囲が拡大していた(図127)。

施設外地域活動の範囲は、「あり」の者が教育課程入学前の3%から資格取得後には48.5%に増加していた(図128)。

4.) 今後5年間で、力を入れて取り組んでいきたい活動について

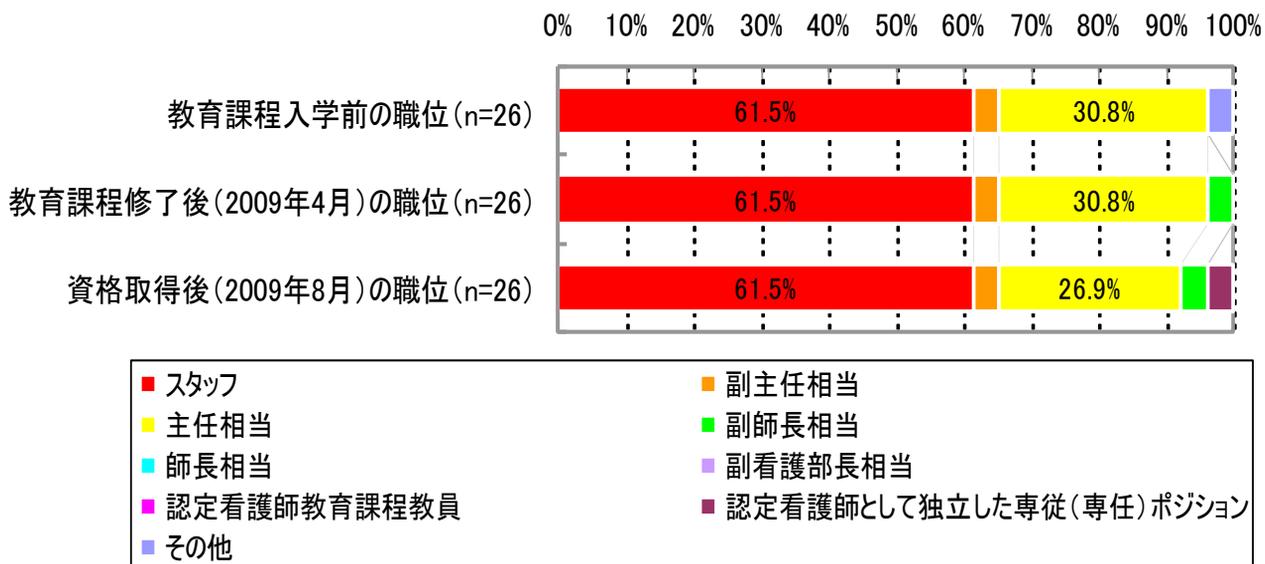


<図129. 摂食・嚥下障害看護・今後5年間の活動目標>

優先度1～3をあわせて見ると、「同僚や後輩のモデルとなり、変化をもたらす」と「施設全体の看護サービスの質向上に努める」が回答総数141名中どちらも32名で最も多かった。優先度の1番高い項目では「部署内(病棟・外来等)の看護サービスの質向上に努める」が25名で最も多かった(図129)。

16 小児救急看護

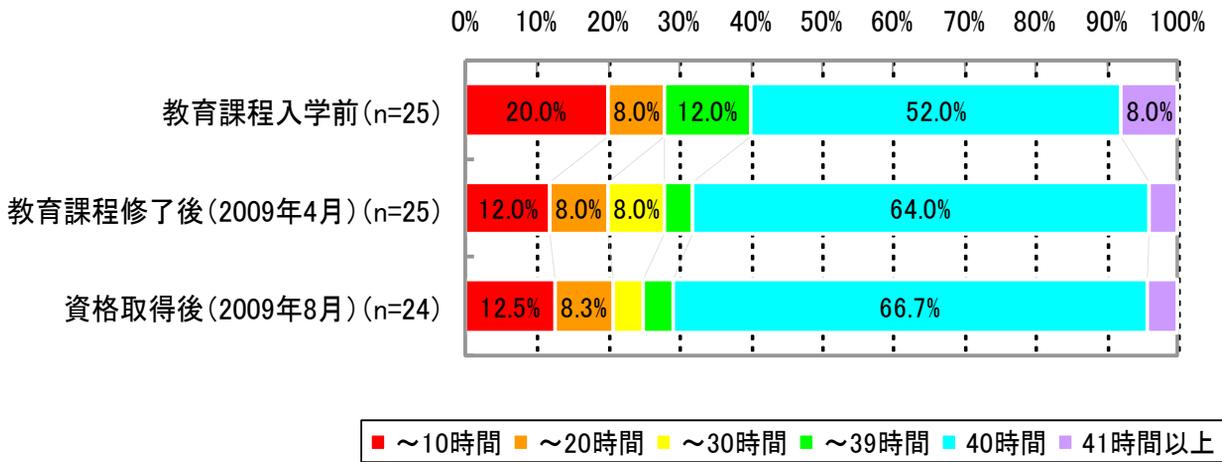
1) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の職位について



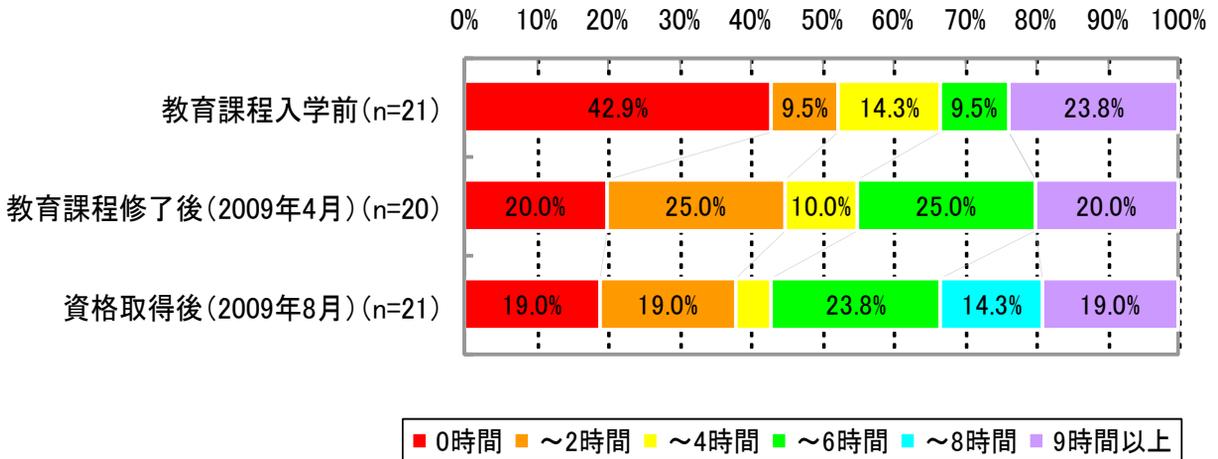
<図130. 小児救急看護・資格取得前後の職位の変化>

認定看護師資格取得前後で、小児救急看護分野の認定者では、教育課程入学前から資格取得後の職位について、各職位とも大きな変化は見られなかった(図130)。

2) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の認定看護分野での
時間内／時間外勤務における実践時間数について



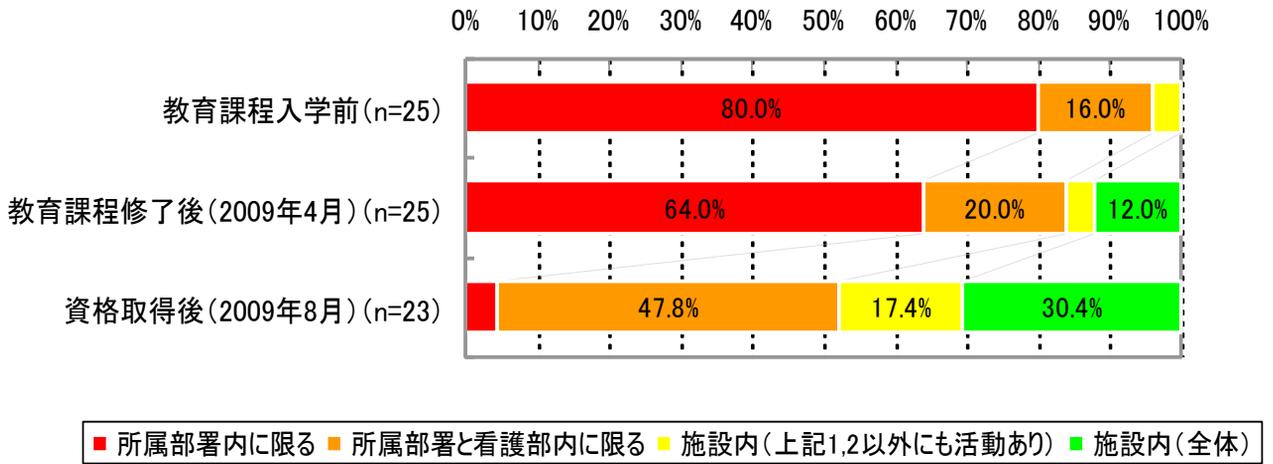
<図131. 小児救急看護・資格取得前後の時間内勤務における実践時間数の変化>



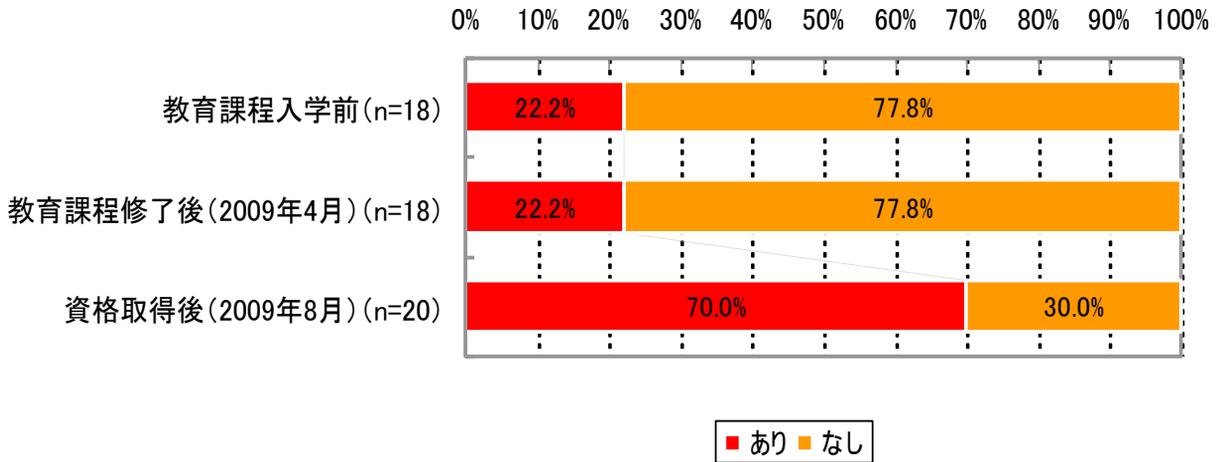
<図132. 小児救急看護・資格取得前後の時間外勤務における実践時間数の変化>

認定看護師教育課程入学前の勤務時間内実践時間数(週単位)は「40時間」が52.0%を占め、次いで「10時間以下」が20%であった。教育課程入学前から資格取得後までの実践時間数を見ると、「30～39時間まで」が減少し、「40時間」が増加していた(図131)。
勤務時間外における実践時間数は、「0時間」が減少し、「2～8時間まで」が増加していた(図132)。

3) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の活動範囲について



<図133. 小児救急看護・資格取得前後の活動範囲の変化>

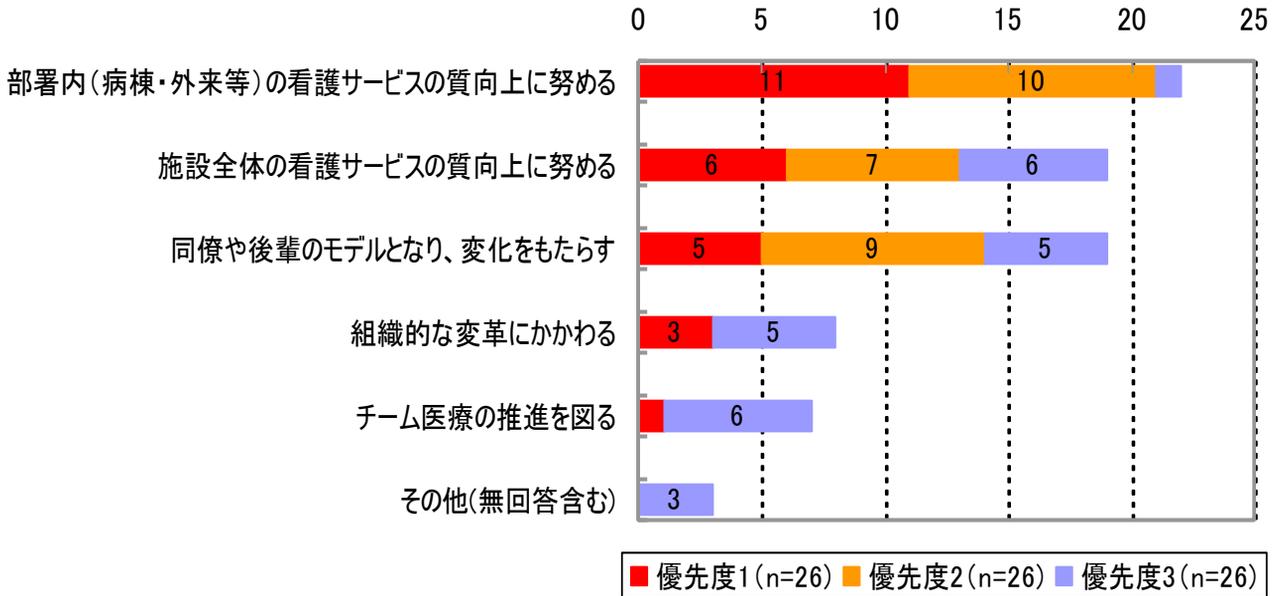


<図134. 小児救急看護・資格取得前後の施設外地域活動の変化>

認定看護師教育課程入学前での施設内の活動範囲は、「所属部署内に限る」が80.0%であった。教育課程修了から資格取得後の傾向を見ると、「所属部署内に限る」は4%に減少し、活動範囲が拡大していた(図133)。

施設外地域活動の範囲は、「あり」の者が教育課程入学前の22.2%から資格取得後には70.0%に増加していた(図134)。

4) 今後5年間で、力を入れて取り組んでいきたい活動について

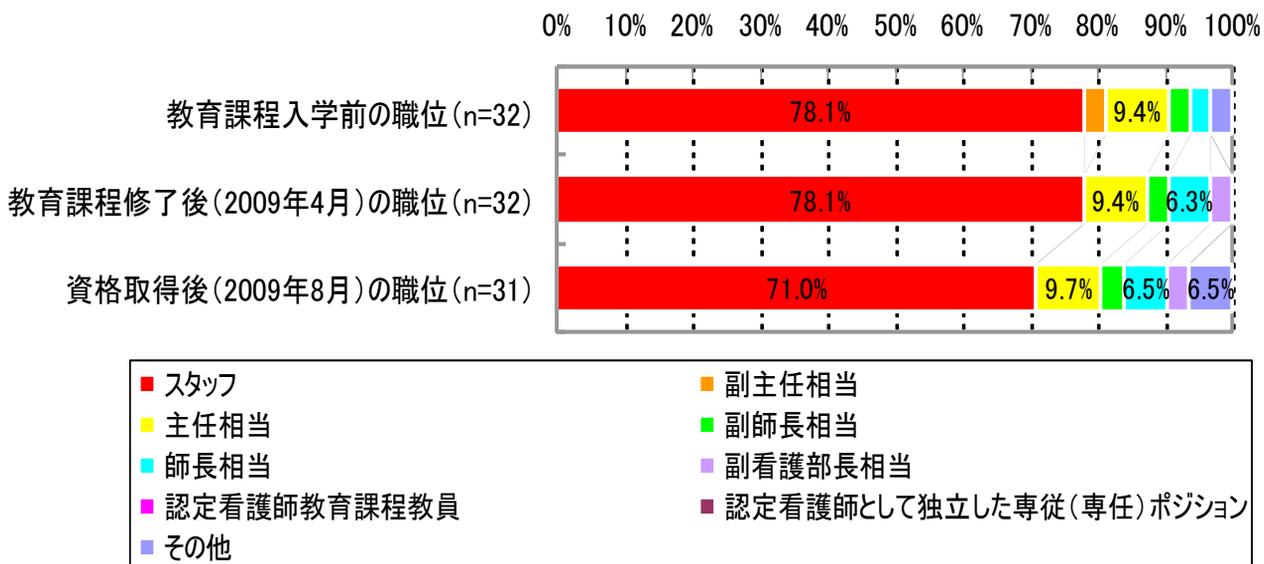


<図135. 小児救急看護・今後5年間の活動目標>

優先度1～3をあわせて見ると、「部署内(病棟・外来等)の看護サービスの質向上に努める」が回答総数78名中22名で最も多かった。優先度の一番高い項目では同項目が11名で最も多かった(図135)。

17 認知症看護

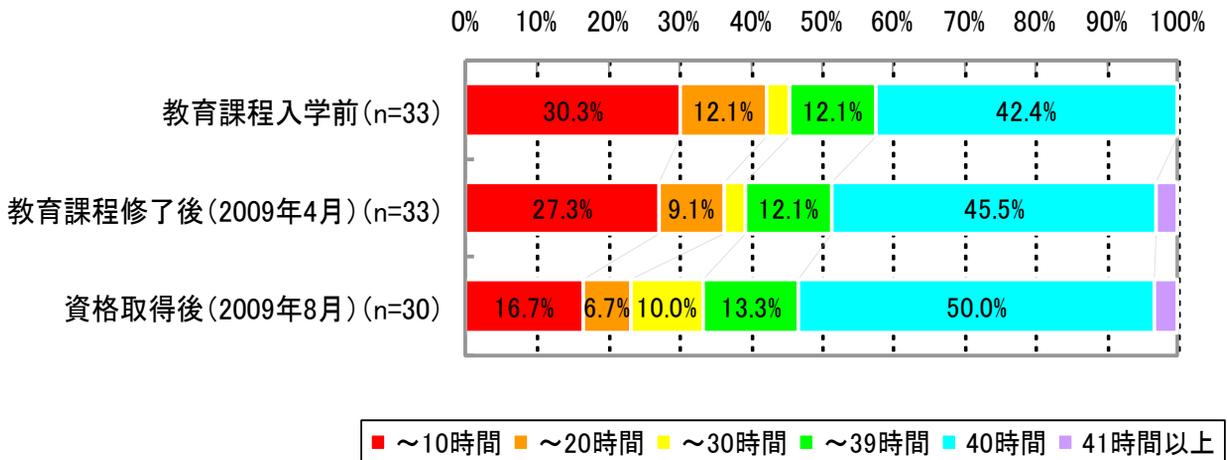
1) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の職位について



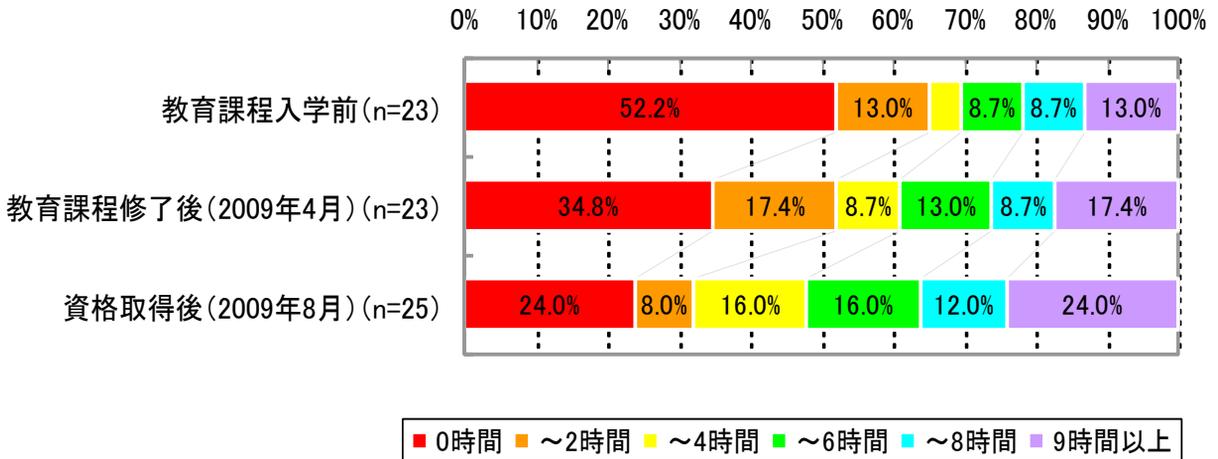
<図136. 認知症看護・資格取得前後の職位の変化>

認定看護師資格取得前後で、認知症看護分野の認定者の職位は、「スタッフ」の割合が78.1%から71.0%に減少し、資格取得後には「師長相当」が約7%、「その他」が約7%となり、増加していた(図136)。

2) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の認定看護分野での
時間内／時間外勤務における実践時間数について



<図137. 認知症看護・資格取得前後の勤務時間内における実践時間数の変化>

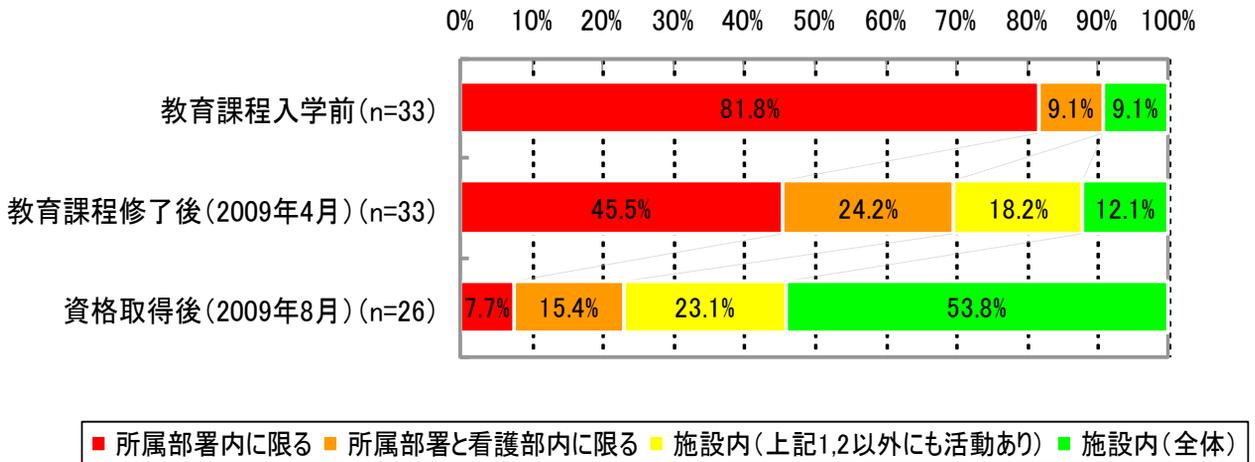


<図138. 認知症看護・資格取得前後の勤務時間外における実践時間数の変化>

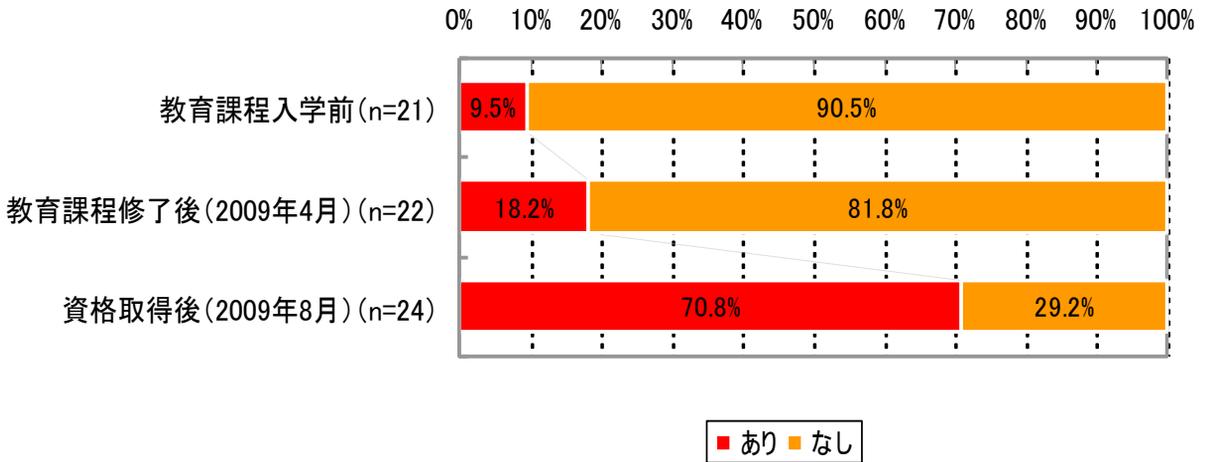
認定看護師教育課程入学前の勤務時間内実践時間数(週単位)は「40時間」が42%であり、次いで「10時間以下」が30%であった。教育課程入学前から資格取得後までの実践時間数を見ると、「20時間以下」が減少し、「40時間」が増加していた(図137)。

勤務時間外における実践時間数は、「2時間まで」が減少し、特に、「9時間以上」が増加していた(図138)。

3) 認定看護師教育課程入学前、修了後、資格取得後の活動範囲について



<図139. 認知症看護・資格取得前後の活動範囲の変化>

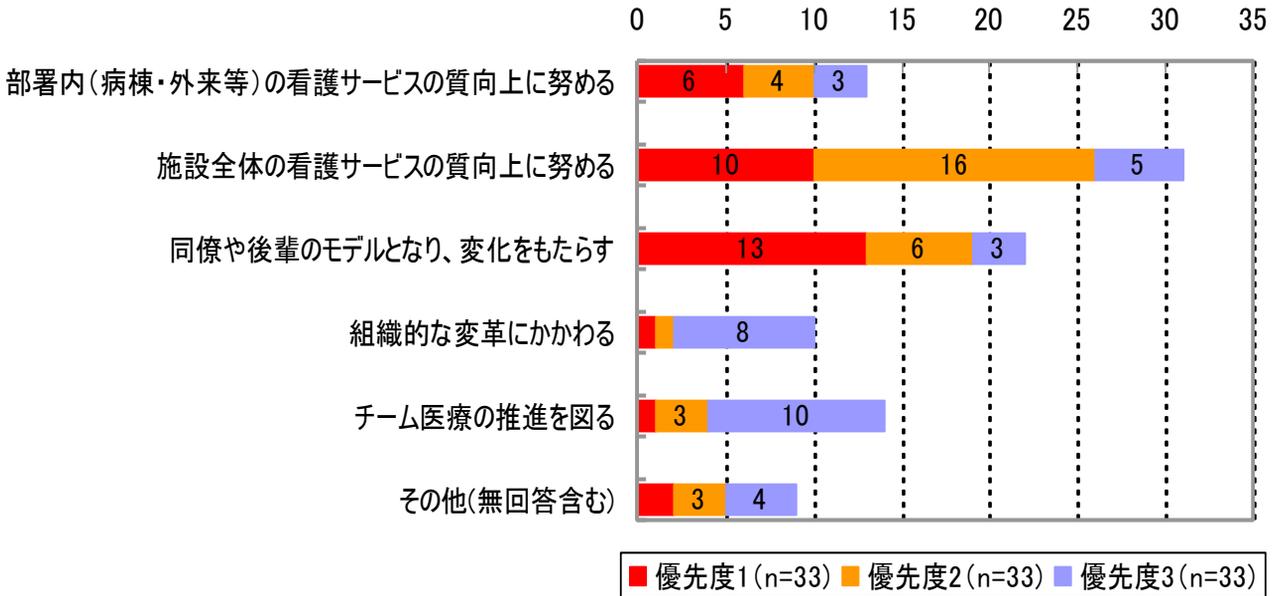


<図140. 認知症看護・資格取得前後の施設外地域活動の変化>

認定看護師教育課程入学前での施設内の活動範囲は、「所属部署内に限る」が81.8%であった。教育課程修了から資格取得後の傾向を見ると、「所属部署内に限る」は7.7%に減少し、活動範囲が拡大していた(図139)。

施設外地域活動の範囲は、「あり」の者が教育課程入学前の9.5%から資格取得後には70.8%に増加していた(図140)。

4) 今後5年間で、力を入れて取り組んでいきたい活動について



<図141. 認知症看護・今後5年間の活動目標>

優先度1～3をあわせて見ると、「施設全体の看護サービスの質向上に努める」が回答総数99名中31名で最も多かった。優先度の一番高い項目では「同僚や後輩のモデルとなり、変化をもたらす」が13名で最も多かった(図141)。